



IVA-D300J

MOBILE MEDIA STATION

RADIO/DVD/MMD/TV/AUX/SETUP

取扱説明書



MP3

MX



お問い合わせはインフォメーションセンターへ

- インフォメーションセンター TEL:048-662-6636
- インフォメーションセンター
西日本分室 TEL:06-6386-2236
- 電話受付時間 土日祝日、弊社休業日を除く9:30~17:30
- 電話は混雑が予想されます。FAXでのお問い合わせをおすすめします。
FAX:048-662-6676
- アルパイン ホームページ <http://www.alpine.co.jp>

アルパイン株式会社

Designed by ALPINE Japan

Printed in Japan (Y-545)

68P70033Y33-A

⚠安全にお使いいただくために

- ご使用の前に、この説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。お読みになった後も、説明書を手元に置いてご使用ください。説明書の指示を守らなかったことによる不具合に対して、当社は責任を負いかねます。
- この説明書は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

分解・改造をしないでください。
事故・火災・感電の原因になります。



禁止

電池・ネジなどの小物類は、幼児の手の届かないところに保管してください。飲み込んだ場合には、ただちに医師と相談してください。



ヒューズ交換は、規定容量（アンペア数）を守ってください。事故・火災の原因になります。



禁止



強制

DC12V マイナスアース車以外に接続しないでください。事故・火災の原因になります。



強制

配線作業の前にはバッテリーのマイナス端子からアース線を外して、配線作業をしてください。感電・ケガの原因になります。



コードの被覆を切って、他の機器の電源を取らないでください。火災・感電の原因になります。



禁止

前方の視界を妨げる場所、ハンドル・変速レバーなど運転操作を妨げる場所、同乗者に危険をおよぼす場所には、取り付けしないでください。事故・ケガの原因になります。



禁止

取り付け・アース接続には、ハンドル・ブレーキ・タンクなどのボルトやナットを使わないでください。制動不能・火災の原因になります。



禁止

音や画面が出ない、異物が入った、煙が出る、変な臭いがしたときには、ただちに使用を中止して、お買い上げ店に相談してください。事故・火災・感電の原因になります。



禁止



強制

運転中は操作をしたり、画面を見たりしないでください。事故・ケガの原因になります。操作や画面を見る場合には、安全な場所に停車してください。



禁止

コード類は運転操作の妨げとならないように束ねてください。ハンドル・変速レバー・ブレーキペダルなどに巻き付くと、事故・故障の原因になります。



車体に穴をあける場合には、パイプ・タンク・電気配線などを傷つけないでください。事故・火災の原因になります。



⚠ 注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

説明書に従って、正しく接続してください。火災・事故の原因になります。



禁止

コードをシートレールにはさんだり、突起部に当てたりしないでください。断線やショートにより、感電・火災の原因になります。



通風孔・放熱板をふさがないでください。火災・故障の原因になります。



禁止

付属部品を指定通りに使い、しっかりと取り付けてください。事故・故障の原因になります。



禁止

水のかかるところ、湿気やホコリの多いところには取り付けしないでください。火災・故障の原因になります。



禁止

取り付け・配線には、専門技術と経験が必要です。お買い上げ店に依頼してください。



車外の音が聞こえる音量でお使いください。事故・故障の原因になります。



車以外には使わないでください。感電・ケガの原因になります。



禁止

ディスク挿入口や可動ディスプレイのすきまには、指や異物を入れないでください。ケガ・故障の原因になります。



禁止

アンテナは車幅・車の前後から、はみ出ない場所に取り付けてください。歩行者などに接触して、事故・ケガの原因になります。



取り扱い上のご注意(共通)

本機の近くでは携帯電話や無線機を使わない
雑音や誤動作の原因になる場合があります。電話や無線機は、本機から離れてご使用になることをお勧めします。

また、リモコンスターターも誤動作の原因になる場合があります。

無理な力を加えない

製品は、精密な部品を用いて精密に組み立てられています。初期の性能を維持するためにやさしく丁寧な取り扱いをお願いいたします。

本機は国内で使う

本機は国内でのみお使いいただけます。外国ではお使いになれません。

製品のお手入れ

お手入れは乾いた布が強く絞った布で拭いてください。ベンジンやシンナーなどの化学薬品は絶対に使わないでください。

極端な温度では使わない

車内の温度が極端に高い(炎天下駐車)ときや低い(厳冬期駐車)ときは、常温になってからお使いください。

結露にご注意

寒い車内を急に暖めると、信号読み取り装置のレンズに露がつき誤動作の原因になります。このようなときは、一時間ほどディスクを取り出しておくことで正常に動作します。

音飛びについて

路面状況の悪いところを走行しているときに音飛びを起こすことがありますが、プレーヤーには影響ありません。車のサスペンションを通常より硬めにしていたり、サスペンションが壊れている場合は、音飛びする頻度が高くなります。

取り扱い上のご注意(ディスク)

- 特殊な形状のディスクは使わない
必ず円形のものをお使いください。円形以外のディスクを使用すると故障の原因になります。
- ディスクのお手入れ
柔らかいきれいな布で中心から外に向かってやさしく拭き取ってください。
- 新品のバリに注意
ディスクの側面やセンターホール面にバリ(突起)があると勝手にイジェクトします。このような場合は、ボールペンなどで縁をなぞって突起を取り除いてください。

モニターのお手入れ

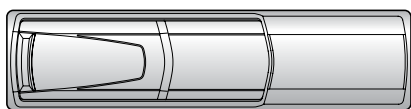
- モニターが汚れたら柔らかい布でふいてください。
- 汚れがひどい場合は水で薄めた中性洗剤を柔らかい布に含ませ、よくしぼってからふきとってください。
- 「水」や「水で薄めた中性洗剤」は直接モニターにかけないでください。液体が内部に入り「シミ」や「故障」の原因になります。
- モニター表面は傷つきやすいため、硬いものでふいたり、こすったりしないでください。
- ベンジン、アルコール、シンナーは使用しないでください。変色、変質の原因になります。

別売のKCA-410C(Versatile Link Terminal) と組み合わせると、チェンジャー2台を接続することができます。



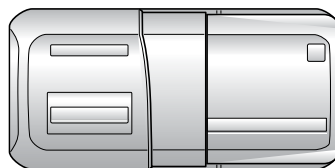
CD も、MD も、お気に入りのアルバムは、アルパインのチェンジャーにスタンバイ！！

CD CHANGER



CHA-S634

MD CHANGER



MHA-S670

車室内にもセットできる超小型サイズのCD6枚チェンジャーが、CD-R/CD-RWの再生、さらにMP3再生にも対応して新登場。人気のMDソースが思う存分楽しめるMDチェンジャーも、大ブレイク。車室内で“いい音”を楽しむ技術にかけては最先端のアルパイン。そのヘッドユニットをセンターに、車や聴きたいソースにあわせて高音質チェンジャーを拡張装備すれば、もっと“いい音”に抱かれる快適ドライブが実現。アルパインのチェンジャーにプラスして、あなたも、感動のノンストップデジタルパワープレイを、どうぞこころゆくまで！

本機で再生できるディスクについて

● 再生できるディスク

本機では次のディスクが再生できます。

	マーク(ロゴ)	記録内容	ディスクの大きさ	最長再生時間
DVDビデオ		音声 + 映像 (動画)	12cm*	片面ディスク 約4時間
				両面ディスク 約8時間
			8cm	片面ディスク 約80分
				両面ディスク 約160分
ビデオCD	 	音声 + 映像 (動画)	12cm	約74分
			8cm	約20分
音楽* CD	 	音声	12cm	約74分
			8cm (CDシングル)	約20分

* DVD二層ディスクに対応しています。

** ディスクレーベル面に「CDロゴ」上記マークの入ったものなどJIS規格に合致したディスクをご使用ください。
CD-R/CD-RWを含む。

● 再生できないディスク

DVD-ROM、DVD-RAM、DVD + R、DVD + RW、CD-ROM (MP3/WMAファイルを除く)、フォトCD、ナビゲーション専用ディスクなど。

CD規格外ディスクを使用された場合には安定した再生や最良な音質の保証は致しかねます。

また、本機は音楽専用機器で録音した音楽専用のCD-R (CD-Recordable) / CD-RW (CD-ReWritable)、MP3/WMAファイル形式のCD-R / CD-RWの再生が可能です。

次のようなディスクは、再生できないことがあります。
指紋やキズが付いている / 車内や製品内に長時間放置した / データ書き込み状態が不安定 / データ書き込みに失敗し再録音した場合など。

MP3/WMAファイルは本機対応のフォーマットで記憶したディスクを使用してください。詳しくは84～85ページを参照してください。

- コンパクトディスク (CD/CD-R/CD-RW) の取り扱い
故障や動作不良を起こさないために次の点を守ってお使いください。

盤面にさわらない / 直射日光下に置かない / ラベルを貼らない / ホコリやごみが付いたら拭きとる / バリが無いことを確認する / 市販のアクセサリを使わない。

特にCD-R/CD-RWは以下の点について十分に注意してください。

車内や製品内に長時間放置しない。特に直射日光下には絶対放置しない。高温多湿の環境に弱いため、ディスクが劣化し再生不能となる場合があります。

- CD-R/CD-RWをご使用のお客様へ
- CD-R/CD-RWが再生できない場合は、クローズセッション (ファイナライズ処理) を行っているかどうか、確認してください。
- 行われていない場合は、クローズセッション (ファイナライズ処理) を行い、再度、お試しください。

- DVD-R/DVD-RWディスクのご使用について
- 本機は、DVD-Videoモードで記録されたディスクのみ対応しております。DVD-VRモードで記録されたディスクの再生はできません。
- ファイナライズ処理 (再生専用DVDプレーヤーで再生可能にするための処理) がされていないディスクは再生できませんのでご注意ください。
- ディスクの書き込みに使用した機器の仕様によっては再生できない場合があります。(本機には違法コピー検出機能を有しております。違法コピーを検出した際は再生を行いません。正しい方式で記録されないPCソフトで記録した場合、本機では違法コピーと検出する場合があります)
- 録画に使用したDVDレコーダやDVD-R/DVD-RWディスクの特性、傷、汚れ、またはDVDプレーヤーのピックアップレンズの汚れ、結露などにより再生できない場合があります。
- DVD-R/DVD-RWディスクの取り扱いにあたっては、ディスクの使用上の注意を必ずお守りください。
- DVD-R/DVD-RWディスクのレーベル面や記録面にシール、シート、テープなどを貼らないでください。
- DVD-R/DVD-RWディスクは通常のDVDに比べ高温多湿環境や直射日光に弱く、一部のディスクや長時間車室内に放置したディスクは再生できない場合があります。

● DVD リージョン番号（再生可能な地域番号）について
このDVDヘッドユニットのリージョン番号は2です。DVDビデオディスクに表示されている地域番号が下記のようなリージョン番号を含んでいないまたは、が表示されていないディスクは再生できません。



● ビデオ CD について

本機は、プレイバックコントロール（PBC）付き対応ビデオCD（バージョン 2.0）に対応しています。

PBCとはディスクに記録されているメニュー画面を見ながら、見たい画面や情報を対話形式で楽しむことができることを言います。

● ディスクに関する用語について

タイトル

DVDビデオディスクに記録されている映像や曲などを区切るいちばん大きな単位です。

チャプター

タイトルの内容を場面や曲ごとにさらに小さく区切った単位です。

本機は、マクロビジョンコーポレーションやその他の権利者が保有する、米国特許権及びその他の知的所有権によって保護された著作権保護技術を搭載しています。この著作権保護技術の使用にはマクロビジョンコーポレーションの許諾が必要であり、マクロビジョンコーポレーションが特別に許諾する場合を除いては、一般家庭その他における限られた視聴用以外に使用してはならないこととされています。改造または分解は禁止されています。

ドルビーラバトリーズからの実施権に基づき製造されています。DOLBY、ドルビー、PRO LOGICおよびダブルD記号はドルビーラバトリーズの商標です。

非公開機密著作物。著作権 1992 - 1997 年

ドルビーラバトリーズ。不許複製。

DTS および DTS 2.0+Digital Out は米国 Digital Theater System, Inc. の登録商標です。

Windows Media™ および Windows® ロゴは、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corporation の商標または登録商標です。

目次

安全にお使いいただくために

警告 / 注意	2
本機で再生できるディスクについて	5
目次	7

基本操作

本体キーの名称	10
リセットする	10
電源の ON/OFF	10
ディスプレイを立ち上げる / 収納する	11
ディスプレイをフラットにする	11
音量を調整する	11
ミュートの ON/OFF	11
画面の見かた	12
タッチスイッチの操作について	12
ソースの呼び出し	12
ショートカット画面	13
10 キー入力画面表示	13
2 画面表示	13

CD 操作

CD (ディスク) を聴く	14
曲順を変えて聴く M.I.X. (ミックス)	14
繰り返し聴く REPEAT (リピート)	14

MP3/WMA 操作

MP3/WMA を聴く	15
フォルダを選択する	15
曲順を変えて聴く M.I.X. (ミックス)	15
繰り返し聴く REPEAT (リピート)	16

DVD / ビデオ CD 操作

DVD/ ビデオ CD を再生する	17
メニュー画面が表示されたら	17
トップメニュー画面を表示する (DVD のみ)	18
メニュー画面を表示する (DVD のみ)	18
メニュー操作モード画面を表示する (DVD のみ)	18
PBC 機能の ON/OFF 設定 (ビデオ CD のみ)	18
再生中止 (PRE STOP)	18
再生停止	18
早送り / 早戻し	19
チャプター / トラックの頭出し	19
静止 (一時停止) する	19
コマ送り再生	19
スローモーション再生	19
タイトル番号で頭出し (DVD のみ)	19
チャプター / トラック番号で直接頭出し	20
チャプター / トラック / タイトルリピート再生	20
音声言語切りかえ	21
アングル切りかえ (DVD のみ)	21

サブタイトル (字幕言語) 切りかえ (DVD のみ)	21
DVD/ ビデオ CD の使用状態を表示する	22

ラジオ操作

ラジオを聴く	23
自動的に放送局を記憶する	23
放送局を記憶する	23
記憶した放送局を受信する	24
ラジオタイトルから探す	24

TV 操作

自動的にチャンネルを記憶する	25
放送局を記憶する	25
記憶した放送局を呼び出す	25
TV タイトルから探す	25
放送局を選ぶ	26

便利な機能

オーディオ調整	27
バランス調整	27
フェダー調整	27
サブウーハーレベル調整	27
NAV. LEVEL 調整	27
DEFEAT の ON/OFF	27
BASS レベル調整	27
バランス / フェダーをダイレクトに調整する	27
道路交通情報を受信する	
TRF (トラフィックインフォメーション)	27
タイトル / テキスト / スクロールとは	28
タイトルをつける	28
ディスクサーチ機能	29
リアエンター機能	30
リモコン受光部を切りかえるには	30
音声はそのまま映像ソースのみを切りかえる	
(サイマル機能)	31
サイマル機能を解除するには	31
表示モードを切りかえる	31
バックライトを OFF にする (BLACK OUT 機能)	32
VISUALIZER の設定	32
Visual Effect の設定	32

モニター設定

モニター設定機能	33
ディスプレイの角度調整	33
ディスプレイ前後方向の調整	33
ディスプレイ自動開閉の設定	33

セットアップ操作

DVD セットアップ	34
言語設定を変更する	34
メニュー言語の設定	34
音声言語の設定	34
字幕言語の設定	35
カントリーコード設定を変更する	35
視聴規制（パレンタルロック）を設定する	35
PARENTAL の規制レベル設定	35
パスワードを変更する	35
デジタル出力設定を変更する	36
TV スクリーン設定を変更する	37
GENERAL セットアップ	38
時計を表示する	38
時刻を設定する	38
デモンストレーション機能	38
操作音の切りかえ	38
スクロールの設定	38
TUNER (FM) 音質の設定	39
音声多重機能を使う（二重音声放送）	39
MP3/WMA 再生データの設定	39
SYSTEM セットアップ	39
外部割り込みモードの設定	40
外部割り込みアイコン表示の設定	40
ナビゲーションモードを設定する	40
ナビゲーション音声の割り込み設定	40
外部拡張 BOX の接続設定	41
VISUALIZER モード表示設定	41
AUX モードを設定する	41
外部入力に表示名をつける	41
外部入力音声レベルの調整	41
外部モニター出力の設定	41
リアカメラの設定	41
VISUAL の設定	42
外部オーディオプロセッサの光デジタル入力切りかえ設定	42
DISPLAY セットアップ	43
バックライトの明るさを設定する	43
バックライトの最低レベルを調整する	43
背景画面を切りかえる（バックグラウンド）	43
オートバックグラウンドの設定	44
フォントタイプの設定	44
フォントバック表示色を切りかえる	44
タッチパネル操作振動の ON/OFF	44
タッチパネルの調整	44

i-Personalize™

Media Xpander 機能	45
MX モードの設定	45
Bass Engine 機能	46
Bass Engine の設定	46
Bass EQ モードを選ぶ（メーカー設定）	46
パラメトリック EQ の調整と記憶 / 呼び出し	46
Bass Focus の調整と記憶 / 呼び出し	47
タイムコレクション（時間補正）について	48
タイムコレクションの調整と記憶 / 呼び出し	49
X-OVER の調整と記憶 / 呼び出し	49
サブウーハーの ON/OFF	49

VISUAL EQ™	50
VISUAL EQ 設定機能	50
VISUAL EQ モードを選ぶ（メーカー設定）	50
映像の明るさを調整する	50
映像の色の濃さを調整する	50
映像の色あいを調整する	50
映像コントラストを調整する	51
映像画質を調整する	51
VISUAL EQ を記憶する	51

Data Download	52
SOUND SETUP ダウンロードについて	52
SOUND SETUP データのダウンロード	52
MY BACKGROUND について	53
MY BACKGROUND データのダウンロード	53

AMP link の設定（オプション）	53
外部アンプの調整と記憶 / 呼び出し（オプション）	53
アンプにタイトルをつけるには	54
外部アンプ状態の表示	54

外部オーディオプロセッサの操作（オプション）	55
ドルビーサラウンドの調整手順	55
スピーカーの設定をする	55
外部オーディオプロセッサの MX モードを設定する	56
X-OVER の調整	57
手動で時間補正を行う（TCR）	57
位相切りかえ	58
グラフィック EQ の調整	58
パラメトリック EQ の調整	59
Bass Sound コントロールの設定	60
Bass Compressor の設定	60
Bass Focus の設定	60
スピーカーセットアップ	61
Dolby 5.1ch を設定する	61
音像を調整する	61
リアに低域音声をミキシングする	62
迫力のある大音量再生を楽しむには	62
スピーカーレベルを調整する	62
DVD レベルを調整する	63
設定した内容を記憶する	63
記憶した内容を呼び出す	63
PRO LOGIC II を使う	64
CENTER WIDTH CONT を選ぶ	64
リニア PCM の設定	64

HDD/MD/MS プレーヤー操作 （オプション）

HDD/MD/ "MG メモリースティック" の曲を聴く	65
------------------------------	----

ナビゲーション画面に切りかえる （オプション）

ナビゲーションモードにする	66
---------------	----

AUX 操作 (オプション)

AUX (外部入力) モードにする	66
-------------------------	----

チェンジャー操作 (オプション)

チェンジャーで CD/MD を聴く	67
-------------------------	----

✂ 取り付けと接続

取り付けと接続	68
---------------	----

その他

用語解説	81
言語コード表	82
DVD について	83
MP3/WMA について	84
周波数帯域と音質について	86
故障かな?と思ったら	87
規格	90
保証について	91
お問い合わせ窓口	92
索引	93

オプションとは?

当社別売の拡張オーディオ製品(チェンジャー、オーディオプロセッサーなど)と組み合わせた場合に、本機から操作することができます。別売製品と組み合わせた際にお読みください。

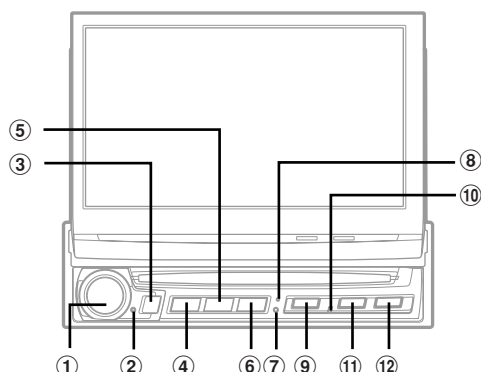
説明ページを検索するために

本書は説明ページを検索するために「索引」を用意しました。「索引」については、93ページ~95ページを参照してください。



基本操作

本体キーの名称



- ① ロータリーエンコーダー
左右に回して音量を調整する。
押すと AUDIO 調整画面を表示する。
- ② アクセスインジケター
操作受け付け時に点滅する（音量調整時は除く）。
- ③ リモコン受光部
別売のリモコンで操作するときリモコン受光部に向けて 2 m 以内で使用する。
- ④ SOURCE/POWER ボタン
電源を ON にする。2 秒以上押しで OFF にする。
ソース選択画面を呼び出す。
- ⑤ BAND ボタン
ラジオ / TV モード（走行時）：バンドを切りかえる。
映像ソース（ナビ画面以外）：表示モード切りかえ
- ⑥ V.SEL/OFF ボタン
VISUAL 選択画面を表示。
2 秒以上押しでサイマル機能解除。
- ⑦ V.SEL インジケター
サイマル動作時に点灯（「音声はそのまま映像ソースのみを切りかえる（サイマル機能）」31 ページ参照）。
- ⑧ リセットスイッチ
初めて使うとき、バッテリーを交換したときや操作ができなくなったときにリセットする。
- ⑨ MUTE ボタン
ミュート ON/OFF を切りかえる。
- ⑩ DISC-IN インジケター
ディスクを挿入すると点灯する。
- ⑪ ▲ ボタン
ディスクを取り出す。

- ⑫ OPEN/CLOSE/FLAT ボタン
ディスプレイの立ち上げ。2 秒以上押しで収納する。
立ち上げたディスプレイをフラット（平ら）にする。

本書での本体スイッチ表示について

- 本体のスイッチを押すときは、「○○○」（「SOURCE/POWER」など）でスイッチ名称を表示しています。

本書でのタッチスイッチ表示について

- タッチスイッチにタッチするときは、[○○○][SRC]などでスイッチ名称を表示しています。
- 本書では、タッチスイッチと本体スイッチが同じ機能をする場合は、タッチスイッチをメインに説明しています。



リセットする

初めて使うときや、チェンジャー等を取り付けたり車のバッテリーを交換したときは、リセットしましょう。

1. 電源が切れているか確認する。入っている場合には、「SOURCE/POWER」を 2 秒以上押しで、電源を切る。
2. リセットスイッチをペン先などで押す。



- リセットすると、時刻など記憶した内容が消去されます。もう一度、登録し直してください。
- ディスプレイが立ち上がっている状態でリセットを行うと、ディスプレイは自動的に収納されます。

電源の ON/OFF

1. イグニッションキー（エンジンキー）を ACC または ON にする。
2. 「SOURCE/POWER」を押す。
システム電源が ON になる。
3. 電源を切るときは、「SOURCE/POWER」を 2 秒以上押す。
システム電源が OFF になる。

**Memo**

- 電源は「」以外のどのスイッチを押しても入ります。
- 動きのない画面を長時間表示させないください。同じ画像を長時間表示しているとその画像が他の画面に残ってしまうことがあります。
- 電源を入れた直後は、画面が暗く見にくいことがあります。数分たちますと正常表示になります。
- 走行中は、一部の操作しかできません。
(SETUP、i-personalizeモード、ディスク/ラジオ/TVにタイトルをつけるときなどの操作は、車を停止させてから行ってください。)
- モニターが閉じた状態でも、別売りモコンからの操作は、ご使用できます(一部操作除く)。

ディスプレイを立ち上げる / 収納する

1. 「OPEN」を押す。
ブザー音3回とともに、ディスプレイが自動的に立ち上がる。
「OPEN(CLOSE)」を2秒以上押す。
ブザー音3回とともにディスプレイが収納する。

**注意**

ディスプレイの開閉は、決して手動では行わないでください。故障の原因になります。

**Memo**

- ディスプレイを立ち上げたときに障害物があったときは、その場で止まります。その時は障害物を取り除き、再度「OPEN」を2秒以上押すとディスプレイは収納されます。
- ディスプレイを手で無理に引っ張ったり押し戻したりしないでください。故障の原因となります。
- ディスプレイ立ち上げ工場出荷時角度は90°です。車種によっては、立ち上げ時にディスプレイ背面が車側にあたる場合がありますので、ご注意ください。次回立ち上げ時からは、調整した角度を記憶します。
「ディスプレイの角度調整」(33ページ)で調整してください。
なお、調節後の角度は、車のバッテリー電源をはずしても記憶しています。

ディスプレイをフラットにする

立ち上げたディスプレイの影になってしまう車側のエアコン操作などをしたいときに便利な機能です。

1. 「OPEN(FLAT)」を押す。
ディスプレイはフラット(平ら)な状態になる。
2. 再度「OPEN(FLAT)」を押すと、ディスプレイの角度はもとに戻る。

**Memo**

- フラット(平らな)動作を開始してから約10秒後にディスプレイはもとの角度に戻ります。
- ディスプレイがFLAT(平らな)状態のときに、ディスプレイの背面に物を置くなど無理な力を加えますと故障の原因となります。

音量を調整する

1. 「ロータリーエンコーダー」を左右に回して、音量を調整する。

VOLUME : 0 ~ 35

**Memo**

- 使用環境によっては、一時的に音量が下がる場合がありますが故障ではありません。
- 製品を長い時間使用していると、製品は徐々に熱くなってきます。温度上昇は異常ではありませんが、煙が出たり変な臭いがした場合は直ちに使用を中止し、お買い上げ店または、サービスセンターにご相談ください。

ミュートのON/OFF

1. 「MUTE」を押す。
瞬時に音量が下がる。
2. 解除するには、再度「MUTE」を押す。

画面の見かた

タッチスイッチの操作について

本機は、PULSETOUCH™ 機能を備えております。

PULSETOUCH™機能とは...?

- 本機のディスプレイパネルをタッチすると、ディスプレイパネル表面が振動し指先に伝われます。ディスプレイパネルをタッチしたときのクリック感やキーエリア認識をより高めた機能です。



- ディスプレイ保護のため、タッチスイッチは指の腹で軽くタッチしてください。
- スwitchの反応がないときは、一度画面から手を離してから再度タッチしてください。

本書でのタッチスイッチ表示について

- タッチスイッチにタッチするときは、[○ ○ ○] [SRC]などでスイッチ名称を表示しています。

本書での本体スイッチ表示について

- 本体のスイッチを押すときは、「○○○○」(「SOURCE/POWER」など)でスイッチ名称を表示しています。
- 本書では、タッチスイッチと本体スイッチが同じ機能をする場合は、タッチスイッチをメインに説明しています。



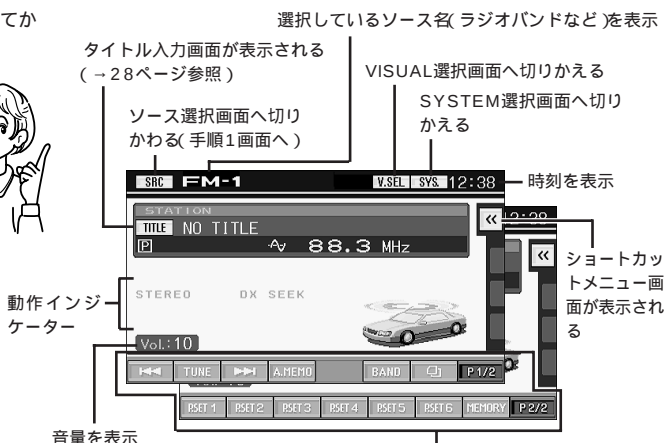
Memo

- 別売のDVDプレイヤーまたはDVDチェンジャーと接続した場合[AUX1]は、[EXT. DVD]または[DVD CHG]と表示します。
- 別売のDVDプレイヤーとDVDチェンジャーが両方接続している場合は、[AUX1]が[EXT. DVD]、[AUX2]が[DVD CHG]と表示します。(別売拡張BOX VPE-S431接続時)
- [SETUP]と[i-personalize]の選択は、車を停止させてから行ってください。

2. [RADIO] にタッチする。

ラジオモードメイン画面に切りかわる。

< ラジオモードメイン画面表示例 >



ファンクションガイド:

各ソースによって、ファンクションガイドの表示は異なります。[P1/2]*または[P1/3]*をタッチすると、ファンクションガイドの内容が切りかわり、さらに多くの操作が可能になります。

* 接続する製品によって表示が異なる場合があります。

ソースの呼び出し

ここでは、ラジオモード画面の移りかわりを例にソースの呼び出ししかたを説明します。

1. 表示されているメイン画面の[SRC]にタッチする。
ソース選択画面が表示される。

< ソース選択画面表示例 >

メインソース画面へ切りかわる



選択できるソースモードが表示される。

(接続、各設定により表示されるソースモードの種類は異なります)

3. 他のソースに移るときはメインソース画面の [SRC] にタッチする。

- VISUAL選択画面に移るときは、[V.SEL]にタッチする。
- SYSTEM選択画面に移るときは、[SYS.]をタッチする。

映像モードのとき、各操作から5秒経過すると、映像のみの画面に切りかわります。ソース選択画面を表示させるには、ディスプレイパネルにタッチし、表示された[MAIN CONT.]にタッチします。切りかわったメインソース画面の[SRC]にタッチすると、ソース選択画面に切りかわります。



ショートカット画面

各メインソース画面にMedia Xpander、Bass MAX EQ、Visual EQやDOLBY PLIIのセットアップがショートカット画面に表示され、ダイレクトに設定することができます。

1. メインソース画面右端の[<<]にタッチする。
ショートカットメニュー画面が表示される（DEFEAT OFF 時に表示される）。
設定したいメニューにタッチする。

MX (Media Xpander):

現在表示されている音声ソースのMX モードが設定できる。

Bass Max EQ: お好みのモードが設定できる。(外部オーディオプロセッサ接続時は、本機能の設定はできません。オーディオプロセッサ側で設定を行ってください。)

Visual EQ: 映像ソースモード時に設定できる。

DOLBY PLII: 外部オーディオプロセッサ接続時に表示される。

<ショートカット画面表示例>



各モードをタッチすると各セットアップ画面が表示される

<セットアップ画面表示例>

[>>]をタッチすると、ショートカットメニュー画面は閉じる



操作キーをタッチしてお好みで設定する

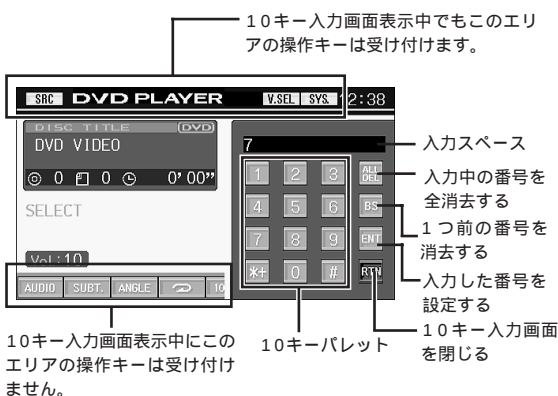
別なモードにタッチすると、タッチしたモードのセットアップ画面に切りかわる

10 キー入力画面表示

DVD モード時のタイトル、チャプターなどの頭出しや、DVDセットアップ項目の国コードや暗証番号入力などで使う場合に、10 キー入力画面が表示されます。

1. 各メインソース画面上の[10KEY]にタッチする。
2. 希望の数字にタッチする。

<10 キー入力画面表示例>



3. [ENT] にタッチして設定する。

2 画面表示

メインソース画面上に接続している AMP Link 対応の外部アンプを 2 画面表示させることができます。

1. 各メインソース画面上の[V.SEL]にタッチする。
VISUAL 選択画面が表示される。
2. [DUAL SCREEN] にタッチする。
メインソース画面に戻り、2 画面表示になる。

<2 画面表示例>



接続しているアンプ表示を切りかえる。

3. 2 画面表示を解除するには、[V.SEL] にタッチする。
VISUAL 選択画面に切りかわる。
4. [NORMAL] にタッチする。
通常画面に戻る。

< CD メイン画面表示例 >



- ① [SRC]スイッチ：12ページ参照
 - ② [TITLE]スイッチ：28ページ参照
 - ③ [V.SEL] スイッチ：VISUAL選択画面を表示します。
 - ④ [SYS.] スイッチ：SYSTEM選択画面を表示します。
 - ⑤ [◀◀]スイッチ：13ページ参照
 - ⑥ [▶▶]スイッチ：29ページ参照
- A 上段にトラックテキスト*1を表示します。
下段には、入力したタイトルを表示します。タイトルがないときは、ディスクテキスト*1を表示します。
- B トラックNo./ディスクNo.*2/演奏経過時間を表示します。
- *1：CDテキスト挿入時
*2：CDチェンジャー接続時のみ

CD 操作

CD (ディスク) を聴く

- 1 ラベル面を上にしてディスクを挿入する。
演奏が始まる。



- すでにディスクが入っているときは、ソース選択画面で [DVD PLAYER] にタッチすると、DVD PLAYER モードになり、演奏が始まります。
- 当社のCDプレイヤー、CDチェンジャーを接続した場合、本機から操作することができます。(CDチェンジャーを使つてのディスクの選びかたは67ページに記載しています。)
- 別売のCDプレイヤーを接続している場合は、CDプレイヤー側にディスクを挿入すると演奏が始まります。
- シングルCD(8cm CD)はそのまま使用できますので、アダプター無しで挿入してください。
- ディスクによっては、演奏が始まるまで時間がかかる場合があります。

- 2 「ロータリーエンコーダー」を回して、音量(0~35)を調整する。

- 3 [◀◀] または [▶▶] にタッチして、聞きたい曲を選ぶ。

- 演奏中の曲の頭出し [◀◀] にタッチする。
- 早戻し [◀◀] にタッチし続ける。
- 次の曲の頭出し [▶▶] にタッチする。
- 早送り [▶▶] にタッチし続ける。

- 4 演奏を一時中止するには [▶/||] にタッチする。
再度 [▶/||] にタッチすると、演奏が始まる。

- 5 ディスクを取り出すときは、「▲」を押す。
ディスクは必ず取り出す。



- 早送り/早戻し中は、音声は出力されません。

曲順を変えて聴く M.I.X. (ミックス)

曲を順不同に演奏させることができます。

- 1 [∞] にタッチして、< M.I.X. インジケーター > を点灯させる。
順不同に曲を演奏する。



(*M.I.X. ALL 対応チェンジャーモード時)

- 2 解除するには、再度 [∞] にタッチする。



- チェンジャー接続時
- 「M.I.X.」を指定すれば、ディスクの曲を順不同に全曲演奏し、次のディスクへと移動していきます。
- 「M.I.X. ALL」を指定すれば、1曲ずつディスクをかえながら演奏します。(M.I.X. ALL 対応チェンジャーのみ)
- M.I.X. 演奏中に、1曲リピートはできません。

繰り返し聴く REPEAT (リピート)

気に入った曲や覚えたい曲を繰り返し演奏させることができます。

- 1 演奏中に、[↺] にタッチして、< RPT インジケーター > を点灯させる。
選んだ曲を繰り返し演奏する。



(*チェンジャーモード時)

- 2 解除するときは、再度 [↺] にタッチする。

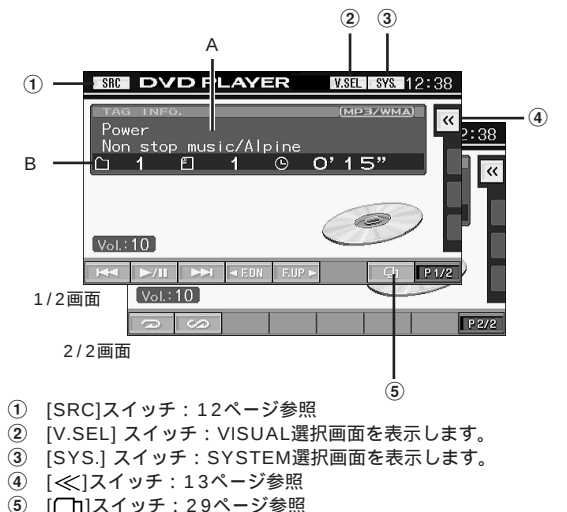


- チェンジャー接続時
- 「RPT ALL」を指定すれば、そのディスクを繰り返し演奏させることができます。
- M.I.X. 演奏中に、1曲リピートはできません。

- [🔍] にタッチすると、サーチモードになります。操作については、「ディスクサーチ機能(29ページ)をご覧ください。」



< MP3/WMA 画面表示例 >



- ① [SRC]スイッチ：12ページ参照
 ② [V.SEL] スイッチ：VISUAL選択画面を表示します。
 ③ [SYS.] スイッチ：SYSTEM選択画面を表示します。
 ④ [<<]スイッチ：13ページ参照
 ⑤ []スイッチ：29ページ参照
- A 上段にファイル名を表示後、ID3タグ情報があれば曲名を表示します。
 下段には、フォルダ名表示後、ID3タグ情報があればアーティスト名/アルバム名が表示されます。
 B フォルダNo./ファイルNo./ディスクNo.*1/演奏経過時間を表示します。

*1：MP3対応CDチェンジャー接続時のみ

MP3/WMA 操作

MP3/WMA を聴く

本機で再生できる MP3/WMA は、本機対応のフォーマットで記録されたディスクのみです。詳しくは、「MP3/WMA について」(84～85ページ)を参照してください。なお、WMA 形式の DRM (著作権保護機能 Digital Rights Management) は本機では再生できません。

- 1** MP3/WMAファイルが収録されたディスクをラベル面を上にして挿入する。
 MP3/WMA ファイルを検索し、演奏が始まる。
 MP3/WMAのディスクは、演奏が始まるまで時間がかかる場合があります。



- すでにディスクが入っているときは、ソース選択画面で [DVD PLAYER] にタッチすると、DVD PLAYERモードになり演奏が始まります。

- 2** 「ロータリーエンコーダー」を回転させて、音量(0～35)を調整する。
- 3** [] または [] にタッチして、聴きたい曲(ファイル)を選ぶ。
- 演奏中の曲の頭出し [] にタッチする。
 - 早戻し [] にタッチし続ける。
 - 次の曲の頭出し [] にタッチする。
 - 早送り [] にタッチし続ける。

- 4** 演奏を一時停止するときは、[] にタッチする。
 再度 [] にタッチすると、演奏が再開する。

- 5** ディスクを取り出すときは、「▲」を押す。
 ディスクは必ず取り出す。



Memo

- 本機でMP3/WMA再生時は、ディスプレイ右上に「MP3/WMA」と表示します。
- 本機はCDオーディオデータとMP3/WMAデータが混在するディスクでも再生が可能です。
- CDオーディオデータ再生時のトラック表示はディスクに記憶されているトラック番号になります。
- 作成したライティングソフト/MP3変換ソフトによっては、再生できない場合があります。その際は他のソフトでお試ください。
- 「MP3/WMA再生データの設定」は39ページに記載しています。
- 早戻し操作は、現在聴いている曲(ファイル)内の早戻しになります。
- 早送り/早戻し中は、音声は出力されません。

フォルダを選択する

- 1** [F. DN] または [F. UP] にタッチして、前後のフォルダを選ぶ。

曲順を変えて聴く M.I.X. (ミックス)

曲を順不同に演奏させることができます。

- 1** [P1/2]* にタッチする。
 ファンクションガイドが切りかわる。
- * 接続する製品によって表示が異なる場合があります。
- 2** [] にタッチして、< M.I.X. インジケーター > を点灯させる。
 順不同に曲を演奏する。



- M.I.X. FLDR：フォルダ内のみを対象に順不同に演奏する。
- M.I.X.：ディスク内の曲を順不同に演奏する。
 チェンジャーモード時はディスク内の曲を順不同に全曲演奏し、次のディスクへと移動していく。

- 3** 解除するには、再度 [] にタッチする。



Memo

- チェンジャーモード時 M.I.X.演奏中に、1曲リビートはできません。

繰り返し聴く REPEAT (リピート)

気に入った曲や覚えたい曲を繰り返し演奏させることができます。

- 1 [P1/2]* にタッチする。
ファンクションガイドが切りかわる。

* 接続する製品によって表示が異なる場合があります。

- 2 演奏中に、[] にタッチして、< RPT インジケータ > を点灯させる。
選んだ曲を繰り返し演奏する。



(*チェンジャーモード時)

RPT: 1 曲のみを繰り返し演奏する。

RPT FLDR: フォルダ内の曲のみを対象に繰り返し演奏する。

RPT ALL: そのディスクを繰り返し演奏する。

- 3 解除するときは、再度 [] にタッチする。

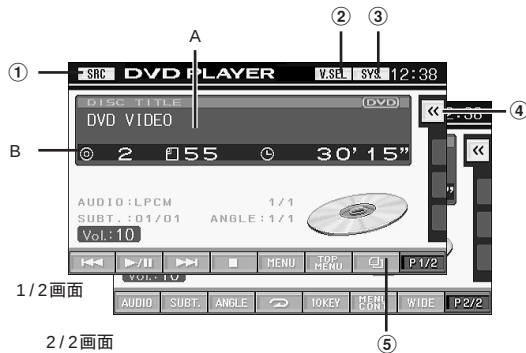


- チェンジャーモード時
M.I.X. 演奏中に、1 曲リピートはできません。

- [] にタッチすると、サーチモードになります。
操作については、「ディスクサーチ機能」(29ページ)をご覧ください。
- 混在ディスクを再生するには:
オーディオデータ、MP3/WMAデータ、JPEGデータが含まれているディスクの場合、PLAY MODEの設定を「CD」にすれば、オーディオデータのみが再生され、「MP3」に設定すれば、MP3/WMAデータのみを再生することができます。ただし、オーディオデータとJPEGデータのみが含まれているディスクの場合は、PLAY MODEの設定を「CD」に設定すればオーディオデータは再生されますが、誤って「MP3」に設定してしまった場合、「ERROR-JPEG ON DISC」と表示され再生はできません。



< DVD メイン画面表示例 >



- 1/2画面
2/2画面
- ① [SRC]スイッチ：12ページ参照
 - ② [V.SEL] スイッチ：VISUAL選択画面を表示します。
 - ③ [SYS.] スイッチ：SYSTEM選択画面を表示します。
 - ④ [◀◀]スイッチ：13ページ参照
 - ⑤ [▶▶]スイッチ：29ページ参照
 - A ビデオCDのみ入力したタイトルを表示します。
 - B DVDはタイトルNo./チャプターNo./チャプター再生時間を表示します。ビデオCDはトラックNo./トラック再生時間を表示します。

・ ディスクや再生画面によっては、操作できない場合があります。

DVD / ビデオ CD 操作

・ プレイポジションメモリ機能:

再生中に電源またはイグニッションキーをOFFにしたり、ソースを切りかえても次に電源をONすると続きから再生します。

DVD/ ビデオ CD を再生する



- 注意**
- ・ DVDの場合、ディスクによって各種操作を禁止しているものもあり、これらのディスクでは操作を受け付けられない場合があります。
 - ・ ディスクによっては本書で説明している操作とは異なる場合があります。ディスクの説明書もあわせてご覧ください。
 - ・ ディスクに指紋が付くと再生しない場合があります。再生しない場合は、ディスクを取り出し、きれいにふき取ってからご使用ください。
 - ・ 再生中に電源またはイグニッションキーをOFFにしたり、ソースを切りかえたりしても、次に電源をONすると続きから再生します。ディスクを切りかえた場合はプレイポジションメモリは解除されます。
 - ・ ディスクまたは再生状態によっては、その操作を受け付けられない場合があります。その時はモニター画面に ⊗ マークを表示します。
 - ・ ナビゲーション用の地図ディスクは、絶対に挿入しないでください。故障の原因になります。

1 文字やイラストが書いてある面を上にしてディスクを挿入する。
再生が始まる。

2 ディスクを取り出すときは、「▲」を押す。
ディスクは必ず取り出す。

DVD/ビデオCDモードのとき、各操作から5秒経過すると、操作画面からDVD/ビデオCD画面に切りかわります。再度、操作画面を表示させるには、ディスプレイパネルにタッチしてください。

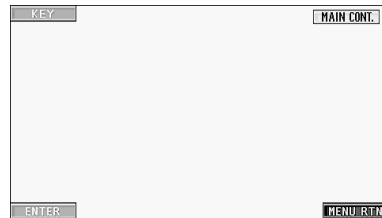


- ・ 両面ディスクのDVDは、自動でウラ面を再生しません。ディスクを取り出しウラ返しに入れ直してください。
- ・ PBQ(プレイバックコントロール)付きビデオCD再生中に▶(再生マーク)が表示された場合は[▶/II]を2秒以上タッチすると再生されます。
- ・ 別売のDVD/ビデオCD/CDプレイヤーまたは、DVDチェンジャー製品と接続した場合、本機から操作ができません(一部操作除く)。また、ファンクションガイドの[P1/2]などの表示は、接続する製品によって異なる場合があります。
- ・ 「DVDセットアップ」項目(34～37ページ)もあわせてご覧ください。
- ・ DVDチェンジャーまたはDVDプレイヤーと組み合わせたときには、本機側のリモート出力コードと組み合わせる側のリモート入力コードを必ず接続してください。接続しないと正常にタッチ操作ができません。
- ・ ビデオCD再生時に、1つ前の画面に戻るときは、ファンクションガイドの[P1/2]にタッチ後、[◀]にタッチする。但し、ディスクによっては異なる動作になります。

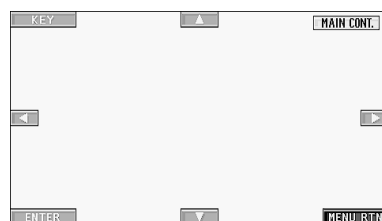
メニュー画面が表示されたら

DVDやプレイバックコントロール(PBC)付きビデオCDでは、自動的にメニュー画面が表示される場合があります。この時は次の操作を行い再生させてください。

- ① ダイレクトメニュー操作 (DVDのみ)
DVDメニュー項目に直接タッチする。
・ ディスクによっては操作できない場合があります。
- ② メニュー操作 (DVDのみ)



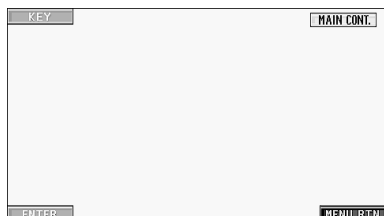
1. [KEY]にタッチする。
メニュー操作モードが表示される。



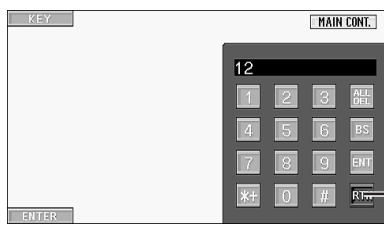
(次ページへつづく)

2. [▲]、[▼]、[◀]、[▶]にタッチして、メニュー項目を選ぶ。
3. [ENTER]にタッチして選んだ項目を決定する。

③ 10 キー入力操作 (DVD)



1. [KEY]にタッチする。
メニュー操作モードが表示される。
2. 再度[KEY]にタッチする。
10 キー入力モード画面が表示される。



[RTN]にタッチすると10キー入力画面は閉じる。

3. 希望の数字にタッチして入力する。
4. 10 キー入力モードの[ENT]にタッチして決定する。

③ 10 キー入力操作 (ビデオ CD)

PBCがOFFになっている場合は、メニュー画面は表示されません。その場合はPBCをONにしてください。(「PBC機能のON/OFF設定」(18ページ)参照)

1. ビデオCDモード時、[P1/2]にタッチする。
ファンクションガイドが切りかわる。
2. [10KEY]にタッチする。
10 キー入力画面が表示される。
3. 希望の数字にタッチして入力する。
4. [ENT]にタッチして決定する。

トップメニュー画面を表示する (DVDのみ)

複数のタイトルを持つDVDビデオでは、トップメニュー画面が表示されます。

- 1 DVDモードメイン画面上の[TOP MENU]にタッチする。
トップメニュー画面が表示される。
→ 「メニュー画面が表示されたら」(17～18ページ)を参照して操作を行う。

メニュー画面を表示する (DVDのみ)

複数のメニューを持つDVDでは、本編以外にチャプターリストや特典映像が選択できるメニュー画面が表示されます。

- 1 DVDモードメイン画面上の[MENU]にタッチする。
メニュー画面が表示される。
→ 「メニュー画面が表示されたら」(17～18ページ)を参照して操作を行う。

メニュー操作モード画面を表示する (DVDのみ)

- 1 DVDモードメイン画面上の[P1/2]にタッチする。
ファンクションガイドが切りかわる。
- 2 [MENU CONT]にタッチする。
メニュー操作モード画面に切りかわる。
→ 各操作については、「メニュー画面が表示されたら」(17～18ページ)を参照。

PBC機能のON/OFF設定 (ビデオCDのみ)

PBC(プレイバックコントロール)付きビデオCDのON/OFF設定の切りかえをします。

- 1 ビデオCDモードメイン画面上の[PBC]にタッチする。
タッチするたびにON/OFF設定が切りかわる。

再生中止(PRE STOP)

再生中に停止ボタンを押すと止まり、その位置を記憶します。

- 1 再生中に[■]をタッチする。
「PRE STOP」と表示される。
- 2 PRE STOP中に[▶/II]をタッチする。
再生中止した位置から再生される。



- ディスクによってはPRE STOPしたとき、再生中止位置を正しく記憶できない場合があります。

再生停止

- 1 再生中に[■]を2回タッチする。または[■]を2秒以上タッチする。
「STOP」と表示される。



- 停止中に[▶/II]をタッチすると始めから再生されます。

早送り / 早戻し

- 1 再生中に[◀◀] (早戻し) または[▶▶] (早送り) をタッチし続けると、2 倍速早送り / 早戻しになり、さらにその状態で 5 秒以上タッチし続けると 8 倍速で早送り / 早戻しができる。
- 2 通常再生に戻すには[◀◀] または[▶▶] から指をはなす。



- 早送り / 早戻し中は音声と字幕は再生されません。但し、字幕についてはディスクにより表示される場合があります。
- DVD 及びプレイバックコントロール (PBC) 付きビデオ CD では早送り / 早戻し中にメニュー画面に戻ることがあります。

チャプター / トラックの頭出し

- 1 再生中に[◀◀] または[▶▶] をタッチする。
タッチするたびにチャプター / トラックが切りかわる。
選んだチャプター / トラックの再生が始まる。
- ▶▶ 一つ後のチャプター / トラックの頭から再生。
◀◀ 現在のチャプター / トラックの頭から再生。



- DVD によっては、チャプターがないものもあります。

補足説明

チャプターとは、DVD に記憶されている映像や曲の区切り。
トラックとは、ビデオ CD や CD に記憶されている映像や曲の区切り (1 曲分)。

静止 (一時停止) する

- 1 再生中に[▶/||] をタッチする。
- 2 再度、再生するには[▶/||] をタッチする。



- 静止中は音声は再生されません。
- 一時静止画 (ポーズ) の状態から再生を開始すると画像や音声が一瞬止まる場合がありますが故障ではありません。

コマ送り再生

- 1 一時停止中に[▶▶] をタッチする。
タッチするたびに 1 コマずつコマ送り再生する。
- 2 通常再生に戻すには[▶/||] をタッチする。



- コマ送り再生中は音声は再生されません。

スローモーション再生

- 1 一時停止中に[▶▶] をタッチし続けると、1/8 倍速でスローモーション再生になる。さらにその状態で 5 秒タッチし続けると 1/2 倍速にスローモーションの速度が変わる。
- 2 [▶▶] から指をはなすと一時停止になるので、[▶/||] をタッチして再生させる。



- スローモーション再生中は音声は再生されません。
- スライドショーを再生中はスロー再生はできません。
- 1/2 倍速、1/8 倍速はおおよその速さです。ディスクによっても異なります。
- バックスローモーション再生はできません。

タイトル番号で頭出し (DVD のみ)

DVD に記憶されているタイトルから簡単に頭出しできます。

- 1 再生停止中に[P1/2] をタッチする。
ファンクションガイドが切りかわる。
- 2 [10KEY] にタッチする。
10 キー入力モード画面が表示される。
- 3 再生させたいタイトル番号にタッチして入力する。
→ 10 キー入力操作については (18 ページ) 参照。
- 4 [ENT] にタッチして決定する。
選んだタイトル番号から再生が始まる。



- PRE STOP の状態ではチャプター / トラック番号の頭出しになります。
- タイトル番号が記憶されていないディスクでは頭出しはできません。

チャプター / トラック番号で直接頭出し

ディスクに記憶されているチャプター / トラックを簡単に頭出しできます。

- 1 再生停止時以外のときに、[P1/2]にタッチする。
ファンクションガイドが切りかわる。
- 2 [10KEY]にタッチする。
10 キー入力モード画面が表示される。
- 3 再生させたいチャプターまたはトラック番号にタッチして入力する。
→ 10 キー入力操作については (18 ページ) 参照。
- 4 [ENT]にタッチして決定する。
選んだチャプターまたはトラックから再生が始まる。



Memo

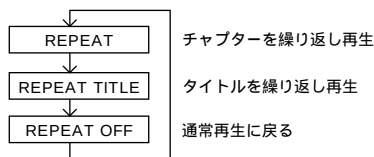
- チャプターやトラックが記憶されていないディスクでは頭出しはできません。
- PBC(プレイバックコントロール)付きビデオCDでは、トラック番号の直接頭出しは使用できません。PBCをOFFにしてから操作してください。(「PBC機能のON/OFF設定」(18 ページ) 参照)

チャプター / トラック / タイトル リピート再生

ディスクのタイトルやチャプター、トラックを選び繰り返し再生できます。

DVD

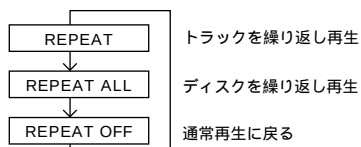
- 1 再生中に[P1/2]をタッチする。
ファンクションガイドが切りかわる。
- 2 [] をタッチする。
タッチすることによりリピートの種類が変わる。



・ 接続する製品によって表示が異なる場合があります。

ビデオ CD

- 1 再生中に[P1/2]をタッチする。
ファンクションガイドが切りかわる。
- 2 再生中に [] をタッチする。
タッチすることによりリピートの種類が変わる。



・ 接続する製品によって表示が異なる場合があります。



Memo

- PBC(プレイバックコントロール)付きビデオCDではトラックリピート / ディスクリピートは使用できません。PBCをOFFにしてから行ってください。(「PBC機能のON/OFF設定」(18 ページ) 参照)
- ディスクによってはリピートの種類が切りかえられない場合があります。
- DVDチェンジャー / DVDプレイヤー接続時には、手順1の操作は必要ありません。

音声言語切りかえ

複数の音声または音声言語が記録されているDVDでは、再生中に音声言語を切りかえることができます。

- 1 再生中に[P1/2]にタッチする。
ファンクションガイドが切りかわる。
- 2 [AUDIO]にタッチする。
タッチするごとにディスクに記録されている音声の切りかわる。



- 電源投入時 / ディスク交換時は初期設定で設定されている言語になります。その言語がディスクにないときは、ディスクで決められている言語になります。
- ディスクによっては再生中の切りかえができない場合があります。そのときはディスクメニューから音声を選んでください。
- 音声変更まで多少時間がかかる場合があります。

- 多重音声記録されているビデオ CD

- 1 再生中に[P1/2]にタッチする。
ファンクションガイドが切りかわる。
- 2 [AUDIO]にタッチする。
タッチするごとにLチャンネル、Rチャンネル音声の組み合わせが変わる。

→ AUDIO L/L → AUDIO R/R → AUDIO L/R

アングル切りかえ (DVDのみ)

複数のアングルで撮影された映像が記録されているDVDでは、再生中にアングル(角度)を切りかえることができます。

- 1 再生中に[P1/2]をタッチする。
ファンクションガイドが切りかわる。
- 2 [ANGLE]にタッチする。
タッチするごとにディスクに記録されているアングルが切りかわる。



- アングル変更までに多少時間がかかる場合があります。
- ディスクによって異なりますがアングル切りかえには2種類あります。
 - ・シームレス: つぎめなくスムーズにアングルが切りかわる。
 - ・ノンシームレス: アングル切りかえ時、一瞬静止画となりその後アングルが切りかわる。

サブタイトル(字幕言語)切りかえ (DVDのみ)

複数の字幕言語が記録されているDVDでは、再生中に字幕言語の切りかえや非表示にすることができます。

- 1 再生中に[P1/2]をタッチする。
ファンクションガイドが切りかわる。
- 2 [SUBT.]にタッチする。
タッチするごとにディスクに記録されている字幕言語が切りかわる。また字幕をOFFにする。



- 字幕言語変更までに多少時間がかかる場合があります。
- ディスクによっては再生中の切りかえができない場合があります。そのときはディスクメニューから選んでください。
- 電源投入時 / ディスク交換時は初期設定で設定されている言語になります。その言語がディスクにないときは、ディスクで決められている言語になります。
- ディスクによってはOFFに設定しても、サブタイトルが表示される場合があります。

● ディスクメニューからの切りかえ
ディスクによって異なりますが、音声言語、アングル、サブタイトルをディスクメニューから切りかえることができます。

- 1 [MENU]または[TOP MENU]にタッチして、メニューを表示させる。
- 2 項目を選び、設定する。
(「メニュー画面が表示されたら」(17~18ページ参照))

- [WIDE]にタッチすると、表示モードが切りかわります。操作については「表示モードを切りかえる」(31ページ)をご覧ください。



DVD/ ビデオ CD の使用状態を表示する

再生中の DVD ビデオディスクの状態（タイトル番号、チャプター番号など）または再生中のビデオ CD の状態（トラック番号など）を画面に表示して確認することができます。

- 1** 再生中に、画面にタッチする。
操作メニュー画面が表示される。
- 2** 5 秒以内に[MAIN CONT.]にタッチする。
5 秒間、再生状態が表示される。

<ラジオメイン画面表示例>



- ① [SRC]スイッチ：12ページ参照
 ② [TITLE]スイッチ：28ページ参照
 ③ [V.SEL] スイッチ：VISUAL選択画面を表示します。
 ④ [SYS.] スイッチ：SYSTEM選択画面を表示します。
 ⑤ [◀]スイッチ：13ページ参照
 A 入力したラジオ放送局タイトルを表示します。
 B プリセットNo. / 周波数を表示します。

ラジオ操作

ラジオを聴く

- ① メインソース画面上の[SRC]にタッチする。
ソース選択画面が表示される。
- ② [RADIO]にタッチする。
ラジオモードメイン画面に切りかわる。
ラジオモードにするとアンテナが伸びる。(パワーアンテナ装着車のみ)

- ③ [BAND]にタッチして、バンドを選ぶ。

→ FM-1 → FM-2 → AM →

- ④ [TUNE]にタッチしてチューニングモードを選ぶ。
[TUNE]をタッチするごとに[◀▶]、[▶▶]表示がかわる。



- ⑤ [◀▶] (または ◀▶), [▶▶] (または ▶▶) にタッチして、聴きたい放送局 (周波数) をさがす。
また、タッチし続けると連続で変化します。



- 初期設定はディスタンスモードに設定されています。
- ディスタンスモードのとき
受信可能な放送局を自動的に受信します。(自動選局)
- ローカルモードのとき
電波の強い放送局だけを自動的に受信します。(自動選局)
- マニュアルモードのとき
1段階ずつ周波数がかわります。(手動選局)
- ディスプレイに<STEREOインジケーター>が点灯しているときは、FMステレオ放送が受信されています。(AMステレオ放送は常にモノラルで受信します。)

自動的に放送局を記憶する

- ① お好みのバンドを選択後、[A.MEMO]にタッチする。
電波の強い順に6つの放送局が自動的に受信されて*プリセットキー1[P.SET1] ~ 6[P.SET6]に記憶される。
記憶が終わるとプリセット1[P.SET1]に記憶されている放送局が受信される。
* [P1/2]にタッチして、ファンクションガイド表示を切りかえると、[P.SET1] ~ [P.SET6]が表示される。



- 放送局を1つも受信できなかったときは、操作の直前に受信していた放送局が受信されます。

放送局を記憶する

- ① 記憶させたい放送局を選んだあと、[P1/2]にタッチする。
ファンクションガイドが切りかわる。
- ② [MEMORY]にタッチする。
- ③ 5秒以内に、プリセットキー[P.SET1] ~ [P.SET6]のいずれかにタッチする。
タッチしたプリセットキーに放送局が記憶される。



- 放送局は18局まで記憶できます。
FM1...6局、FM2...6局、AM...6局
- すでに記憶されているプリセットキーに記憶させると、後から記憶させた放送局が有効になります。

記憶した放送局を受信する

- 1 お好みのバンドを選択後、[P1/2]にタッチする。
ファンクションガイドの内容が切りかわる。
- 2 記憶させた放送局の[P.SET1]～[P.SET6]のいずれかにタッチする。
選択した放送局が受信される。

ラジオタイトルから探す

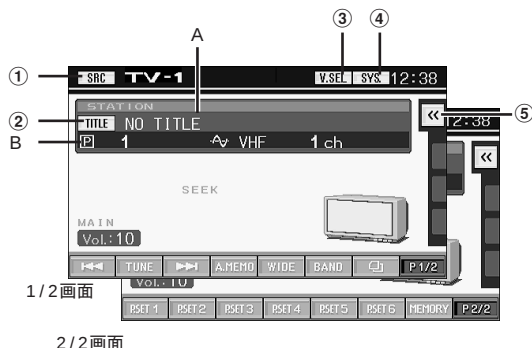
放送局にタイトルが入力されていれば、タイトルリストに表示されます。(タイトル入力方法は、28～29ページ参照)

- 1 [□]にタッチする。
サーチモードになり、ラジオタイトルリスト画面に切りかわる。
- 2 お好みのラジオタイトル(放送局)の[▶]にタッチする。
ラジオモードメイン画面に切りかわり、聴きたい放送局が受信される。



- ラジオタイトルリスト画面表示時、[RETURN]にタッチすると、ラジオモードメイン画面へ戻ります。

< TV メイン画面表示例 >



- ① [SRC]スイッチ：12ページ参照
- ② [TITLE]スイッチ：28ページ参照
- ③ [V.SEL] スイッチ：VISUAL選択画面を表示します。
- ④ [SYS.] スイッチ：SYSTEM選択画面を表示します。
- ⑤ [◀◀]スイッチ：13ページ参照
- A 入力したTV放送局タイトルを表示します。
- B プリセットNo. / チャンネルNo.を表示します。

TV 操作

自動的にチャンネルを記憶する

- 1 各メインソース画面上の[SRC]にタッチする。
ソース選択画面が表示される。
- 2 [TV]にタッチする。
TV モードメイン画面に切りかわる。
- 3 [A.MEMO]にタッチする。
電波の強いチャンネルを選択してプリセット 1 [P.SET1] ~ 6[P.SET6] に記憶される。オートメモリーが終わると、自動的に電波の強いチャンネルを受信する。



- 放送局を1つも受信できなかったときは、操作の直前に受信していた放送局が受信されます。
- 放送局は18局まで記憶できます。
TV1...6局、TV2...6局、TV3...6局

放送局を記憶する

- 1 記憶させたい放送局を選んだあと、[P1/2]にタッチする。
ファンクションガイドの内容が切りかわる。
- 2 [MEMORY]にタッチする。
- 3 5秒以内にプリセットキー[P.SET1] ~ [P.SET6]のいずれかにタッチする。
タッチしたプリセットキーに放送局が記憶される。

記憶した放送局を呼び出す

- 1 [P1/2]にタッチする。
ファンクションガイドの内容が切りかわる。
- 2 記憶させた放送局の[P.SET1] ~ [P.SET6]のいずれかにタッチする。
選択した放送局が受信される。

TV タイトルから探す

TV 放送局にタイトルが入力されていれば、タイトルリストに表示されます。

(タイトル入力方法は、28 ~ 29 ページ参照)

- 1 [□]にタッチする。
サーチモードになり、TV タイトルリスト画面に切りかわる。
- 2 お好みのTV タイトル(放送局)の[▶]にタッチする。
TV モードメイン画面に切りかわり、呼びだしたい放送局が受信される。



Memo

- TVタイトルリスト画面表示時、[RETURN]にタッチすると、TVモードメイン画面へ戻ります。

- [WIDE]にタッチすると、表示モードが切りかわります。操作については「表示モードを切りかえる」(31ページ)をご覧ください。
- TVモードのとき、各操作から5秒経過すると、操作画面から、TV画面に切りかわります。再度、操作画面を表示させるには、ディスプレイパネルにタッチしてください。

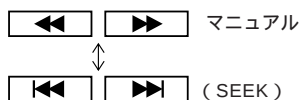


放送局を選ぶ

- 1 [BAND]にタッチしてバンドを選ぶ。



- 2 [TUNE]にタッチして、チューニングモードを選ぶ。
[TUNE]にタッチすることにより[◀◀]、[▶▶]表示がかわる。



Memo

- SEEKモードのとき受信可能な放送局(チャンネル)を自動的に探します。
- マニュアルモードのとき、1段階ずつチャンネルがかわります。

- 3 [◀◀] (または ◀◀)、[▶▶] (または ▶▶)にタッチして、放送局を選ぶ。マニュアルモード時にタッチし続けると連続でチャンネルNo (1 ~ 62ch) が切りかわる。

TVモードのとき、各操作から5秒経過すると、操作画面から、TV画面に切りかわります。再度、操作画面を表示させるには、ディスプレイパネルにタッチしてください。

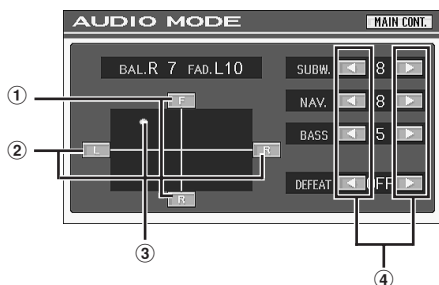


便利な機能

オーディオ調整

- 1 「ロータリーエンコーダー」を押す。
AUDIO モード画面に切りかわる。

< AUDIO モード画面表示例 >



- ① [F]、[R]にタッチして前後のスピーカー音量を調整する。
- ② [L]、[R]にタッチして左右のスピーカー音量を調整する。
- ③ [◻]にタッチしながら、お好みの設定値へ移動させる。
- ④ [◀] [▶]にタッチして、お好みで調整する。



- SYSTEM 選択画面上の[AUDIO MODE]にタッチしても、AUDIOモード画面に切りかえることができます。

バランス調整

[L](左)または[R](右)にタッチして、左右のスピーカー音量を調整する。
設定値：L15 ~ R15

フェダー調整

[F](前)または[R](後)にタッチして、前後のスピーカー音量を調整する。
設定値：F15 ~ R15

サブウーハーレベル調整

SUBW. [◀]または[▶]にタッチして、サブウーハー出力の調整をする。
設定値：0 ~ 15



- 「サブウーハーのON/OFF (49ページ)で0°または180°設定時にレベル調整ができます。

NAV. LEVEL 調整

NAV. [◀]または[▶]にタッチして、ナビゲーション割り込みの音量を調整する。
設定値：0 ~ 15



- 「ナビゲーション音声の割り込み設定 (40ページ)でNAV.MIXがON設定時にレベル調整ができます。

DEFEAT のON/OFF

DEFEAT [◀]または[▶]にタッチしてON/OFFする。
ONに設定するとMXをOFF、EQを初期値に戻す。

BASS レベル調整

BASS [◀]または[▶]にタッチして、バスレベルの低音域の強弱を調整する。
設定値：0 ~ 11



- AMP Link対応外部アンプ(MRD-M301、MRD-M501)接続時に調整ができます。

バランス / フェダーをダイレクトに調整する

[◻]にタッチしながらお好みの設定値へ移動させる。
または、お好みの設定範囲値へタッチすると、[◻]がそのタッチした場所へ移動する。
微調整はバランス[L]、[R]またはフェダー[F]、[R]にタッチして設定する。

便利な機能

道路交通情報を受信する

TRF (トラフィックインフォメーション)

- 1 各メインソース画面上の[SYS.]にタッチする。
SYSTEM 選択画面が表示される。
- 2 [TRF]にタッチする。
TRF メイン画面になり、AM 放送の1620kHz、または1629kHzの交通情報を受信する。
- 3 [1620kHz]または[1629kHz]にタッチして、1620kHz/1629kHzを切りかえる。
- 4 [MAIN CONT.]にタッチする。
TRF 操作前のメインソース画面に戻る。



- CD、チェンジャー、ラジオなどのいずれかを聴いていても、交通情報を受信できます。

タイトル/テキスト/スクロールとは

この説明書で使用する「タイトル」、「テキスト」、「スクロール」という言葉のちがいについて説明します。

●タイトルとは

文字の入力と表示ができることを言います。本機の場合は「CD」、「ビデオCD」や「ラジオ放送局」、「TV放送局」の名称をタイトルとしてつけることができます。製品によっては文字を正確に表示できない場合もあります。(MP3/WMA、DVD ディスクのタイトル入力/表示は行えません。)

●テキストとは

あらかじめCDに入力されている文字の表示ができることを言います。



マークがついているものにはテキストが入っています。

文字を正確に表示できない場合もあります。

●タイトル/テキスト入力表示一覧

モード \ 処理	タイトル		テキスト	
	入力	表示	入力	表示
CD	○ 英数/記号	○ 英数/記号	×	○ 英数/記号
ラジオ	○ 英数/記号	○ 英数/記号	×	×
DVD	×	×	×	×
ビデオCD	○ 英数/記号	○ 英数/記号	×	×
TV	○ 英数/記号	○ 英数/記号	×	×

- ・ MP3/WMAディスクでは、フォルダ名/ファイル名/タグ情報の表示ができます。
- ・ タイトルは16文字まで入力できます。
- ・ 漢字・ひらがな・カタカナは表示できません。

●スクロールとは

文字を次々と表示させることを言います。本機では、曲が変わったときなどに一回だけスクロールする「マニュアルモード(AUTO SCROLL OFF)」とスクロールを繰り返す「オートモード(AUTO SCROLL ON)」を搭載しています(「スクロールの設定」38ページ参照)。タイトル、CDテキストとフォルダ名、ファイル名、タグ表示のみスクロール表示します。

タイトルをつける

お好みの「ラジオ放送局」、「TV放送局」、「CD」、「CDチェンジャーのCD」、「ビデオCD」にタイトルをつけることができます。(操作は停車中に行ってください。)

DVD や MP3/WMA ディスクにタイトル入力は行えません。

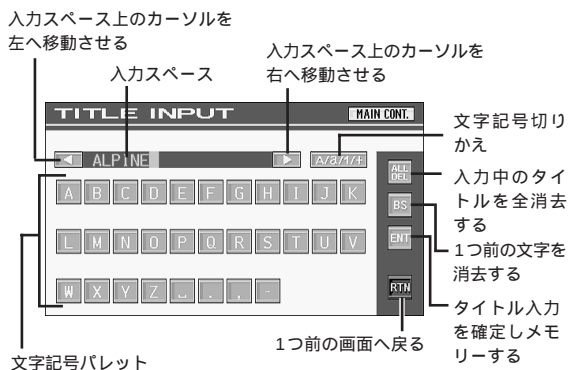
1 タイトルをつけたいラジオ放送局を選ぶ。
「ラジオ放送局にタイトルをつける」を例に操作説明します。

2 ラジオメインソース画面上の[TITLE]にタッチする。
タイトル入力画面に切りかわる。

3 ディスプレイに文字記号が表示される。
入力したい文字記号にタッチする。16桁まで入力できる。

[A / a / 1 / +]にタッチするごとに、アルファベット大文字/アルファベット小文字/数字/記号と切りかえることができる。

<タイトル入力画面表示例>



4 [ENT]にタッチして、入力したタイトルを確定する。
ラジオモードメイン画面に戻る。
入力されたタイトルが記憶され、受信中に表示される。



Memo

- タイトルを入力した直後(システムが自動的に書き込みをしているとき)は、イグニッションキー(エンジンキー)をOFFにしないでください。イグニッションキー(エンジンキー)をOFFにすると、タイトルが書き込まれない場合があります。
- ラジオ放送局、TV放送局とCD、ビデオCDを合わせて100までのタイトルをつけることができます。
- ディスプレイに"Full Data"と2秒間表示されたときは、メモリーがいっぱいになっています。このときに、[ENT]にタッチすると最初に入力した一番古いタイトルが消え、新しいタイトルが入力できます。
- 本機では、MP3/WMAファイルに、ファイル名、フォルダ名、タグ情報を入力することはできません。
- 曲にタイトルをつけることはできません。

ディスクサーチ機能

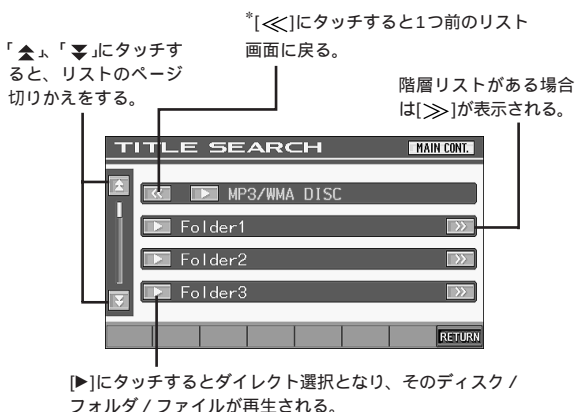
- 1 ディスクモード時に、ファンクションガイド上の[]にタッチする。

ディスクサーチモードになり、ディスクサーチリスト画面が表示される。

お好みのディスクタイトル名を選ぶ。

- ・ ダイレクト再生する場合は[▶]にタッチする。
- ・ ディスクに階層リストがある場合は、[◀]または[▶]が表示される。[▶]にタッチすると各階層リスト画面に切りかわる。

< ディスクサーチ画面表示例 >



* 内蔵ディスクおよび接続している外部CD/MDプレイヤー、チェンジャーの全ディスクがリスト表示される。



Memo

- CD、ビデオCDにディスクタイトルがない場合は「NO TITLE」と表示します。

- 2 選択したディスクタイトルの[▶]にタッチする。
階層リストが切りかわる。
下記モード手順を参照してください。

内蔵 CD モード

1. トラックタイトルリスト*またはトラックリスト画面に切りかわる。
*CD テキスト対応ディスクの場合。
2. お好みのトラックテキスト*またはトラックの[▶]にタッチする。
選んだトラックが再生される。
*CD テキスト対応ディスクの場合。

内蔵 MP3/WMA / 外部 MP3 対応チェンジャーモード

1. フォルダリスト画面に切りかわる。
お好みのフォルダ名を選び、[▶]にタッチする。(選択したフォルダにファイルがある場合のみ[▶]が表示される。)
ファイルリスト画面が表示される。
・ フォルダをダイレクトに再生する場合は[▶]にタッチする。
2. お好みのファイル名の[▶]にタッチする。
選んだファイルが再生される。

リアエンター機能

リアエンター機能を設定すると、車室内のフロント席とリア席で、それぞれ独立した空間をつくり出すことができます。たとえば、フロント席でラジオなどのオーディオソースを聴きながら、リア席では別売リアモニターの使用でDVDなどを楽しむことができます。

1 各メインソース画面上の[SYS.]にタッチする。
SYSTEM 選択画面が表示される。

2 [REAR SELECT]にタッチする。
REAR 選択画面に切りかわる。



- SYSTEMセットアップのMONITOR OUT1 ~ 2の設定がOFFの場合は、この機能は使用できません。

3 希望のソース（外部入力または内蔵DVDなど）にタッチする。

REAR.1:

本機チューナーBOXのAUX OUTに接続している外部モニター（別売拡張BOX(VPE-S431)未接続時）。

または、別売拡張BOX(VPE-S431)のAUX OUT 1 側に接続している外部モニター。

REAR.2*:

別売拡張BOX(VPE-S431)のAUX OUT 2 側に接続している外部モニター。

* 外部モニターが1台のみ接続の場合は、REAR.2の表示はされません。別売拡張BOX(VPE-S431)に外部モニター接続時は、REAR.2用の設定画面が表示されます。



- [OFF]にタッチするとリアエンター機能は解除されます。
- 「AUXモードを設定する（41ページ）」のAUX IN設定がOFFの場合は、外部入力のソースは表示されません。

リモコン受光部を切りかえるには

別売リモコンから操作をするときに拡張ユニット（外部モニターなど）のリモコン受光部をお好みで切りかえることができます。

4 [FRONT]、[REAR1]、[REAR2]のいずれかにタッチする。

リモコン操作を優先するモニターが切りかわる。

FRONT: 本機のリモコン受光部を優先させる。

REAR1: 本機チューナーBOX、または別売拡張BOX(VPE-S431)のAUX OUTに接続した外部モニターのリモコン受光部が有効となり、ここで選んだソースに対してのみリモコン操作ができます。

REAR2: 別売拡張BOX(VPE-S431)のAUX OUTに接続したモニターのリモコン受光部が有効となり、ここで選んだソースに対してのみリモコン操作ができます。



- IVA-D300X（フロントモニター）とリアモニターで内蔵DVDを見ているときは、リアモニターでのオンスクリーン表示（PLAY、PAUSE、FAST FWD など）は表示されません。
- リアモニター用に当社のタッチパネルリアモニター製品を接続（モニターコントロールコードを接続）し、タッチ操作した場合には、リモコン受光部の切りかえ設定にかかわらずタッチパネルリアモニターの受光部が優先します。但し、最後の操作から約5秒経過すると、設定していたリモコン受光部優先に戻ります。
- 別売DVDチェンジャーやDVDプレイヤー接続時にREAR1またはREAR2側にリモコン受光部が設定している場合は、タッチスイッチの一部（[■]STOPなど）が操作できなくなります。この場合は、リモコン受光部をFRONTに切りかえてください。

音声はそのまま映像ソースのみを切りかえる（サイマル機能）

音声ソースをそのまま、見たい映像だけを切りかえることができます。

- 1 音声ソース画面の[V.SEL]にタッチする。
VISUAL 選択画面に切りかわる。
- 2 お好みの映像ソースにタッチする。
選んだ映像ソースに切りかわる。

サイマル機能を解除するには

1. 「V.SEL」を押す。
VISUAL 選択画面に切りかわる。
2. [NORMAL]にタッチする。
サイマル機能は解除される。

-
1. 映像画面にタッチする。
 2. [MAIN CONT.]にタッチする。
 3. 5 秒以内に[V.SEL]にタッチする。
VISUAL 選択画面に切りかわる。
 4. [NORMAL]にタッチする。
サイマル機能は解除される。

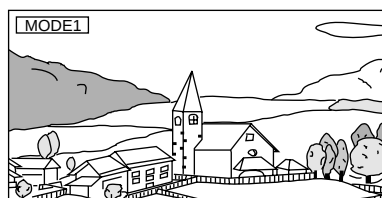
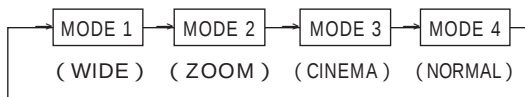


- AUX1に別売のDVDビデオプレイヤーを接続している場合は、サイマル機能でDVD映像 / 音声呼び出すことができます。但し、DVA-5200を接続している場合は、呼び出すことができません。
DVA-5205Jまたは、DHA-S680を接続している場合は、DVA-5205JまたはDHA-S680 付属リモコンのV.OUTスイッチを2秒以上押すと、DVD映像 / 音声呼び出せます。
また、DVA-5210を接続している場合は、付属リモコンのV.OUTを押すと、DVD映像 / 音声呼び出せます。
- 音声ソースがナビゲーションモードの時はサイマル機能は使用できません。
- 本体の「V.SEL」を2秒以上押すと、サイマル機能は解除されます。

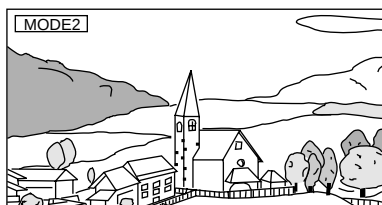
表示モードを切りかえる

この操作は停車中に行ってください。

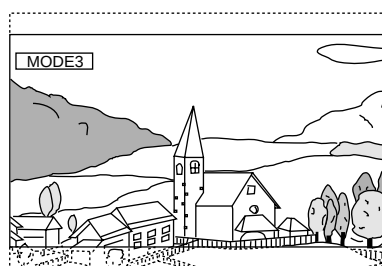
- 1 DVD、ビデオCD、TV、AUXモード時、各モードメイン画面上の[WIDE]にタッチする。
タッチするたびに表示モードが切りかわる。



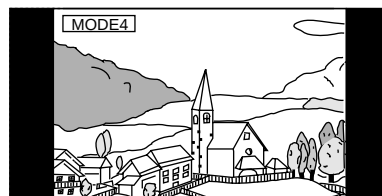
ノーマル映像を水平方向に均等に広げ、画面いっぱいに表示します。



ノーマル映像の画面中央を少し広げ、水平方向に不自然にならないように画面いっぱいに表示します。



ノーマル映像を水平・垂直両方向に拡大します。
16:9 のシネマサイズの映像に適しています。



通常のテレビ放送（4：3）の映像は中央に映ります。
（ノーマル映像）



- 映像ソースモード時、本体の「BAND」を押すたびに表示モードを切りかえることができます。

バックライトを OFF にする (BLACK OUT 機能)

ディスプレイ表示部のバックライトを消灯することで、よりよい高音質を実現させることができます。

- 1 各メインソース画面上の[V.SEL]にタッチする。
VISUAL 選択画面が表示される。
- 2 [OFF]にタッチする。
ディスプレイ表示部のバックライトが消える。
- 3 解除するには、再度[OFF]にタッチする。



- バックライトが消灯しているときに他のスイッチ操作を行った場合、表示部のバックライトを5秒間だけ点灯させ、再び消灯させます。

VISUALIZER の設定

拡張 BOX (VPE-S431) 接続時に設定できます。

- 1 各メインソース画面上の [V.SEL] にタッチする。
VISUAL 選択画面が表示される。
- 2 [VISUALIZER] にタッチする。
Visualizer画面が表示され、5 秒間キー入力がなければ操作表示 [MAIN CONT.] キーなどが消える。
- 3 操作表示が消えた (映像画面のみ) 状態で、画面上にタッチする。
VISUALIZER セットアップ画面が表示される。
- 4 5 秒以内に VISUALIZER の [◀] または [▶] にタッチして、お好みのモードを選ぶ。
MODE1 ~ MODE6、OFF:拡張 BOX (VPE-S431) 側のメーカーズ設定モードを呼び出す。
SCAN: MODE1 ~ MODE6 のパターンを繰り返し表示する。



- 解除するには、VISUAL 選択画面上の [NORMAL] にタッチする。
- 「Visual Effect の設定 (32 ページ) が OFF 設定時で、「外部拡張 BOX の接続設定」、「VISUALIZER モード表示設定 (41 ページ) が ON 時に設定できます。

Visual Effect の設定

拡張 BOX (VPE-S431) 接続時に設定できます。

- 1 映像メインソース画面上の [V.SEL] にタッチする。
VISUAL 選択画面が表示される。
- 2 [VISUALIZER] にタッチする。
Visualizer設定画面が表示され、5 秒間キー入力がなければ操作表示 [MAIN CONT.] キーなどが消える。
- 3 操作表示が消えた画面上 (映像画面のみ) にタッチする。
VISUALIZER セットアップ画面が表示される。
- 4 5 秒以内に V.EFFECT の [◀] または [▶] にタッチして、ON に設定する。
ON: 複数の外部モニターと組み合わせたときに、映像効果をより発揮する機能。
OFF に設定すると解除になる。



- 音声メインソース (ラジオなど) 時は、V.EFFECT 表示されません。
- 本設定が ON 時は、本機からリアモニターのソースを切りかえることはできません。
- 走行中は本設定はできません。

モニター設定

モニター設定機能

次の手順 1 ~ 4 は、MONITOR 設定機能の共通操作になります。設定機能項目の詳細は、それぞれの設定項目を参照してください。

- 1 各ソースメイン画面上の [SYS.] にタッチする。
SYSTEM 選択画面が表示される。
- 2 [MONITOR] にタッチする。
MONITOR 設定画面に切りかわる。
- 3 お好みの設定項目の[◀]または[▶]にタッチして、設定を切りかえる。
設定項目：
TILT / SLIDE / MONITOR O/C (OPEN/CLOSE)
- 4 [RETURN]にタッチすると、1 つ前の画面に戻る。
[MAIN CONT.]にタッチすると設定操作前のメインソース画面に戻る。

ディスプレイの角度調整

ディスプレイを見やすい角度 (40 ~ 105 度の間) に調整することができます。

設定項目： TILT

設定値： 1 ~ 10



- 角度調整の際に障害物にあたったときは、障害物を取り除いてください。
- 液晶ディスプレイは、斜め方向から見ると画面が白っぽく見えたり、黒っぽく見えたりします。見やすい角度に調整してご覧ください。
- 車のバッテリー電圧が低い場合、視野角度を調整すると画面がちらつくことがあります。故障ではありません。

ディスプレイ前後方向の調整

設定項目： SLIDE

設定値： BACK / FRONT

BACK： 後方にスライドする。

FRONT： 前方にスライドする。



- 手で無理にディスプレイを引っ張ったり、押し戻したりして、位置がずれてしまった場合には、ディスプレイ前後方向の調整や角度調整ができなくなります。
その際は、「OPEN」を2秒以上押してディスプレイを収納してから、再度、ディスプレイを立ち上げてください。

ディスプレイ自動開閉の設定

設定項目： MONITOR O/C (OPEN/CLOSE)

設定値： MANUAL / FULL / CLOSE

MANUAL: 本体の「OPEN」を押して、ディスプレイの開閉を行います。

FULL: イグニッションキー(エンジンキー)のON/OFF ごとにディスプレイ開閉を自動的に行う。

CLOSE: イグニッションキー(エンジンキー)をOFFにすると、ディスプレイは自動的に閉まる。

セットアップ操作

DVD セットアップ

次の手順 1 ～ 5 は、DVD セットアップの共通操作になります。セットアップ項目の詳細は、それぞれの設定項目を参照してください。

DVD セットアップの操作をするには、本機からディスクを取り出してから行ってください。

1 各メインソース画面上の [SYS.] にタッチする。
SYSTEM 選択画面が表示される。

2 [SETUP] にタッチする。
SETUP 画面に切りかわる。

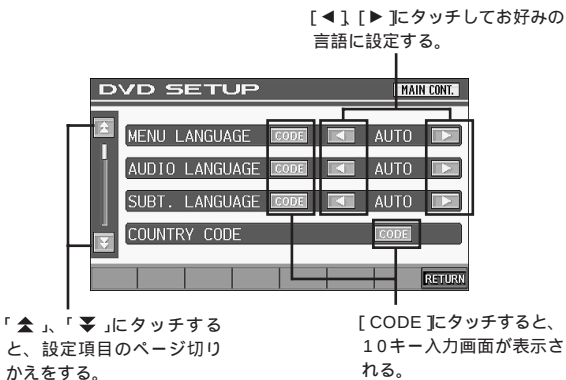
3 DVD SETUP の [>>] にタッチする。
DVD セットアップ画面に切りかわる。

4 お好みの設定項目の [◀] または [▶] にタッチして設定をかえる。

設定項目：

MENU LANGUAGE / AUDIO LANGUAGE /
SUBT. LANGUAGE / COUNTRY CODE /
PARENTAL / DIGITAL OUT MODE / TV
SCREEN

<DVD セットアップ画面表示例>



10キー入力画面
表示されている以外の言語を再生させたい場合、またはパレンタルロックのパスワード入力などにもキー入力する。

5 [RETURN] にタッチすると、1 つ前の画面に戻る。
[MAIN CONT.] にタッチすると、セットアップ操作前のメインソース画面に戻る。

- DVD セットアップモード時(システムが自動的に書き込みをしているとき)、イグニッションキー(エンジンキー)を OFF にしないでください。
イグニッションキー(エンジンキー)を OFF にすると、設定が変更されない場合があります。



言語設定を変更する

音声言語、字幕言語、メニュー言語をお好みに合わせ設定することができます。

設定された言語は固定され、常時日本語で聴きたい場合に便利です。(ディスクによっては、設定した言語にならない場合があります。その場合は、そのディスクの優先言語になります。)



Memo

- 変更された設定内容は書き換えられます。変更する前に現在の設定内容をメモして保管してください。設定内容は車のバッテリー電源をはずしても記憶しています。
- 一時的に今観ているディスクの言語をかえたい場合は、DVD メニューからかえるか、または「音声言語切りかえ」(21 ページ)でかえることができます。
- 選んだ言語がディスクにないときは、ディスクで決められた言語になります。

メニュー言語の設定

タイトルメニューなどのメニュー言語が設定できます。

設定項目： MENU LANGUAGE

設定値： AUTO / ENGLISH / GERMAN /
FRENCH / JAPANESE / CODE

「AUTO」を選ぶとディスクに記録されている最優先のメニュー言語が再生される。

音声言語の設定

スピーカーから出力される音声言語が設定できます。

設定項目： AUDIO LANGUAGE

設定値： AUTO / ENGLISH / GERMAN /
FRENCH / JAPANESE / CODE

「AUTO」を選ぶとディスクに記録されている最優先の音声言語が再生される。

字幕言語の設定

画面に表示される字幕言語が設定できます。

設定項目： SUBT. LANGUAGE

設定値： AUTO / ENGLISH / GERMAN /
FRENCH / JAPANESE / CODE

「AUTO」を選ぶとディスクに記録されている最優先の字幕言語が再生される。

[表示されている以外の言語を再生したい場合]

1. [CODE] にタッチする。
10 キー入力画面が表示される。
2. 言語番号の 4 桁の数字にタッチする。
言語番号は、「言語コード表」を (82 ページ) 参照。
3. [ENT] にタッチして、言語番号を記憶する。

カンントリーコード設定を変更する

視聴規制 (パレンタルロック) を設定するときの、国番号を設定します。

設定項目： COUNTRY CODE

設定値： CODE



- 変更された設定内容は書き換えられます。変更する前に現在の設定内容をメモして保管してください。設定内容は車のバッテリー電源をはずしても記憶しています。

1. [CODE] にタッチする。
(変更する場合には、[ALL DEL] または [BS] にタッチして、表示されている国番号を消去する。)
2. 国番号の 4 桁の数字にタッチする。
日本の国番号は 7480 (工場出荷時の設定)。
3. [ENT] にタッチして、国番号を記憶する。

視聴規制 (パレンタルロック) を設定する

お子様などに見せたくない映像を規制することができます。

設定項目： PARENTAL

設定値： INPUT



- 変更された設定内容は書き換えられます。変更する前に現在の設定内容をメモして保管してください。設定内容は車のバッテリー電源をはずしても記憶しています。
- 視聴制限がない DVD では視聴規制を設定しても再生は制限できません。
- 設定した視聴規制は保持されます。違うディスクを再生したいときや視聴規制を解除したい場合は、設定を変更してください。

1. [INPUT] にタッチする。
10 キー入力画面が表示される。
2. 4 桁のパスワードをタッチ入力する。
工場出荷時は 1111。
[ENT] にタッチして、パスワードをメモリーする。入力された数字は * で表示される。
PARENTAL 画面に切りかわる。

PARENTAL の規制レベル設定

3. PARENTAL [◀] または [▶] にタッチして、ON にする。
4. PARENTAL LEVEL の [◀] または [▶] にタッチして、規制レベル値 (1 ~ 8) を選ぶ。



- 規制を解除したいときや設定しないときは、OFF を選びます。数字が小さいほど、規制レベルは高くなります。

5. [RETURN] にタッチすると 1 つ前の画面に戻る。

パスワードを変更する

3. PASSWORD CHANGE の [INPUT] にタッチする。
10 キー入力画面が表示される。
4. 数字にタッチして、新しいパスワード 4 桁を入力する。
注) パスワードは忘れないように、メモなどをして保管してください。
5. [ENT] にタッチして、新しいパスワードをメモリーする。
6. [RETURN] にタッチすると、1 つ前の画面に戻る。

- テンポラリー・パレンタルレベル変更について
ディスクによっては、再生中に初期設定で設定した視聴規制レベル (パレンタルレベル) の変更を要求する場合があります。このとき、ディスプレイ画面に “ PARENTAL LEVEL CHANGE OK? [YES] [NO] ” と表示します。この表示が出た場合は、下記の操作で設定してください。
- 変更したパレンタルレベルで再生する場合は、[YES] にタッチする。
- パレンタルレベルを変更しないで再生する場合は、[NO] にタッチする。
[NO] にタッチした場合は、「視聴規制 (パレンタルロック) を設定する」で設定したパレンタルレベルで再生されます。



セットアップ操作

デジタル出力設定を変更する

本機から音声を設定します。

設定項目： DIGITAL OUT MODE

設定値： AUTO / LPCM



- 変更された設定内容は書き換えられます。変更する前に現在の設定内容をメモして保管してください。設定内容は車のバッテリー電源をはずしても記憶しています。

AUTO

再生中の音声の記録方式に従いデジタル出力を自動で切りかえる。デジタルオーディオプロセッサと接続し、ドルビーデジタル音声で再生したいときは、必ず、AUTO にする。

LPCM

ディスクに記録されている音声を48kHz/16bit(DVD)または、44.1kHz (ビデオ CD、CD) のリニア PCM 音声に変換して出力する。

- 音声出力 / 光デジタル音声出力について

ディスク	音声記録方式		デジタル出力設定	光デジタル音声出力 (デジタルオーディオプロセッサ接続時)	アナログ音声出力 (Ai-NET、RCA出力)
DVD	DTS		AUTO	DTSエレメンタリ ストリーム	○
			LPCM	LPCMエンコード2chダウンミクス (48kHz/16bit)	○
	ドルビーデジタル		AUTO	ドルビーデジタル	○
			LPCM	LPCM (48kHz/16bit)	○
	リニアPCM	48kHz/16bit	AUTOまたはLPCM	LPCM (48kHz/16bit)	○
		48kHz/20bit	AUTOまたはLPCM	LPCM (48kHz/16bit)	○
		48kHz/24bit	AUTOまたはLPCM	LPCM (48kHz/16bit)	○
		96kHz/16bit	AUTOまたはLPCM	LPCM (48kHz/16bit)	○
		96kHz/20bit	AUTOまたはLPCM	LPCM (48kHz/16bit)	○
		96kHz/24bit	AUTOまたはLPCM	LPCM (48kHz/16bit)	○
	MPEG2		AUTOまたはLPCM	LPCM (48kHz/16bit)	○
ビデオCD	MPEG1		AUTOまたはLPCM	LPCM (44.1kHz)	○
CD	リニアPCM		AUTOまたはLPCM	LPCM (44.1kHz)	○
	DTS		AUTO	DTSエレメンタリ ストリーム	○
			LPCM	LPCMエンコード2chダウンミクス (44.1kHz/16bit)	○
MP3	MPEG-1 Audio Layer3 ビットレート: 32kbps ~ 320kbps	32kHz/16bit	AUTOまたはLPCM	LPCMエンコード2ch (32kHz/16bit)	○
		44.1kHz/16bit	AUTOまたはLPCM	LPCMエンコード2ch (44.1kHz/16bit)	○
		48kHz/16bit	AUTOまたはLPCM	LPCMエンコード2ch (48kHz/16bit)	○
WMA	Windows Media™ Audio ビットレート: 32kbps ~ 192kbps	32kHz/16bit	AUTOまたはLPCM	LPCMエンコード2ch (32kHz/16bit)	○
		44.1kHz/16bit	AUTOまたはLPCM	LPCMエンコード2ch (44.1kHz/16bit)	○
		48kHz/16bit	AUTOまたはLPCM	LPCMエンコード2ch (48kHz/16bit)	○

TV スクリーン設定を変更する

お使いの別売の TV モニター（リアモニター）に合わせて、画面の比率（アスペクト比）をかえることができます。但し、本設定は、本体モニターにも適用されますので、リアモニターを接続していない場合は、16:9 に設定してください。

設定項目：TV SCREEN

設定値：4:3LB / 4:3PS / 16:9



Memo

- 変更された設定内容は書き換えられます。変更する前に現在の設定内容をメモして保管してください。設定内容は車のバッテリー電源をはずしても記憶しています。
- ディスクによっては設定した画面サイズにならない場合があります。（詳しくはディスクのジャケットに記載されている内容をご覧ください）

4:3 LETTER BOX

従来サイズの 4:3 のモニターに接続したときに選ぶ。アスペクト比 16:9 の映像を再生した場合は、上下に黒帯が入る。



4:3 PAN-SCAN

従来サイズの 4:3 のモニターに接続したときに選ぶ。画面全体に表示する。（アスペクト比 16:9 の映像を再生した場合は、左右が切れる。）



16:9 WIDE

ワイドテレビに接続したときに選ぶ。



セットアップ操作

GENERAL セットアップ

次の手順 1 ~ 5 は、GENERAL セットアップの共通操作になります。セットアップ項目の詳細は、それぞれの設定項目を参照してください。

- 1 各メインソース画面上の [SYS.] にタッチする。
SYSTEM 選択画面が表示される。
- 2 [SETUP] にタッチする。
SETUP 画面に切りかわる。
- 3 GENERAL SETUP の [>>] にタッチする。
GENERAL セットアップ画面に切りかわる。
- 4 お好みの設定項目の [◀] または [▶] にタッチして、設定を切りかえる。
設定項目：
CLOCK / CLOCK ADJUST /
DEMONSTRATION / BEEP / AUTO SCROLL /
FM CONDITION / MPX / PLAY MODE
- 5 [RETURN] にタッチすると、1 つ前の画面に戻る。
[MAIN CONT.] にタッチすると、セットアップ操作前のメインソース画面に戻る。

- GENERAL セットアップモード時 システムが自動的に書き込みをしているときは、イグニッションキー(エンジンキー)を OFF にしないでください。
イグニッションキー(エンジンキー)を OFF にすると、設定が変更されない場合があります。



時計を表示する

時計表示の ON/OFF を切りかえます。

設定項目： CLOCK
設定値： OFF / ON

時刻を設定する

設定項目： CLOCK ADJUST → HOUR/MINUTE /
TIME ADJUST
設定値： 1 ~ 12 / 0 ~ 59 / RESET
HOUR： 時 を合わせる。
MINUTE： 分 を合わせる。
RESET： 「:30未満」でタッチすると分表示が“:00”
となる。「:30以上」でタッチすると“時”
が繰り上がる。



Memo

- 時計調整モードは、Power OFF、[RETURN]
または [MAIN CONT.] にタッチしたときに
解除されます。

デモンストレーション機能

本機には、各ソースの基本的な動作をディスプレイに表示させるデモンストレーション機能が用意されています。

設定項目： DEMONSTRATION
設定値： OFF / ON

ON： デモンストレーションモードになり、動作を自
動的に行う。

OFF： デモンストレーションモードを解除する。



Memo

- OFFしない限り、デモンストレーションの動
作は自動的に繰り返します。

操作音の切りかえ

ディスプレイにタッチしたときや本体スイッチを押したとき
に操作音を鳴らして操作を受けつけたことを伝えます。

設定項目： BEEP
設定値： OFF / ON

ON： 操作音を鳴らす。

OFF： 操作音が出なくなる。

スクロールの設定

ディスクにタイトルが入力されていれば、スクロール表示
することができます。また CD テキストとフォルダ名、ファ
イル名、タグ情報もスクロール表示します。

設定項目： AUTO SCROLL
設定値： OFF / ON

ON： AUTO スクロールモードになり、スクロール表
示を繰り返す。

OFF： AUTO スクロールモードを解除する。



Memo

- OFF設定時は、曲が変わったときなど1回スク
ロール表示を行います。

TUNER (FM) 音質の設定

本機は「MAX TUNE SQ」を搭載しており、最高音質の性能が楽しめます。さらに好みで音質を設定することができます。

設定項目： FM CONDITION
 設定値： NORMAL / HI-FI / STABLE
 NORMAL： 標準設定
 HI-FI： 音質重視設定
 STABLE： ノイズレス設定

音声多重機能を使う（二重音声放送）

本機TVモード時にニュースや映画などの2カ国語放送や、スポーツの実況中継など、異なった2種類の音声放送（二重音声放送）を楽しむことができます。

設定項目： MPX
 設定値： MAIN / SUB / MAIN + SUB
 MAIN： 主音声 that 聴こえる。
 SUB： 副音声 that 聴こえる。
 MAIN + SUB： 主音声と副音声を聴くことができる。

MP3/WMA 再生データの設定

オーディオデータとMP3/WMAデータ混在ディスクのオーディオデータのみを再生するか、MP3/WMAのみを再生するかを設定することができます。（オーディオデータとMP3/WMAデータ混在ディスク使用時のみ）

設定項目： PLAY MODE
 設定値： CD / MP3
 CD： オーディオデータのみを再生する。
 MP3： MP3/WMAのみを再生する。

- ・本機よりディスクを取り出してから設定をしてください。
- ・MP3対応チェンジャーの場合、本設定は出来ません。

SYSTEM セットアップ

次の手順1～5は、SYSTEMセットアップの共通操作になります。セットアップ項目の詳細は、それぞれの設定項目を参照してください。

- 1 各メインソース画面上の[SYS.]にタッチする。
SYSTEM選択画面が表示される。
- 2 [SETUP]にタッチする。
SETUP画面に切りかわる。
- 3 SYSTEM SETUPの[>>]にタッチする。
SYSTEMセットアップ画面に切りかわる。
- 4 お好みの設定項目の[◀]または[▶]にタッチして、設定を切りかえる。
設定項目：
IN INT. MUTE / IN INT. ICON / NAV. IN / NAV. MIX / EXPANSION BOX*1 / VISUALIZER*2 / AUX IN-1 / AUX IN-2*2 / AUX IN-3*2 / MONITOR OUT-1 / MONITOR OUT-2*2 / CAMERA IN / V.SEL KEY / A.PROC TYPE
 *1 外部拡張BOX(VPE-S431)接続時に設定が有効になります。
 *2 EXPANSION BOX設定ON時に表示します。
- 5 [RETURN]にタッチすると、1つ前の画面に戻る。
[MAIN CONT.]にタッチすると、セットアップ操作前のメインソース画面に戻る。

・SYSTEMセットアップモード時(システムが自動的に書き込みをしているとき)は、イグニッションキー(エンジンキー)をOFFにしないでください。
イグニッションキー(エンジンキー)をOFFにすると、設定が変更されない場合があります。



外部割り込みモードの設定

Ai 割り込み Box(NVE-K200)と組み合わせると、音楽 CD 再生対応ナビゲーションでの CD 音声などの音声を本機に割り込ませることができます。組み合わせる製品によっては、利用できない場合があります。詳しくは組み合わせる製品の説明書を参照してください。

設定項目： IN INT.MUTE

設定値： OFF / ON

OFF：外部割り込みモードになり音量調整ができる。

ON：音声は出力されない。

「外部割り込みアイコン表示の設定」(40 ページ)で設定しているアイコンが表示される。



- この機能は、対応製品との組み合わせで、INT (音声割り込み)コードが接続されている場合に有効です。

外部割り込みアイコン表示の設定

別売の Ai 割り込み Box (NVE-K200) と組み合わせ、ナビゲーションでの「音楽 CD 演奏」などを割り込ませる場合に使用します。その際に「INT」アイコンを設定すると、外部割り込みがあるときに「INT」アイコンが表示されます。なお、「TEL」アイコンについては、現在組み合わせで使用できる製品が発売されておきませんが、外部割り込み時のアイコン表示を「INT」にするか「TEL」にするかの違いだけです。どちらのアイコンをご使用になっても機能上問題はありません。

設定項目： IN INT.ICON

設定値： INT / TEL

INT：INT アイコンが表示される。

TEL：外部割り込み (TEL) がされたとき、画面上に TEL のアイコンが表示される。

ナビゲーションモードを設定する

別売のナビゲーション製品を接続した場合は、ON に設定してください。

設定項目： NAV. IN

設定値： OFF / ON

ON：ナビゲーションソースを表示させる。

OFF：ナビゲーションソースは表示されない。本機からのナビゲーション関連の設定は出来なくなる。

ナビゲーション音声の割り込み設定

当社のナビゲーション製品(ディスプレイコントロール、ガイドコントロールを接続したナビゲーション)と組み合わせ、CD やラジオなどを聴いていても、ナビゲーション側の音声案内を本機に割り込ませることができます。

設定項目： NAV.MIX

設定値： OFF / ON

OFF：ナビゲーション音声割り込みをさせない。

ON：ナビゲーション音声割り込みモードになる。

ナビゲーションの割り込み音量レベルを調整するには、本設定で ON にしたあと、「オーディオ調整」(27 ページ)の NAV. LEVEL 調整を行う。



- ナビゲーション音声案内割り込み中に、オーディオ音量を調整すると、その音量が音声案内割り込み時のオーディオ音量として設定されます。
設定しておく、ナビゲーション音声案内割り込み時に、自動的にその設定したオーディオ音量値と割り込み画面になり、割り込みが解除されると、もとのオーディオ音量と画面に戻るようになります。但し、設定した値より小さいオーディオ音量で聞いていた時に割り込みが入ると、割り込み時のオーディオ音量は、その小さいオーディオ音量に再設定されます。(ナビゲーション音声案内が割り込まれた場合、割り込む前のオーディオ音量より大きくなる事はありません)
- SYSTEM リスト画面の NAV.IN 設定が ON のときに有効です。
- PXA-H510 または PXA-H900 接続時、本機で設定した NAV.MIX 値は PXA-H510 または PXA-H900 側には反映されません。

外部拡張 BOX の接続設定

別売の拡張 BOX (VPE-S431) を接続した場合に設定を行ってください。

設定項目: EXPANSION BOX

設定値: OFF / ON

OFF: 拡張 BOX (VPE-S431) 未接続時に設定。

ON: 拡張 BOX (VPE-S431) 接続時に設定。

VISUALIZER モード表示設定

VISUAL 選択画面上で“VISUALIZER”のソース名を表示させる場合に設定します。

但し、本設定は別売拡張 BOX (VPE-S431) 接続時のみ有効です。

設定項目: VISUALIZER

設定値: OFF / ON

OFF: VISUAL 選択画面上に“VISUALIZER”とソース名を表示させない。

ON: VISUAL 選択画面上に“VISUALIZER”とソース名を表示させる。

AUX モードを設定する

設定項目: AUX IN-1,2,3

設定値: OFF / ON

OFF: AUX ソース表示はされない。

ON: AUX ソースは表示される。



- 別売のDVDプレイヤー、DVDチェンジャーを接続している場合は、OFFは表示されません。
- OFFに設定すると、本機からのAUX関連の設定は出来なくなります。
- AUX IN 1にDVDプレイヤーまたはDVDチェンジャーのどちらかを接続している場合は、EXT. DVDと表示され、どちらも接続している場合は、AUX IN 1にEXT. DVDと表示し、AUX IN 2にDVD CHGと表示されます。
- AUX IN2、3は、外部拡張BOX(VPE-S431)接続時のみ表示します。

外部入力に表示名をつける

外部入力製品を接続した場合、それぞれ(外部入力製品3台まで)に表示名をお好みでつけることができます。

「AUXモードを設定する」でON設定時、希望のAUX IN1 ~ 3の[>>]にタッチしたあと、次の設定を行う。

設定項目: NAME

設定値: AUX / VCR / GAME-1,2 / TV* / EXT.-1 / EXT.-2



Memo

* AUX IN 3選択時のみ表示します。

- 選んだ表示名がAUXモードのソース名に切りかわる。TV、EXT.-1、-2のソースを選択すると各モードのファンクションガイドに切りかわります。但し、EXT.-1、-2は現在使用しません。

外部入力音声レベルの調整

「AUXモードを設定する」でON設定時、希望のAUX IN1 ~ 3の[>>]にタッチしたあと、次の設定を行う。

設定項目: LEVEL

設定値: LOW / HIGH

LOW: 外部入力の音声レベルを小さめに設定する。

HIGH: 外部入力の音声レベルを大きめに設定する。

外部モニター出力の設定

リアエンター機能(30ページ)を使用するときはONに設定する。

設定項目: MONITOR OUT-1 ~ 2

設定値: OFF / ON

ON: 接続している外部モニターの出力をONにし、リモコン操作を受け付ける。

OFF: MONITOR OUT1または2のどちらかをOFFにすると、リアエンター機能で設定できるモニターは1台となる。

MONITOR OUT1と2どちらもOFFにすると、SYSTEM 選択画面に表示される[REAR SELECT]は使用できない。



Memo

- 「MONITOR OUT-2」は、「外部拡張BOXの接続設定」でON設定時に本設定ができます。

リアカメラの設定

リアカメラを接続している場合、バック映像を出力させます。

設定項目: CAMERA IN

設定値: OFF / ON

ON: シフトレバーをバック(R)に入れなくてもV.SELを押して、CAMERAソースを選ぶとバック映像が出力される。

OFF: V.SELを押しても、CAMERAソースは表示されません。



Memo

- シフトレバーをバック(R)に入れると、連動でバック映像が出力されます。リバースコードが接続している場合に有効です。

セットアップ操作

VISUAL の設定

本機能は、本体キーの「V.SEL」スイッチの切りかえ設定を行うものです。

設定項目： V.SEL KEY

設定値： V.SEL / NAV.

NAV.：「V.SEL」を押すと、ナビゲーション画面へダイレクトに切りかわる（当社の別売RGBナビゲーション製品接続時のみ）。

V.SEL：「V.SEL」を押すと、VISUAL 選択画面を呼び出す。

外部オーディオプロセッサの光デジタル入力切りかえ設定

当社の光デジタル対応オーディオプロセッサと接続した場合に、本設定の切りかえを行ってください。

設定項目： A.PROC TYPE

設定値： PXA-H510 / OTHER

PXA-H510：

PXA-H510 と接続した場合に設定する。光デジタル入力端子は、DVD用へ接続する。

OTHER：

PXA-H510以外の光デジタル対応オーディオプロセッサと接続した場合に設定する。光デジタル入力端子は、ヘッドユニット用へ接続する。



Memo

- 設定終了後、一度ACCをOFFにしてから再度ACC ONにしてください。光デジタル入力切りかえの設定が確定されます。

DISPLAY セットアップ

次の手順 1 ~ 5 は、DISPLAY セットアップの共通操作になります。セットアップ項目の詳細は、それぞれの設定項目を参照してください。

- 1 各メインソース画面上の [SYS.] にタッチする。
SYSTEM 選択画面が表示される。
- 2 [SETUP] にタッチする。
SETUP 画面に切りかわる。
- 3 DISPLAY SETUP の [>>] にタッチする。
DISPLAY セットアップ画面に切りかわる。
- 4 お好みの設定項目の [◀] または [▶] にタッチして、設定を切りかえる。
設定項目：
DIMMER / DIMMER LOW LEVEL / BACKGROUND
/ AUTO BACKGROUND / FONT TYPE / FONT
COLOR / TOUCH PANEL / SCREEN ALIGNMENT
- 5 [RETURN] にタッチすると、1 つ前の画面に戻る。
[MAIN CONT.] にタッチすると、セットアップ操作前のメインソース画面に戻る。

- DISPLAY セットアップモード時(システムが自動的に書き込みをしているとき)は、イグニッションキー(エンジンキー)を OFF にしないでください。
イグニッションキー(エンジンキー)を OFF にすると、設定が変更されない場合があります。



バックライトの明るさを設定する

車内の明るさに連動して液晶パネルに内蔵されているバックライト(蛍光管)の明るさを切りかえ、画面を見やすくすることができます。

設定項目： DIMMER

設定値： OFF / ON / AUTO

OFF： バックライトを明るいまま固定する。

ON： バックライトを暗いまま固定する。

AUTO： 車内の明るさに連動して画面の明るさを自動で調光する。

但し、ディスプレイ収納時に AUTO 設定すると、ヘッドライト点灯の ON/OFF に照光スイッチのみ連動します。(本機のイルミネーションコードを接続していない場合は動作しません)

バックライトの最低レベルを調整する

本機はバックライト (LOW) の明るさを調整することができます。例えば、夜間走行時に画面の明るさを微調整するときなどに使います。

設定項目： DIMMER LOW LEVEL

設定値： - 15 ~ + 15

- 15 ~ + 15 の間でレベルを調整する。最大値時は「MAX」、最小値時は「MIN」と表示する。

背景画面を切りかえる (バックグラウンド)

背景画面は、あらかじめ設定されている 5 種類とユーザー設定した背景画面の中から選べます。

設定項目： BACKGROUND

設定値： MODE1 ~ MODE 5 / USER*



Memo

* 「MY BACKGROUND データのダウンロード」(53 ページ)でダウンロードされた壁紙が呼び出せます。

- 本機で内蔵ディスク以外のソースを選択し、そして接続しているリアモニター側で本機内蔵ディスクを選択している場合には、本設定で選んだ背景画面を本機に表示させることはできません。
- エラー表示 (ERROR、HI-TEMP など) 時は、本設定で選んだ背景画面を本機に表示させることはできません。

セットアップ操作

オートバックグラウンドの設定

イグニッションキー（エンジンキー）の ON/OFF ごとに、バックグラウンド 5 種類とユーザー設定した背景画面が自動的に切りかわります。

設定項目： AUTO BACKGROUND
設定値： OFF / ON

ON に設定するとイグニッションキー（エンジンキー）の ON/OFF ごとにオートバックグラウンドモードが切りかわる。

MODE1 → MODE2 → MODE3 → MODE4 →
MODE5 → USER* → MODE1



Memo

* 「MY BACKGROUNDデータのダウンロード」
（53ページ）でダウンロードされた壁紙が呼び
出せます。

フォントタイプの設定

メイン表示部の文字（テキスト、タグ情報など）フォントタイプが設定できます。

設定項目： FONT TYPE
設定値： FONT1 / FONT2

FONT1： ゴシック文字に切りかえる。
FONT2： 丸文字に切りかえる。

フォントバック表示色を切りかえる

フォントバック（ソースタイトル、ショートカット表示部など）表示色をあらかじめ設定されている 5 種類の中から選べます。

設定項目： FONT COLOR
設定値： MODE1 ~ MODE5

タッチパネル操作振動の ON/OFF

タッチパネル操作時の振動の ON/OFF 設定ができます。

設定項目： TOUCH PANEL
設定値： NORMAL / FORCE

NORMAL： 操作入力時に振動させない。
FORCE： 操作入力時に振動させる。

タッチパネルの調整

LCD上の表示位置とタッチパネル上のタッチ位置が一致しなくなった場合に調整してください。

設定項目： SCREEN ALIGNMENT
設定値： / RESET

1. SCREEN ALIGNMENT の [>>] にタッチする。
調整画面に切りかわる。
2. 左下の [] マークに正確にタッチする。
調整画面が切りかわる。
3. 右上の [] マークに正確にタッチする。
調整を終了して、DISPLAYセットアップモード画面に戻る。



Memo

- [] マークでないところへタッチした場合は、[RESET] にタッチしてください。工場出荷時の調整画面に戻ります。
- 調整画面上の [RETURN] にタッチした場合は、何も調整されず、DISPLAYセットアップ画面に戻ります。

Media Xpander 機能

MX モードの設定

MX(Media Xpander)は、ラジオ/CD/MP3など音楽ソースごとにボーカルや各楽器の音を際立たせ、走行騒音の多い車内においても音楽をクリアに再生することができます。

- 1** 各ソースメイン画面上の[SYS.]にタッチする。
SYSTEM 選択画面が表示される。
- 2** [i-Personalize]にタッチする。
i-Personalize 画面に切りかわる。
- 3** MEDIA XPANDER の[◀]または[▶]にタッチして、MX の ON/OFF を選ぶ。
OFF：すべての音楽ソースの MX 効果が OFF になる。
ON：設定した MX モードを ON にする。
- 4** ON 設定後、[>>]にタッチする。
Media Xpander 設定画面に切りかわる。
- 5** お好みの MX モードの[◀]または[▶]にタッチする。
音楽ソース（AM ラジオを除くラジオ/CD など）ごとにレベルが調整できる。
 - MX CD（OFF、CD1～3）
情報量豊富なCD。その情報量を活かしたメリハリのある音を再生する。
 - MX COMPRESS MEDIA（OFF、CMPM1～3）
圧縮時に欠落された情報を補正し、原音に近いバランスのとれた音を再生する。
 - MX FM（OFF、FM1～3）
こもりがちな中高域の音をよりクリアにし、全帯域にバランスのとれた音を再生する。
 - MX DVD
 - ・（OFF、MOVIE 1～2）
映画ディスクのセリフ部分をより鮮明に再生する。
 - ・（DVD MUSIC）
ミュージッククリップなどの情報量豊富なディスク。その情報量を活かし、メリハリのある音を再生する。
 - MX AUX1～3（OFF、MP3、MOVIE、MUSIC）
接続するメディアに対応した MX モード（MP3、MUSIC、MOVIE）が選べる。
- 6** 設定が終了したら[RETURN]にタッチすると、1つ前の画面に戻る。
[MAIN CONT.]にタッチすると、MX 設定前のメインソース画面に戻る。



Memo

- MXレベルは1→2→3の順に効果が大きくなります。
- MP3/WMA、MMDモード時は、「MX COMPRESS MEDIA」に割り当てられます。
- MX AUXは「AUXモードを設定する」(41ページ)でON設定のときに表示します。
- 「オーディオ調整」(27ページ)でデフィートがONのときは、操作を受け付けません。
- TV、NAV.モード時は本設定はできません。
- MX連動機能を持つオーディオプロセッサー製品(PXA-H700など)と組み合わせた場合、オーディオプロセッサー側のMX内容と連動させることができます。その場合オーディオプロセッサー側での設定が必要になります。詳しくは、オーディオプロセッサー側の取扱説明書をご覧ください。
その他のオーディオプロセッサーと組み合わせた場合は、操作を受け付けません。

Bass Engine 機能

Bass Engine の設定

次の手順 1 ～ 6 は、Bass Engine 設定の共通操作になります。設定項目の詳細は、それぞれの項目を参照してください。

- 1 各ソースメイン画面上の[SYS.]にタッチする。
SYSTEM 選択画面が表示される。
- 2 [i-Personalize]にタッチする。
i-Personalize 画面に切りかわる。
- 3 BASS ENGINE の[>>]にタッチする。
Bass Engine 設定画面に切りかわる。
- 4 お好みの Bass Engine 設定項目の[>>]にタッチする。
設定項目：
BASS MAX EQ / P-EQ / BASS FOCUS /
T.CORR (TIME CORRECTION) / X-OVER / SUB
WOOFER
- 5 選んだ設定項目の[◀]または[▶]にタッチして設定をかえる。
・設定後は、設定内容を記憶することをお勧めします。
- 6 [RETURN]にタッチすると、1 つ前の画面に戻る。
[MAIN CONT.]にタッチすると、Bass Engine 設定前のメインソース画面に戻る。

Bass EQ モードを選ぶ (メーカー設定)

設定項目： BASS MAX EQ

設定値： FLAT / ROCK / POPS / JAZZ /
ELECTRIC / HIPHOP / EASY / COUNTRY
/ CLASSIC / NEWS / CUSTOM*

* パラメトリックEQで調整した内容。

パラメトリックEQの調整と記憶 / 呼び出し

グラフィックEQでは隣接する帯域まで変化するため、ピーク(山)やディップ(谷)での急峻な特性の乱れをスポット的に補正するには限界があります。パラメトリックEQは、中心周波数、Q (帯域幅)、レベルをそれぞれ任意に調整可能ですので、狙った帯域だけを微妙に調整することができます。高度で本格的な補正、音創りを行うにはこのパラメトリックEQが有効なのです。

「周波数帯域と音質について」(86 ページ)も調整の際の参考にしてください。

設定項目： P-EQ → HIGH/MID-HIGH/MID-LOW/
LOW

設定値： FREQ / LEVEL / Q

1. P-EQ の[>>]にタッチする。
P-EQ セットアップ画面に切りかわる。
2. 調整したい項目にタッチする。
FREQ： 中心周波数を調整する。
LEVEL： レベルを調整する。
Q： バンド幅 (Q) を調整する。
3. 手順 2 を選択後、お好みのバンドの[◀]または[▶]にタッチして調整する。

中心周波数

HIGH： 10kHz、12.5kHz、15kHz、
MID-HIGH：500Hz、700Hz、1kHz、2kHz、
4kHz、6kHz
MID-LOW：100Hz、150Hz、200Hz
LOW： 40Hz、60Hz、90Hz

レベル ± 12

バンド幅

HIGH： 1.0 (HIGH はバンド幅の設定変更は
できません。)
MID-HIGH：1.0、2.0、3.0
MID-LOW：1.0、1.5、2.0
LOW： 1.0、2.0、3.0

・パラメトリックEQの設定を行うと、Bass EQ モードの設定値は、CUSTOM になります。

4. さらに別のバンドを調整するには、手順 2,3 を繰り返す。
5. [RETURN]にタッチすると、1 つ前の画面に戻る。

[調整した内容を記憶する]

「パラメトリックEQの調整と記憶 / 呼び出し」の手順 5 の後に次の操作を行う。

6. [MEMORY]にタッチする。
7. 5 秒以内に BASS ENGINE 画面上の[P.SET 1]～[P.SET 6]のいずれかにタッチする。
調整した内容がタッチした P.SET No. に記憶される。



- Bass Engine の各設定項目の調整/設定した内容をまとめてPreset 1 ～ 6 に記憶させることができます。
- プリセット No. に記憶した内容はリセットしたときやバッテリー電源コードを外したときでも消去されません。

[記憶した調整内容を読み出すには]

「パラメトリックEQの調整と記憶 / 呼び出し」の手順 5 の後に次の操作を行う。

6. BASS ENGINE 画面上的 [P.SET1] ~ [P.SET6] のいずれかにタッチする。

記憶した調整内容を読み出す。



- 隣り合うバンドの周波数は4ステップ以内に調整することはできません。
- 「オーディオ調整 (27 ページ) でディフィートがONの時は、操作を受け付けません。

Bass Focus の調整と記憶 / 呼び出し

あらかじめ設定されているステップ値(時間差)を使用することで、前後 / 左右同時に時間差を設定することができ、感覚的に時間補正を調整することができます。

ステップは、0.1ms 間隔で 0 ~ 99 ステップ用意しています。

設定項目 : BASS FOCUS

設定値 : 0 ~ 99

1. BASS FOCUS の [>>] にタッチする。
BASS FOCUS セットアップ画面に切りかえる。
2. 前後左右のスピーカーいずれかの [◀] または [▶] にタッチして、前後 / 左右のステップを設定する。
3. さらに別のチャンネル (スピーカー) を設定するには、手順 2 を繰り返す。
4. [RETURN] にタッチすると、1 つ前の画面に戻る。



- Bass Focus での設定は、タイムコレクションにも反映されます。
- 運転席では低音の遅れが原因で音楽が鈍く聴こえがちです。Bass Focus を使うことで、音場位置を見かけ上前方に移動し、最適な音場バランスが得られます。

[調整した内容を記憶する]

「Bass Focus の調整と記憶 / 呼び出し」の手順 4 の後に次の操作を行う。

5. [MEMORY] にタッチする。
6. 5 秒以内に BASS ENGINE 画面上的 [P.SET1] ~ [P.SET6] のいずれかにタッチする。
調整した内容がタッチした P.SET No. に記憶される。



- Bass Engine の各設定項目の調整 / 設定した内容をまとめて Preset 1 ~ 6 に記憶させることができます。
- プリセット No. に記憶した内容はリセットしたときやバッテリー電源コードを外したときでも消去されません。

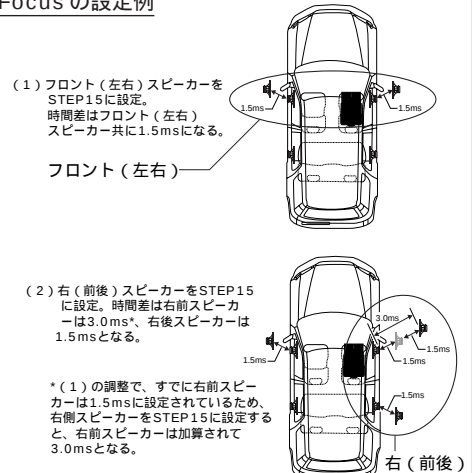
[調整した内容を呼び出すには]

「Bass Focus の調整と記憶 / 呼び出し」の手順 4 の後に次の操作を行う。

5. BASS ENGINE 画面上的 [P.SET1] ~ [P.SET6] のいずれかにタッチする。

記憶した調整内容を読み出す。

Bass Focus の設定例



時間差表

STEP数	時間差(ms)	距離(cm)	STEP数	時間差(ms)	距離(cm)
0	0.0	0.0	50	5.0	171.5
1	0.1	3.4	51	5.1	174.9
2	0.2	6.9	52	5.2	178.4
3	0.3	10.3	53	5.3	181.8
4	0.4	13.7	54	5.4	185.2
5	0.5	17.2	55	5.5	188.7
6	0.6	20.6	56	5.6	192.1
7	0.7	24.0	57	5.7	195.5
8	0.8	27.4	58	5.8	198.9
9	0.9	30.9	59	5.9	202.4
10	1.0	34.3	60	6.0	205.8
11	1.1	37.7	61	6.1	209.2
12	1.2	41.2	62	6.2	212.7
13	1.3	44.6	63	6.3	216.1
14	1.4	48.0	64	6.4	219.5
15	1.5	51.5	65	6.5	223.0
16	1.6	54.9	66	6.6	226.4
17	1.7	58.3	67	6.7	229.8
18	1.8	61.7	68	6.8	233.2
19	1.9	65.2	69	6.9	236.7
20	2.0	68.6	70	7.0	240.1
21	2.1	72.0	71	7.1	243.5
22	2.2	75.5	72	7.2	247.0
23	2.3	78.9	73	7.3	250.4
24	2.4	82.3	74	7.4	253.8
25	2.5	85.8	75	7.5	257.3
26	2.6	89.2	76	7.6	260.7
27	2.7	92.6	77	7.7	264.1
28	2.8	96.0	78	7.8	267.5
29	2.9	99.5	79	7.9	271.0
30	3.0	102.9	80	8.0	274.4
31	3.1	106.3	81	8.1	277.8
32	3.2	109.8	82	8.2	281.3
33	3.3	113.2	83	8.3	284.7
34	3.4	116.6	84	8.4	288.1
35	3.5	120.1	85	8.5	291.6
36	3.6	123.5	86	8.6	295.0
37	3.7	126.9	87	8.7	298.4
38	3.8	130.3	88	8.8	301.8
39	3.9	133.8	89	8.9	305.3
40	4.0	137.2	90	9.0	308.7
41	4.1	140.6	91	9.1	312.1
42	4.2	144.1	92	9.2	315.6
43	4.3	147.5	93	9.3	319.0
44	4.4	150.9	94	9.4	322.4
45	4.5	154.4	95	9.5	325.9
46	4.6	157.8	96	9.6	329.3
47	4.7	161.2	97	9.7	332.7
48	4.8	164.6	98	9.8	336.1
49	4.9	168.1	99	9.9	339.6

タイムコレクション（時間補正）について

車という特殊な条件下であるため、リスニングポジションとそれぞれのスピーカーの距離に大きなばつぎがあります。リスニングポジションでの時間差を取り除くときにこの機能を使います。ここでは、時間補正値の算出方法について説明します。

- 1** リスニングポジション（運転席など）に座り、頭の位置と各スピーカーの距離（m）を測定する。
- 2** 一番遠いスピーカーの距離とその他のスピーカーの距離の差を算出する。
 $L = (\text{一番遠いスピーカーの距離}) - (\text{それぞれのスピーカーの距離})$
- 3** スピーカーごとに算出した距離を音速（343m/s 気温20℃）で割る。
 その値が各スピーカーの時間補正値となる。

● 具体例

下記イラストのフロント右側スピーカーの時間補正値を算出する。

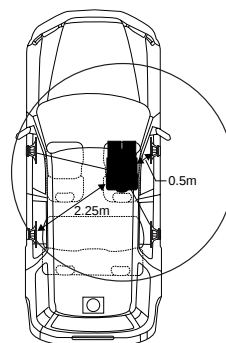
（条件）：

一番遠いスピーカー～リスニングポジション：2.25m
 フロント右側スピーカー～リスニングポジション：0.5m

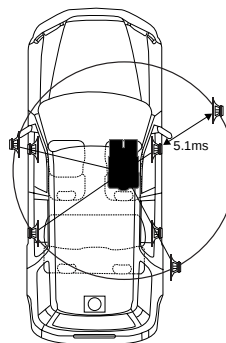
（算出）： $L = 2.25\text{m} - 0.5\text{m} = 1.75\text{m}$

補正時間 = $1.75 \div 343 \times 1000 = 5.1\text{ (ms)}$

つまり、フロント右側スピーカーの時間補正値に5.1(ms)を与えることで、見かけの距離を持たせて、一番遠いスピーカーと距離を一致させる。



リスニングポジションと各スピーカーまでの距離が違うために偏った音になる。右前スピーカーと左後スピーカーでは1.75mの差がある。



時間補正により到達時間差が解消される。

右前スピーカーに5.1msの時間補正を行い、リスニングポイントとスピーカーまでの距離の整合をとることができる。



Memo

- サブウーハー の時間補正はできませんが、フロント/リアスピーカーの時間補正を行うことで、サブウーハーをフロント方向に定位させることができます。
- 車種・システムに合わせたタイムコレクションのデータを、アルパインオーナー専用Webサイトの「i-Personalize™」にアクセスし、Web上からプリントアウトしたデータを参考に、マニュアル入力してください。
 ただし、車種によってはデータがない場合があります。詳しくはALPINE Webサイトをご覧ください。(<http://www.alpine.co.jp>)

タイムコレクションの調整と記憶 / 呼び出し

操作の前に「タイムコレクション(時間補正)」について(48ページ)を参照してください。

設定項目: T.CORR (TIME CORRECTION)

設定値: 0.0 ~ 9.9

1. T.CORR の[>>]にタッチする。
T-CORR. セットアップ画面に切りかわる。
2. お好みのスピーカーの[◀]または[▶]にタッチして、時間補正值(0.0 ~ 9.9)を調整する。
3. さらに別のスピーカーを調整するには、手順2を繰り返す。
4. [RETURN]にタッチすると、1つ前の画面に戻る。



- タイムコレクション(時間補正)での調整値は、Bass Focusモードにも反映されます。

[調整した内容を記憶する]

「タイムコレクションの調整と記憶 / 呼び出し」の手順4の後に次の操作を行う。

5. [MEMORY]にタッチする。
6. 5秒以内にBASS ENGINE 画面上の[P.SET1] ~ [P.SET6]のいずれかにタッチする。
調整した内容がタッチしたプリセット No. に記憶される。



- Bass Engineの各設定項目の調整/設定した内容をまとめてPreset1 ~ 6に記憶させることができます。
- プリセットNo.に記憶した内容はリセットしたときやバッテリー電源コードを外したときでも消去されません。

[記憶した時間補正值を呼び出すには]

「タイムコレクションの調整と記憶 / 呼び出し」の手順4の後に次の操作を行う。

5. BASS ENGINE 画面上の[P.SET1] ~ [P.SET6]のいずれかにタッチする。
記憶した調整内容を呼び出す。

X-OVER の調整と記憶 / 呼び出し

HPF (ハイパスフィルター) / LPF (ローパスフィルター)を設定することで好みの音響空間を再現することができます。

設定項目: X-OVER

設定値: LPF / HPF

1. X-OVER の[>>]にタッチする。
X-OVER セットアップ画面に切りかわる。
2. LPFまたはHPFの[◀]または[▶]にタッチして、LPF/HPFの調整をする。
LPF: 設定した周波数より下の周波数帯域を出力する。
本機のサブウーハー出力をOFFに設定した場合、LPF機能は使用できません。
HPF: 設定した周波数より上の周波数帯域を出力する。
3. [RETURN]にタッチすると、1つ前の画面に戻る。



- HPF, LPFをOFF以外に設定した場合は、本機のサブウーハー出力はモノラルになります。

[調整した内容を記憶する]

「X-OVERの調整と記憶 / 呼び出し」の手順3の後に次の操作を行う。

4. [MEMORY]にタッチする。
5. 5秒以内にBASS ENGINE 画面上の[P.SET1] ~ [P.SET6]のいずれかにタッチする。
調整した内容がタッチしたプリセット No. に記憶される。



- Bass Engineの各設定項目の調整/設定した内容をまとめてPreset1 ~ 6に記憶させることができます。
- プリセットNo.に記憶した内容はリセットしたときやバッテリー電源コードを外したときでも消去されません。

[記憶した調整内容を呼び出すには]

「X-OVERの調整と記憶 / 呼び出し」の手順3の後に次の操作を行う。

4. BASS ENGINE 画面上の[P.SET1] ~ [P.SET6]のいずれかにタッチする。
記憶した調整内容を呼び出す。

サブウーハーのON/OFF

設定項目: SUBWOOFER

設定値: OFF / 0° / 180°

OFF: サブウーハー出力はOFFになる。

0°: サブウーハー出力をONにし、位相を0°にする。

180°: サブウーハー出力をONにし、位相を180°にする。



- 0°または180°で低音の出ている方(低音を強く感じる方)を選択してください。
- 本設定をPreset1 ~ 6に記憶させることはできません。

VISUAL EQ™

VISUAL EQ 設定機能

次の手順 1 ~ 6 は、VISUAL EQ 設定機能の共通操作になります。設定機能項目の詳細は、それぞれの設定項目を参照してください。

- 1 各メインソース画面上の [SYS.] にタッチする。
SYSTEM 選択画面が表示される。
- 2 [i-Personalize] にタッチする。
i-Personalize 画面に切りかわる。
- 3 VISUAL EQ の[>>]にタッチする。
VISUAL EQ 画面に切りかわる。
- 4 [▲]または[▼]にタッチして、お好みの設定項目を選ぶ。
設定項目：
VISUAL EQ* ↔ BRIGHT ↔ COLOR* ↔ TINT* ↔
CONTRAST ↔ SHARP* ↔ USER MEMORY*
* 映像ソースモード時に設定可能(ナビ画面除く)。
- 5 選んだ設定項目の[◀]または[▶]にタッチして設定をかける。
- 6 [RETURN] にタッチすると、1 つ前の画面に戻る。
[MAIN CONT.]にタッチすると、設定操作前のメインソース画面に戻る。

VISUAL EQ モードを選ぶ(メーカー設定)

色々な映像に応じて、モードを選ぶことができます。

- 設定項目： VISUAL EQ
設定値： OFF(FLAT) / NIGHT M. / SOFT / SHARP
/ CONTRAST / P-1 / P-2
- OFF(FLAT)： 工場出荷時設定
NIGHT M.： 暗いシーンが中心の映画に最適
SOFT： CG、アニメーションの映画に最適
SHARP： 映像がくっきりしていない古い映画に最適
CONTRAST： 最新の映画に最適
P-1： 「VISUAL EQを記憶する(51ページ)」でプリセット No. P-1 に記憶した VISUAL EQ モードを呼び出す。
P-2： 「VISUAL EQを記憶する(51ページ)」でプリセット No. P-2 に記憶した VISUAL EQ モードを呼び出す。



- NIGHT M. ~ CONTRASTのいずれかを選択後、お好みで映像の明るさや色の濃さを調整した後に、あらためて初期値に戻す場合は、本機能の設定をOFFにしてください。
- NIGHT M. ~ CONTRASTのいずれかを選択後、お好みで映像の明るさや色の濃さを調整した場合は、CUSTOMと表示されます。

映像の明るさを調整する

- 設定項目： BRIGHT
設定値： - 15 ~ + 15
- 15 ~ + 15 の間で明るさを調整する。最大値時は「MAX」、最小値時は「MIN」と表示する。

映像の色の濃さを調整する

- 設定項目： COLOR
設定値： - 15 ~ + 15
- 15 ~ + 15 の間で色の濃さを調整する。最大値時は「MAX」、最小値時は「MIN」と表示する。



- 色の濃さの調整は、TV、AUX(AUX IN1、2)、DVD/ビデオCD、NAV(RGB NAV以外)モード時のみ可能です。

映像の色あいを調整する

- 設定項目： TINT
設定値： G15 ~ R15
- G15 ~ R15 の間で色あいを調整する。最大値時は「G MAX」、「R MAX」とそれぞれ表示する。



- 色あいの調整は、TV、AUX(AUX IN1、2)、DVD/ビデオCD、NAV(RGB NAV以外)モード時のみ可能です。

映像コントラストを調整する

設定項目： CONTRAST

設定値： - 15 ~ + 15

- 15 ~ + 15 の間でコントラストの調整をする。最大値時は「HIGH」、最小値時は「LOW」と表示する。

映像画質を調整する

設定項目： SHARP

設定値： - 15 ~ + 15

- 15 ~ + 15 の間で画質の調整をする。最大値時は「HARD」、最小値時は「SOFT」と表示する。

**Memo**

- 映像画質の調整は、TV、AUX(AUX IN1、2)、DVD/ビデオCD、NAV(RGB NAV以外)モード時のみ可能です。

VISUAL EQ を記憶する

お好みで調整した「映像の明るさ / 色合い / 濃さ / 画質 / コントラストを調整する」を記憶することができます。

設定項目： USER MEMORY

設定値： P-1 / P-2

1. 「映像の明るさ / 色合い / 濃さ / 画質 / コントラストを調整する (50 ~ 51 ページ) を調整後、USER MEMORY の[◀]または[▶]にタッチして、記憶させたいプリセット No. P-1、P-2 を選ぶ。
2. プリセット No. 選択後、[WRITE] にタッチする。
調整した VISUAL EQ モードは記憶される。

**Memo**

- ここで記憶した VISUAL EQ モードは、「VISUAL EQ モードを選ぶ (50 ページ) の P-1、P-2 から呼び出すことができます。

Data Download

SOUND SETUP ダウンロードについて

アルパインオーナー専用Webサイト上に車種・システムに合わせた車室内音響セッティングデータを公開しています。このデータベースをもとに自在にカスタマイズした音響セッティングデータをダウンロードし、CD-R/CD-RWまたはHDD、“MGメモリースティック”に保存した後、本機にダウンロードし記憶することができます。

サービスを開始するには下記のURLにアクセスし、画面上の指示に従って操作してください。

<http://www.alpine.com>または<http://www.alpine.co.jp>

ダウンロードできるデータ

パラメトリックEQ	パラメトリックEQモードのPreset6にメモリーします。
タイムコレクション	タイムコレクションモードのPreset6にメモリーします。
X-OVER	X-OVERモードのPreset6にメモリーします。

・ダウンロードデータのファイル名は、

「A_U*****.MP3」とする。

A_U*****.MP3

└── 拡張子（固定）
└── 識別子（任意の英数字、最大5文字）
└── ヘッダー（固定）

ファイル名はWebサイト上で設定できます。ただし、それ以降に変更はしないでください。動作不良の原因となります。



- ・ダウンロード手順については、ALPINEのWebサイトをご覧ください。
- ・外部オーディオプロセッサを追加した場合は、ダウンロードしたデータを使用できません。

SOUND SETUP データのダウンロード

データダウンロードする場合は、GENERALセッティングの「MP3/WMA再生データの設定」を“MP3”に設定してください。

- 1 データが入っているCD-R/CD-RWディスクを挿入する。すでにディスクが入っているときは、本体の「SOURCE/POWER」を押して[DVD PLAYER]にタッチする。



- ・別売の*HDA-5460MS、HDA-5465MSまたはMDA-5060MS、MDA-5065MS接続時は、データが入っているHDDまたは「MGメモリースティック」をスレーブ製品に挿入後、本機でMM DRIVERメインソース画面を選んでから手順2～7の操作を行ってください。

* HDDまたは「MGメモリースティック」の選択が必要です。詳しくは、HDA-5460MS、HDA-5465MS取扱説明書の「アップロードメディアの選択」をご覧ください。

- 2 [SYS.]にタッチする。
SYSTEM 選択画面に切りかわる。
- 3 [i-Personalize]にタッチする。
i-Personalize 画面に切りかわる。
- 4 DATA DOWNLOADの[>>]にタッチする。
- 5 SOUND SETUPの[>>]にタッチする。
ディスク内のデータサーチを開始し、データサーチ終了後、Data Download ファイル選択画面が表示される。



- ・データサーチでファイルが見つからない場合は、「NO FILE」と表示します。

- 6 ダウンロードするファイルの[>>]にタッチする。
データのダウンロードを開始する。
データのダウンロードが正常終了すると確認画面を5秒間表示し、ファイル選択画面に戻ります。
 - ・PARAMETRIC EQ: パラメトリックEQデータ
パラメトリックEQモードのPreset6にメモリーされ、自動的にPreset6の設定に変更されます。
 - ・TIME CORRECTION: タイムコレクションデータ
タイムコレクションモードのPreset6にメモリーされ、自動的にPreset6の設定に変更されます。
 - ・X-OVER: X-OVERデータ
X-OVERモードのPreset6にメモリーされ、自動的にPreset6の設定に変更されます。

- 7 [RETURN]にタッチすると、1つ前の画面に戻る。
[MAIN CONT.]にタッチすると、設定前のメインソース画面に戻る。



- ・新たにダウンロードした場合は、上書きでメモリーされます。

MY BACKGROUND について

お好みの壁紙を本機にダウンロードし、記憶することができます。

下記規定サイズ以内でJPEGファイルデータだけのCD-R/CD-RWを作成してください。

画面サイズ： 720 dot × 480 dot

最大容量： 256,000 byte

ダウンロードデータファイル名は、拡張子(.JPG)含めて27文字以内で作成してください。

MY BACKGROUND データのダウンロード

- 1 データが入っているCD-R/CD-RWディスクを挿入する。
すでにディスクが入っているときは、本体の「SOURCE/POWER」を押して[DVD PLAYER]にタッチする。

- 2 [SYS.]にタッチする。
SYSTEM 選択画面に切りかわる。

- 3 [i-Personalize]にタッチする。
i-Personalize 画面に切りかわる。

- 4 Data Download の[>>]にタッチする。



- データサーチでファイルが見つからない場合は、「NO FILE」と表示します。

- 5 MY BACKGROUND の[>>]にタッチする。
ディスク内のデータサーチを開始し、データサーチ終了後、Data Download ファイル選択画面が表示される。

- 6 ダウンロードするファイルの[>>]にタッチする。
JPG ファイルが表示され、[MEMORY]にタッチする。
データのダウンロードを開始する。
データのダウンロードが正常終了すると、ファイル選択画面に戻ります。

- 7 [RETURN]にタッチすると、1つ前の画面に戻る。
[MAIN CONT.] にタッチすると、設定前のメインソース画面に戻る。



- 新たにダウンロードした場合は、上書きでメモリーされます。
- ファイル選択画面上のリストに表示できるJPEGファイル数は、最大200までです。
- バッテリー電源コードを外した場合、ダウンロードしたデータは消去されます。

AMP link の設定(オプション)

外部アンプの調整と記憶 / 呼び出し (オプション)

外部アンプ接続時、外部アンプ(MRD-M301、MRD-M501)の設定を本機から行うことができます。最大8台までの外部アンプの設定が可能です。



Memo

- 本機側でアンプの調整中に、アンプ本体のキーで調整モードの変更は行わないでください。本機とアンプとで調整モードがずれることがあります。

- 1 各メインソース画面上の[SYS.]にタッチする。
SYSTEM 選択画面に切りかわる。

- 2 [i-Personalize]にタッチする。
i-Personalize 画面に切りかわる。

- 3 AMPLIFIER LINK の[>>]にタッチする。
AMPLIFIER LINK リスト画面*に切りかわる。

* 接続されている外部アンプがリスト表示され、温度表示(摂氏) 電圧、電流が表示される。

- 4 AMPLIFIER LINK リスト画面から、調整したいアンプの[>>]にタッチする。
調整したいモードリスト画面に切りかわる。

- 5 お好みの調整モードの[◀]または[▶]にタッチして調整する。

調整モード：

INPUT SELECT / INPUT GAIN / INPUT GAIN FACTOR / LP / LP FREQ. / LP SLOPE / SUBSONIC / SUBSONIC FREQ. / P-EQ / P-EQ FREQ. / P-EQ Q / P-EQ LEVEL / BASS COMP. / BASS COMP.MODE / T.CORR / T.CORR DELAY TIME / PHASE / TURN ON DELAY TIME / OUTPUT DISABLE / MEMORY WRITE / MEMORY READ / NAME



Memo

- 調整モードについての詳細は、外部アンプ側の取扱説明書をご覧ください。

(次ページへつづく)

6 さらに別のアンプを調整するには、[RETURN]にタッチして手順 4、5 を繰り返す。

7 [RETURN] にタッチすると、1 つ前の画面へ戻る。
[MAIN CONT.]にタッチすると、アンプ調整前のメインソース画面に戻る。

[アンプ調整内容を記憶させるには]

1. アンプを調整したあと、調整モードリストから MEMORY WRITE の[◀] [▶] にタッチして、P-1 または P-2 を選ぶ。
2. [WRITE] にタッチする。
調整した内容がタッチしたプリセット No. に記憶される。



- プリセットNo.に記憶した内容はリセットしたときやバッテリー電源コードを外したときでも消去されません。

[記憶したアンプ調整を呼び出すには]

1. 調整モードリストから MEMORY READ の[◀] [▶] にタッチして、P-1 または P-2 を選ぶ。
2. [READ] にタッチする。
記憶した調整内容を呼び出す。

アンプにタイトルをつけるには

1. AMPLIFIER LINK リスト画面から、タイトルをつけたいアンプの[>>]にタッチする。
調整モードリスト画面に切りかわる。
2. NAME の[>>]にタッチする。
タイトル入力画面に切りかわる。
3. お好みの文字記号にタッチする。
8 文字まで入力できる。
4. 入力後、[ENT] にタッチして、タイトルを確定する。
確定と同時に 1 つ前の画面に戻る。AMPLIFIER LINK リスト画面上には入力したタイトルが表示される。

外部アンプ状態の表示

接続しているAMP Link対応の外部アンプ(MRD-M301、MRD-M501) の状態を表示することができます。

1. 各メインソース画面上の [V.SEL] にタッチする。
VISUAL 選択画面が表示される。
2. [AMP STATUS] にタッチする。
AMP ステータス画面に切りかわる。

<AMP ステータス画面表示例>



3. AMPステータス画面を解除するには[V.SEL]にタッチする。
VISUAL 選択画面が表示される。
4. [NORMAL] にタッチする。
通常画面に戻る。

外部オーディオプロセッサの操作 (オプション)

外部オーディオプロセッサと接続している場合は、本機から操作することができます。但し、接続するオーディオプロセッサによって、操作できない場合もあります。ここでは、PXA-H700またはPXA-H701と接続した場合を例に説明します。接続しているオーディオプロセッサ側の取扱説明書も合わせてご覧ください。

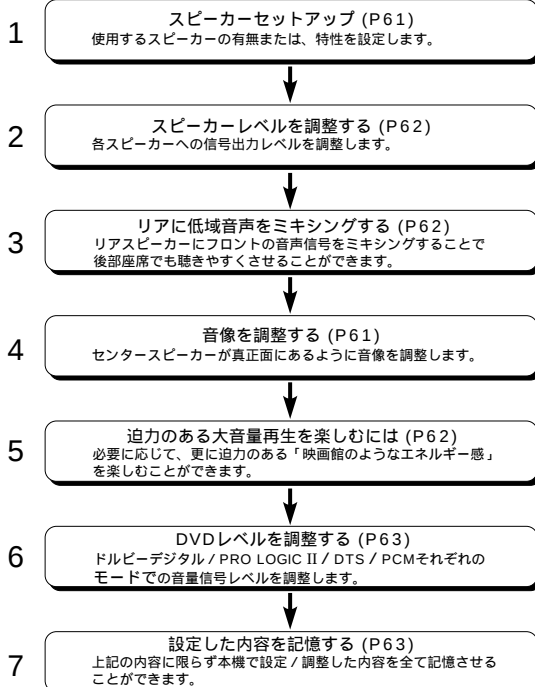
- PXA-H510またはPXA-H900と接続している場合は、一部の操作が本機からできません。その場合は、PXA-H510またはPXA-H900側で操作を行ってください。
- 設定の調整は、車を停止させてから行ってください。
- 接続しているオーディオプロセッサ側で調整/設定を行っているときは、本機から正しく操作することはできません。



ドルビーサラウンドの調整手順

ドルビーデジタルやDTSサウンドをより正確に再現するには下記調整を行ってください。

< 調整手順 >



- 自動調整などと組み合わせて使用する場合は、ドルビーサラウンドの調整前に行うことをお勧めします。

スピーカーの設定をする

- 1 ディフューズがOFFであることを確認する。(27ページ参照)
- 2 各メインソース画面の [SYS.] にタッチする。
SYSTEM 選択画面が表示される。
- 3 [i-Personalize] にタッチする。
i-Personalize 画面に切りかわる。
- 4 A.PROCESSOR の [>>] にタッチする。
A.PROC リスト画面が表示される。
- 5 SPEAKER SELECT の [>>] にタッチする。
SPEAKER SELECT 画面に切りかわる。
- 6 接続しているスピーカーの [◀] または [▶] にタッチしてスピーカーの設定をする。
FRONT1 : OFF/FULL(Full Range)/
TW(Tweeter)
FRONT2 : OFF/ON
REAR : OFF/ON
CENTER : OFF/ON
SUBWOOFER : OFF/MONO/STEREO
- 7 [RETURN] にタッチすると、1 つ前の画面へ戻る。



Memo

- 接続していないスピーカーはOFFに設定する。
- 「スピーカーセッアップ (61ページ)」で設定したスピーカーがOFFの状態でも上記設定はできます。
- PXA-H700またはPXA-H701接続時、サブウーハーをMONOで使用する時には、PXA-H700またはPXA-H701側のサブウーハー出力端子へサブウーハーを接続してください。

外部オーディオプロセッサのMX モードを設定する

PXA-H700 接続時は、PXA-H700 側のMX(Media Xpander)モードの設定を「AUTO」にしてから下記操作を行ってください。

- 1 ディフイートがOFFであることを確認する。(27 ページ参照)
- 2 各メインソース画面の[SYS.]にタッチする。
SYSTEM 選択画面が表示される。
- 3 [i-Personalize] にタッチする。
- 4 MEDIA XPANDER の[◀]または[▶]にタッチして、MX のON/OFF を選ぶ。
OFF: すべての音楽ソースのMX 効果がOFF になる。
ON: 設定したMX モードをON にする。
- 5 ON 設定後、[>>] にタッチする。
MediaXpander 設定画面に切りかわる。
- 6 お好みのMX モードの[◀]または[▶]にタッチする。
• 音楽ソース(AM ラジオを除くラジオ/CD など)についてのレベルが調整できる。

MX CD (OFF、CD1 ~ 3)

情報量豊富なCD。その情報量を活かしたメリハリのある音を再生する。

MX COMPRESS MEDIA (OFF、CMPM1 ~ 3)

圧縮時に欠落された情報を補正し、原音に近いバランスのとれた音を再生する。

MX FM (OFF、FM1 ~ 3)

こもりがちな中高域の音をよりクリアにし、全帯域にバランスのとれた音を再生する。

MX DVD

(OFF、MOVIE 1 ~ 2)

映画ディスクのセリフ部分をより鮮明に再生する。

(DVD MUSIC)

ミュージッククリップなどの情報量豊富なディスク。その情報量を活かし、メリハリのある音を再生する。

MX AUX1 ~ 3 (OFF、MP3、MOVIE、MUSIC)

接続するメディアに対応したMX モード(MP3、MUSIC、MOVIE)が選べる。

- 7 [RETURN] にタッチすると、1 つ前の画面へ戻る。



Memo

- ここで設定した内容は、PXA-H700またはPXA-H701側のMXモードに反映されます。
- OFFに設定すると各MXモードのMX効果がOFFになります。
- ラジオ/CD/MP3などの各音楽ソースごとに設定することができます。
- MP3/WMA、MMDモード時は「MX COMPRESS MEDIA」に割りあてられます。

X-OVER の調整

- 1 ディフィートが OFF であることを確認する。
- 2 各メインソース画面の [SYS.] にタッチする。
SYSTEM 選択画面が表示される。
- 3 [i-Personalize] にタッチする。
i-Personalize 画面に切りかわる。
- 4 A.PROCESSOR の[>>]にタッチする。
A.PROC リスト画面が表示される。
- 5 X-OVER の[◀]または[▶]にタッチして、L/R または L + R を選ぶ。
L/R : チャンネルL/Rで独立した調整値に設定できる。
L + R : チャンネルL/Rで同じ調整値に設定される。
- 6 X-OVER の[>>]にタッチする。
X-OVER 調整画面に切りかわる。
- 7 お好みの調整モードにタッチする。
FREQ : HPF または LPF のカットオフ周波数を調整する。
調整できる帯域はチャンネル(スピーカー)によって異なる。
SLOPE : HPF または LPF のスロープを調整する。
LEVEL : HPF または LPF のレベルを調整する。
- 8 設定したいスピーカーの[◀]または[▶]にタッチして、チャンネル調整をする。
- 9 さらに別のチャンネルを調整するには、手順 7、8 を繰り返す。
- 10 [RETURN] にタッチすると、1 つ前の画面へ戻る。



Memo

- スピーカーがOFFモードの時は、そのスピーカーのX-OVERは設定できません。「スピーカーの設定をする」(55ページ)を参照してください。
- 調整は、接続するスピーカーの再生周波数を確認して調整してください。
- スピーカーを保護するためサブウーハー-L.P.F.でのフィルターOFF(スロープOFF)設定はありません。
- FRONT 1でTweeterを選択している場合でも、H.P.F.でのフィルターOFF(スロープOFF)設定は可能です。但し、スロープOFFに設定した場合は、スピーカー破損の恐れがあります。設定には十分ご注意ください。

手動で時間補正を行う (TCR)

車という特殊な条件下であるため、リスニングポジションとそれぞれのスピーカーの距離に大きなばらつきがあります。自分で補正値を算出してリスニングポジションでの時間差を取り除く時にこの機能を使います。

【時間補正】

- 1 ディフィートが OFF であることを確認する。
- 2 リスニングポジション(運転席など)に座り、頭の位置と各スピーカーの距離(m)を測定する。
- 3 一番遠いスピーカーの距離とその他のスピーカーの距離の差を算出する。
 $L = (\text{一番遠いスピーカーの距離}) - (\text{それぞれのスピーカーの距離})$
- 4 スピーカーごとに算出した距離を音速(343m/s 気温20℃)で割る。その値が各スピーカーの時間補正値となる。

● 具体例

下記イラストのフロント右側スピーカーの時間補正値を算出する。

(条件):

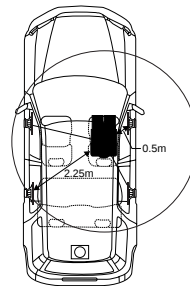
一番遠いスピーカー～リスニングポジション: 2.25m

フロント右側スピーカー～リスニングポジション: 0.5m

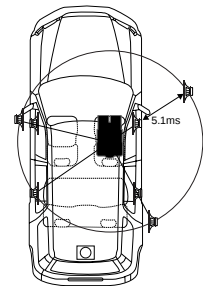
(算出): $L = 2.25\text{m} - 0.5\text{m} = 1.75\text{m}$

補正時間 = $1.75 \div 343 \times 1000 = 5.1(\text{ms})$

つまり、フロント右側スピーカーの時間補正値に5.1(ms)与えることで、見かけの距離を持たせて、一番遠いスピーカーと距離を一致させる。



リスニングポジションと各スピーカーまでの距離が違うために偏った音になる。右前スピーカーと左後スピーカーでは1.75mの差がある。



時間補正により到達時間差が解消される。右前スピーカーに5.1msの時間補正を行い、リスニングポイントとスピーカーまでの距離の整合をとることができる。

- 5 各メインソース画面の [SYS.] にタッチする。
SYSTEM 選択画面が表示される。
- 6 [i-Personalize] にタッチする。
i-Personalize 画面に切りかわる。
- 7 A.PROCESSOR の [>>>] にタッチする。
A.PROC リスト画面が表示される。
- 8 T.CORR の [◀] または [▶] にタッチする。
L/R または L + R を選ぶ。
L/R : チャンネルL/Rで独立した調整値に設定できる。
L + R : チャンネルL/Rで同じ調整値に設定される。
- 9 T.CORR の [>>>] にタッチする。
T-CORR. 調整画面に切りかわる。
- 10 設定したいスピーカーの [◀] または [▶] にタッチして、時間補正值 (0.0 ~ 20.0 ms) を調整する。
(1step=0.1ms)
- 11 [RETURN] にタッチすると、1 つ前の画面へ戻る。



- スピーカーがOFFモードの時は、そのスピーカーのTCRは設定できません。「スピーカーの設定をする」(55ページ) を参照してください。
- タイムコレクション(時間補正)でのFRONT 2 スピーカーの調整値は、「Bass Focusの設定」(60ページ) のFRONTスピーカーにも反映されます。
- 自動調整(AUTO TCR)は本機では操作できません。

位相切りかえ

- 1 デフィートがOFFであることを確認する。(27 ページ参照)
- 2 各メインソース画面の [SYS.] にタッチする。
SYSTEM 選択画面が表示される。
- 3 [i-Personalize] にタッチする。
i-Personalize 画面に切りかわる。
- 4 A.PROCESSOR の [>>>] にタッチする。
A.PROC リスト画面が表示される。
- 5 PHASE の [>>>] にタッチする。
PHASE 調整画面に切りかわる。
- 6 設定したいスピーカーの [◀] または [▶] にタッチして、位相 (0 ° または 180 °) を切りかえる。
- 7 [RETURN] にタッチすると、1 つ前の画面に戻る。

グラフィック EQ の調整

フロント (L/R) / リア (L/R) / センター独立で 31 バンド、サブウーハーは 10 バンドのレベル調整を行えますので、思い通りの音場を再現することができます。

- 1 デフィートがOFFであることを確認する。
- 2 各メインソース画面の [SYS.] にタッチする。
SYSTEM 選択画面が表示される。
- 3 [i-Personalize] にタッチする。
i-Personalize 画面に切りかわる。
- 4 A.PROCESSOR の [>>>] にタッチする。
A.PROC リスト画面が表示される。
- 5 G-EQ の [◀] または [▶] にタッチして、L / R または L + R を選ぶ。
L/R : チャンネルL/Rで独立した調整値に設定できる。
L + R : チャンネルL/Rで同じ調整値に設定される。
• パラメトリック EQ の調整を行うと OFF になる。
- 6 G-EQ の [>>>] にタッチする。
G-EQ リスト画面に切りかわる。
- 7 設定したいスピーカー (チャンネル) の [>>>] にタッチする。
G-EQ 調整画面が切りかわる。
- 8 設定したい周波数の [◀] または [▶] にタッチして、レベルを調整する。
- 9 さらに別の周波数を調整するには、手順 7、8 を繰り返す。
- 10 [RETURN] にタッチすると、1 つ前の画面に戻る。



- スピーカーがOFFモードの時は、そのスピーカーのグラフィックEQは設定できません。「スピーカーの設定をする」(55ページ) を参照してください。
- イコライザーの調整は、接続するスピーカーの再生周波数を確認して調整してください。スピーカーの再生周波数が「 55Hz ~ 30kHz 」の場合、40Hzや20Hzのレベル調整を行っても効果がない場合もあります。
- グラフィックEQの調整を行うと、パラメトリックEQでの調整は無効になります。

パラメトリック EQ の調整

グラフィックEQでは隣接する帯域まで変化するため、ピーク(山)やディップ(谷)での急峻な特性の乱れをスポット的に補正するには限界があります。パラメトリックEQは、中心周波数、Q(帯域幅)、レベルがそれぞれ任意に調整可能ですので、狙った帯域だけを微妙に調整することができます。高度で本格的な補正、音創りを行うにはこのパラメトリックEQが有効なのです。

- 1** ディフィートがOFFであることを確認する。
- 2** 各メインソース画面の[SYS.]にタッチする。
SYSTEM 選択画面が表示される。
- 3** [i-Personalize] にタッチする。
i-Personalize 画面に切りかわる。
- 4** A.PROCESSOR の[>>]にタッチする。
A.PROC リスト画面が表示される。
- 5** P-EQ の[◀]または[▶]にタッチして、L/R または L + R を選ぶ。
L/R : チャンネルL/Rで独立した調整値に設定できる。
L + R : チャンネルL/R で同じ調整値に設定される。
・グラフィックEQの調整を行うとOFFになる。
- 6** P-EQ の[>>]にタッチする。
P-EQ リスト画面に切りかわる。
- 7** 設定したいスピーカー(チャンネル)の[>>]にタッチする。
P-EQ 調整画面に切りかわる。
- 8** お好みの調整モードにタッチする。
FREQ : 周波数を調整する。
LEVEL : レベルを調整する。
Q : バンド幅を調整する。
- 9** お好みのバンドの[◀]または[▶]にタッチして、調整をする。
- 10** さらに別のバンドを調整するには、手順7～9の操作を繰り返す。
- 11** [RETURN] にタッチすると、1つ前の画面へ戻る。



Memo

- スピーカーがOFFモードのときは、そのスピーカーのパラメトリックEQは設定できません。「スピーカーの設定をする」(55ページ)を参照してください。
- 隣り合うバンドの周波数は7ステップ以内に調整することはできません。
- イコライザーの調整は、接続するスピーカーの再生周波数を確認して調整してください。スピーカーの再生周波数が「55Hz～30kHz」の場合、40Hzや20Hzのレベル調整を行っても効果がない場合もあります。
- パラメトリックEQの調整を行うと、グラフィックEQでの調整は無効になります。

Bass Sound コントロールの設定

- 1 ディフイートがOFFであることを確認する。(27 ページ参照)
- 2 各メインソース画面の[SYS.]にタッチする。
SYSTEM 選択画面が表示される。
- 3 [i-Personalize] にタッチする。
i-Personalize 画面に切りかわる。
- 4 A.PROCESSOR の[>>]にタッチする。
A.PROC リスト画面が表示される。
- 5 BASS SOUND CONT. の[>>]にタッチする。
Bass Sound Cont. 調整画面に切りかわる。

Bass Compressor の設定

低音域の音質をお好みに調整することができます。

- 6 BASS COMP. の[◀]または[▶]にタッチして、お好みのモードを選ぶ。
MODE1 → 2 → 3 になるにつれて低音域を強め、より迫力のある音が楽しめる。
設定しないときは、「OFF」を選ぶ。



- [RETURN] にタッチすると、1つ前の画面へ戻る。

Bass Focus の設定

あらかじめ設定されているステップ値(時間差)を使用することで、前後/左右同時に時間差が設定でき、感覚的に時間補正を調整することができます。ステップは、0.10ms 間隔で0 ~ 200 ステップ用意しています。

- 6 設定したいスピーカーの[◀]または[▶]にタッチして、前後/左右のステップを設定する。



- Bass Focusでの設定はタイムコレクション(時間補正)にも反映されます。
- [RETURN] にタッチすると、1つ前の画面へ戻る。

スピーカーセットアップ

お使いになるスピーカーの再生周波数帯域に応じて、PXA-H700またはPXA-H701を設定することができます。この操作を行う前に、各スピーカー(サブウーハー以外)の再生周波数帯域を調べて低音再生が可能かを確認してください。(80Hz以下が目安です)



Memo

- 本設定 調整中は、本機側でストップ/ポーズ(一時停止)/ディスク交換/曲の頭出し/早送り/音声切りかえなどの操作は行わないでください。デコード状態が切りかわると設定が解除されます。

- 1 ディフィートがOFFであることを確認する。
- 2 各メインソース画面の[SYS.]にタッチする。
SYSTEM 選択画面が表示される。
- 3 [i-Personalize]にタッチする。
i-Personalize 画面に切りかわる。
- 4 A.PROCESSORの[>>]にタッチする。
A.PROC リスト画面が表示される。
- 5 SPEAKER SETUPの[>>]にタッチする。
SPEAKER SETUP 調整画面に切りかわる。
- 6 設定したいスピーカーの[◀]または[▶]にタッチしてスピーカー特性を選ぶ。

OFF^{*1} : スピーカーを接続していない場合
SMALL : 低域(80Hz以下)が再生できないスピーカーを接続している場合
LARGE^{*2} : 低域(80Hz以下)が再生できるスピーカーを接続している場合

*1 フロントスピーカーは、OFFにはできません。

*2 フロントスピーカーがSMALLのときはリアスピーカーとセンタースピーカーをLARGEにできません。



Memo

- センタースピーカーをOFFにすると、フロントスピーカーから出力される音声信号に、センターの音声信号をプラスします。
- スピーカー特性をOFFに設定した場合はスピーカー設定もOFFに設定してください。(55ページ参照)
- セットアップは「フロント」「センター」「リア」「サブウーハー」の全てを行ってください。セットアップを行わなかった場合は「フロント」「センター」「リア」「サブウーハー」のバランスが崩れることがあります。
- センターをOFFに設定した場合は、この機能で「センター」の設定を行っても効果がありません。
- 各スピーカーの設定を変更すると、その設定条件により変更したスピーカー以外の出力も変化することがあります。
- PRO LOGIC IIでご使用の場合、リアスピーカーを「LARGE」に設定するとサブウーハーは出力されません。
- [RETURN]にタッチすると、1つ前の画面へ戻ります。

Dolby 5.1chを設定する

- 1 ディフィートがOFFであることを確認する。
- 2 各メインソース画面の[SYS.]にタッチする。
SYSTEM 選択画面が表示される。
- 3 [i-Personalize]にタッチする。
i-Personalize 画面に切りかわる。
- 4 A.PROCESSORの[>>]にタッチする。
A.PROC リスト画面が表示される。
- 5 DOLBY 5.1CH SETUPの[>>]にタッチする。
DOLBY 5.1CH SETUP 調整画面に切りかわる。
お好みで下記項目を調整してください。

音像を調整する

臨場感ある音声を再現するには、センタースピーカーをリスニングポジションの真正面に置かなくてはなりません。この機能で仮想的に、センタースピーカーの音を両サイドに振り分けることにより、センタースピーカーが真正面にあるような音像を作り出すことができます。(「PRO LOGIC IIを使う」(64ページ)で「PL II MUSIC」を選択し、センター幅の調整機能が動作中は、この機能で調整を行っても効果がありません。)



Memo

- 本設定 調整中は、本機側でストップ/ポーズ(一時停止)/ディスク交換/曲の頭出し/早送り/音声切りかえなどの操作は行わないでください。デコード状態が切りかわると設定が解除されます。
- [RETURN]にタッチすると、1つ前の画面へ戻ります。

BI-PHANTOMの[◀]または[▶]にタッチして、レベルを調整する。

レベルは - 5 ~ + 5まで調整でき、レベルが大きくなると、音像はセンタースピーカーの位置から両サイドに移る。

[OFF]にタッチすると、BI-PHANTOM機能はOFFになる。



Memo

- スピーカーセットアップでセンタースピーカーの設定を「SMALL」や「LARGE」にすると効果が得られます。
- 「スピーカーの設定をする」(55ページ)にて、設定したスピーカーがCENTERでOFFの時には、効果はありません。
- [RETURN]にタッチすると、1つ前の画面へ戻ります。
- 本機設定後のDVD再生時は、その性質上、他のソースよりも音楽信号レベルが低下しますが故障ではありません。「DVDレベルを調整する」(63ページ)でレベル調整を行ってください。

リアに低域音声をミキシングする

リアスピーカーから出力される音声信号に、フロントの音声信号をミキシングします。

後部座席でより聴きやすくなります。



- 本設定 調整中は、本機側でストップ / ポーズ (一時停止) / ディスク交換 / 曲の頭出し / 早送り / 音声切りかえなどの操作は行わないでください。デコード状態が切りかわると設定が解除されます。

REAR MIX の [◀] または [▶] にタッチして、レベルを調整する。

レベルは - 6、- 3、0、+ 3、+ 6 まで調整できる。レベルが大きくなると、リアスピーカーから出力される低域の音声が増加する。(効果は、DVD などのソフトによって異なる。)

[OFF] にタッチすると REAR MIX 機能は OFF になる。



- スピーカーセットアップの設定がリア「OFF」の時は調整を行っても効果がありません。
- リニア PCM 信号の場合は、REAR FILL や REAR MIX の設定に関わらずリアスピーカーから音声出力されます。
- [RETURN] にタッチすると、1つ前の画面へ戻ります。

迫力のある大音量再生を楽しむには

ドルビーデジタルでは通常の音量で充分な迫力が楽しめるように「ダイナミックレンジ」が圧縮されています。この圧縮を解除することにより、更に迫力のある「映画館のようなエネルギー感」のある音を楽しむことができます。



- この機能は、ドルビーデジタルの場合のみ有効です。

LISTENING MODE の [◀] または [▶] にタッチして、STD または MAX を選ぶ。

STD : 通常の音量で迫力のある音を楽しむとき

MAX : 大音量で迫力のある音を楽しむとき



- 車外の音が聞こえる音量でお使いください。
- DVDソフトなどのソースの種類によっては効果がないものがあります。
- [RETURN] にタッチすると、1つ前の画面へ戻ります。

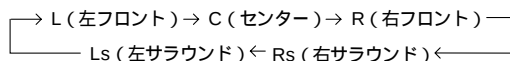
スピーカーレベルを調整する

本機から出力されるテストトーンで各スピーカーの音量が同じ大きくなるように調整します。各スピーカーの音量をリスニングポジションにおいて同じ大きさに調整することで高い臨場感が得られます。



- 本設定 調整中は、本機側でストップ / ポーズ (一時停止) / ディスク交換 / 曲の頭出し / 早送り / 音声切りかえなどの操作は行わないでください。デコード状態が切りかわると設定が解除されます。

1. OUTPUT LEVEL の [ON] にタッチする。
テストトーンが各スピーカーチャンネル順に繰り返し出力される。
チャンネルは2秒間何も操作を行わないと次のチャンネルに移行する。



2. 各スピーカーからテストトーンが鳴っているときに OUTPUT LEVEL の [◀] または [▶] にタッチして、それぞれの音量が同じになるように出力レベルを調整する。
● 各スピーカーは - 10dB ~ + 10dB の範囲で調整できる。
● フロントスピーカーを基準に調整を行ってください。



- スピーカーが「OFFモード」のときは、そのスピーカーのレベル調整はできません。「スピーカーセットアップ」(61ページ)を参照してください。
- 設定を終了させるには [RETURN] にタッチしてください。

DVD レベルを調整する

ドルビーデジタル / DOLBY PL II / DTS / PCM それぞれのモードでの音量信号レベルを設定することができます。



- 本設定 調整中は、本機側でストップ / ポーズ (一時停止) / ディスク交換 / 曲の頭出し / 早送り / 音声切りかえなどの操作は行わないでください。デコード状態が切りかわると設定が解除されます。

- 1 ディフイートが OFF であることを確認する。(27 ページ参照)
- 2 各メインソース画面の [SYS.] にタッチする。
SYSTEM 選択画面が表示される。
- 3 [i-Personalize] にタッチする。
i-Personalize 画面に切りかわる。
- 4 A.PROCESSOR の[>>]にタッチする。
A.PROC リスト画面が表示される。
- 5 DVD LEVEL の[>>]にタッチする。
DVD LEVEL リスト画面に切りかわる。
- 6 調整したいモードの [◀] または [▶] にタッチして、
レベルを調整する。
レベルは、 - 5 ~ + 5 の範囲内で調整できる。



- [RETURN] にタッチすると、1 つ前の画面へ戻ります。

設定した内容を記憶する

調整 / 設定した内容を記憶することができます。
但し、組み合わせるオーディオプロセッサにより、記憶できる内容は異なります。

- 1 ディフイートが OFF であることを確認する。
- 2 A.PROC リスト画面の [MEMORY] にタッチする。
- 3 5 秒以内に A.PROC リスト画面の [P.SET1] ~ [P.SET6] のいずれかにタッチする。
設定した内容が記憶される。



- 記憶した内容はバッテリー電源コードを外したときでも消去されません。
- [RETURN] にタッチすると、1 つ前の画面へ戻ります。

記憶した内容呼び出す

- 1 ディフイートが OFF であることを確認する。
- 2 A.PROC リスト画面の [P.SET1] ~ [P.SET6] のいずれかにタッチして、呼び出したいプリセットメモリーを選ぶ。



- 記憶したプリセットメモリーを呼び出すには、多少時間がかかります。

PRO LOGIC IIを使う

2チャンネルで録音された音楽信号にプロロジック処理を行い、DOLBY PRO LOGIC II サラウンドとして楽しむことができます。また、2チャンネルのドルビーデジタル、DTS信号の場合は、リアにフロントの信号を出力する「REAR FILL」を使用することができます。

- 1 ディフイートがOFFであることを確認する。(27ページ参照)
- 2 各メインソース画面の[SYS.]にタッチする。
SYSTEM 選択画面が表示される。
- 3 [i-Personalize]にタッチする。
i-Personalize 画面に切りかわる。
- 4 A.PROCESSORの[>>]にタッチする。
A.PROC リスト画面が表示される。
- 5 DOLBY PLIIの[>>]にタッチする。
DOLBY PLII 調整画面に切りかわる。
- 6 DOLBY PLIIの[◀]または[▶]にタッチして、お好みのモードを選ぶ。

PL II MOVIE : ステレオTVショーやドルビーサラウンドでエンコードされたすべてのプログラムに向いています。その効果はディスクリット5.1チャンネルサウンドの質に迫る音場指向性の改善です。

PL II MUSIC : あらゆるステレオ音楽録音で用いられ、広く深い音場を確保できます。

REAR FILL : 入力信号によっては、音の出力がフロントスピーカーのみの場合があります。このときREAR FILLを使用することでリアスピーカーからも音を出力させることができます。

OFF : DOLBY PL II 機能をOFFにする。

「PL II MUSIC」を選んだ場合は、以下の操作でさらにセンター幅の調整が行えます。
この機能はセンターチャンネル定位をセンタースピーカーとL/Rスピーカーとの間に調整することにより、最良のボーカル定位を提供します。(この機能の動作中は「音像を調整する」(61ページ)で調整を行っても効果はありません。)

CENTER WIDTH CONT を選ぶ

CENTER WIDTH CONTの[◀]または[▶]にタッチして、レベルを調整する。

レベルは0～7まで調整でき、レベルが大きくなるとセンターチャンネル定位はセンタースピーカーの位置から両サイドに移る。

- ・ CENTER WIDTH CONTの[OFF]にタッチすると、CENTER WIDTH CONT 機能はOFFになる。



Memo

- スピーカーセットアップでセンタースピーカーの設定を「SMALL」や「LARGE」にすると効果が得られます。
- 本設定 調整中は、本機側でストップ/ポーズ(一時停止)/ディスク交換/曲の頭出し/早送り/音声切りかえなどの操作は行わないでください。デコード状態が切りかわると設定が解除されます。
- 「スピーカーの設定をする」(55ページ)にて、設定したスピーカーがCENTERでOFFの時には、効果はありません。
- この機能は2チャンネル信号のみ有効です。DTSやドルビーデジタルの5.1ch信号が入力されたときは効果がありません。
- REAR MIXがONのときにREAR FILLの設定を行った場合、リニアPCM以外の2チャンネルデコード中はREAR MIXを優先させますので、REAR FILL設定での音の変化はありません。
- リニアPCM信号の場合は、REAR FILLやREAR MIXの設定に関わらずリアスピーカーから音声出力されます。
- [RETURN]にタッチすると、1つ前の画面へ戻ります。

リニアPCMの設定

リニアPCMで記憶されたディスクの再生時の出力を2chまたは3chに設定することができます。

- 1 ディフイートがOFFであることを確認する。
- 2 各メインソース画面の[SYS.]にタッチする。
SYSTEM 選択画面が表示される。
- 3 [i-Personalize]にタッチする。
i-Personalize 画面に切りかわる。
- 4 A.PROCESSORの[>>]にタッチする。
A.PROC リスト画面が表示される。
- 5 PCM MODEの[◀]または[▶]にタッチして、2CHまたは3CHを選ぶ。
2CH : 2ch 出力 (L/R)
3CH : 3ch 出力 (L/R/CENTER)



Memo

- 「スピーカーの設定をする」(55ページ)にて、設定したスピーカーがCENTERでOFFの時には、効果はありません。
- [RETURN]にタッチすると、1つ前の画面へ戻ります。

HDD/MD/ “ MG メモリースティック ” の曲を聴く

当社の HDD/MD/MS プレーヤー製品と接続した場合は、本機から操作することができます。

- 1 各メインソース画面上の [SRC] にタッチする。
ソース選択画面が表示される。
- 2 [MM DRIVER] にタッチする。
MM DRIVER モードメイン画面に切りかわる。
- 3 [BAND] にタッチして、モードを切りかえる。
MD/MS プレーヤー：MD モード / “ MG メモリースティック ” モードを切りかえる。
HDD/ MS プレーヤー：HDD モード / “ MG メモリースティック ” モードを切りかえる。
- 4 [I◀◀] または [▶▶I] にタッチして、聴きたい曲を選ぶ。
 ・ 曲の頭出し [I◀◀] または [▶▶I] にタッチする。
 ・ 曲の早送り / 早戻し [I◀◀] または [▶▶I] にタッチし続ける。
- 5 演奏を一時停止するときは、[▶||] にタッチする。
再度 [▶||] にタッチすると、演奏が再開する。



Memo

- HDA-5460MS、HDA-5465MSまたはMDA-5060MS、MDA-5065MSと接続した場合のリッピング方法については、
 - ・ HDA-5460MS、HDA-5465MS取扱説明書「CDの曲をHDD/ “ MGメモリースティック ” に録音する」
 - ・ MDA-5060MS、MDA-5065MS取扱説明書「CDの曲を “ MGメモリースティック ” に録音する」
 をご覧ください。

INA-D300JNをお使いのお客様へ
INA-D300JNに別売のHDA-5460MS、
HDA-5465MSまたはMDA-5060MS、
MDA-5065MSのいずれかを組み合わせる
ことはできません。



ナビゲーションモードにする

当社のナビゲーション製品が接続されている場合、本機にナビゲーション画面を表示させることができます。

また、ナビゲーション側の電源がONの状態ならば、ナビゲーションの映像と音声が入り込めます。(設定については、ナビゲーションの取扱説明書を参照してください。)

1 各メインソース画面の [SRC] にタッチする。
ソース選択画面が表示される。

2 [NAV.] にタッチする。
ナビゲーション画面が表示される。
ナビゲーション付属リモコンで操作を行う。
詳しい操作については、ナビゲーション側の取扱説明書をご覧ください。



- 「VISUALの設定 (42ページ)」で、NAV.を設定していれば、本体の「V.SEL」を押すとナビゲーション画面に切りかわります。
- メインメニュー画面上で、ナビゲーションモードが表示されない場合は、「ナビゲーションモードを設定する (40ページ)」のNAV. INをONに設定してください。
- ナビゲーション画面表示時、本体の「BAND」を押すたびに表示モードを切りかえることができます。
- タッチパネル対応ナビゲーションと接続している場合の操作については、ナビゲーション側の取扱説明書をご覧ください。

AUX (外部入力) モードにする

外部機器 (ビデオデッキなど) を接続した場合にご使用ください。

1 各メインソース画面の [SRC] にタッチする。
ソース画面が表示される。

2 [AUX]* にタッチする。
外部入力画面が表示される。



* 複数 (最大3台まで) の外部入力製品が接続されている場合は、[AUX-1] ~ [AUX-3] が表示される。または「外部入力」に表示名をつける (41ページ) で表示名をつけた名称がソース名として表示される。

- メインメニュー画面上で、AUXモードが表示されない場合は、「AUXモードを設定する (41ページ)」のAUX INをONに設定してください。
- [WIDE] にタッチすると、表示モードが切りかわります。
操作については、「表示モードを切りかえる」 (31ページ) をご覧ください。

チェンジャーで CD/MD を聴く

チェンジャーを接続していると、本機から操作できます。

- 1 各メインソース画面上の [SRC] にタッチする。
ソース画面が表示される。
(ここでは、CD チェンジャー操作を例に説明します。)

- 2 [CD CHG.] にタッチする。
CD チェンジャーモードメイン画面に切りかわる。

- 3 6 連奏 CD チェンジャーの場合 :
[P1/2]* にタッチする。
ファンクションガイドの内容がかわる。

* MP3対応チェンジャーまたはDVDチェンジャー接続時は、
ディスクNo.が表示されるまでタッチする。

ディスク 3 枚目を選ぶときは ...

- [DISC3] にタッチする。
- [DISC1] ~ [DISC6] が、ディスク No.1 ~ 6 に
対応している。

-
- 12 連奏 CD チェンジャーの 9 枚目を選ぶ場合 :
[P1/3] → [P2/3] とタッチする。
ファンクションガイドの内容が切りかわる。
次に [DISC9] にタッチする。
[DISC7] ~ [DISC12] が、ディスク No.7 ~ 12
に対応している。



- ディスクを選んだ後は、14 ~ 16 ページの操作説明をご覧ください。
- 曲の番号(トラックNo.)を指定するには、軽く [◀◀] または [▶▶] にタッチします。
- 別売の Versatile Link Terminal (KCA-410C) を使用し、チェンジャー2台を接続している場合は、ファンクションガイド上の [CHG SEL] にタッチするか、または本体の「BAND」を押して製品を選びます。
- 別売の MP3 対応チェンジャーを接続した場合、本機内蔵 MP3 と同様に操作することができます。
- 別売の DVD チェンジャーを接続した場合、CD チェンジャー同様に本機から操作することができます。詳しい操作については、DVD チェンジャー側の取扱説明書をご覧ください。



取り付けと接続

取り付けや接続の作業を行う前には、必ず 2 ～ 3 ページをよくお読みの上、正しい作業をしてください。説明書の指示を守らなかった事による不具合に対して、当社は責任を負いかねます。

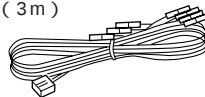
1. 正しい作業のコツ

- ここからの説明は、専門技術と経験のある方を対象にしています。
- 車のインパネなどの「取り付け取り外し情報」を販売店から入手してください。
- 動作確認の際に本機の操作を行いますので、本説明書の操作説明部も必ずお読みください。
- 組み合わせる製品の取付説明書も合わせてご覧ください。
- コンピューターが装着されている車は、バッテリーのマイナス端子を外すとメモリーが消えてしまうことがあります。
- 一部の車種（外国車など）では、バッテリーのマイナス端子を外すと、電装系に不具合が生じる場合があります。詳しくは、ディーラーへお問い合わせください。
- 接続の際は、コードに付いているラベルや本説明書を確認しながら、注意して行ってください。
- 音声出力ケーブルを接続するときは、コード端子の色とターミナルの色を合わせてください。
・RCA コード、ピンコード
家庭用機器の信号の受け渡しに利用されるRCA 考案のコネクター付きコードをいいます。カーオーディオはもちろん家庭のステレオ / ビデオ / テレビ等に幅広く採用されています。白がオーディオの左チャンネル、赤が右チャンネル、黄色がビデオ信号です。
- スピーカーの接続
 - 純正のスピーカー用コードを使う場合、左右のコードのマイナス側が共通になっているものには使用できません。
 - スピーカーは、インピーダンスが 3.2 ～ 8 Ω のものをお使いください。
- 接続しないコードは、コードの端にビニールテープを巻いてください。
- 取り付け場所について
ディスクの出し入れの際、車のシフト操作に支障がないことを確認のうえ、取り付け場所を設定してください。
- 水平に対して 30 度以内に取り付けてください。
- 不明な点はお買い上げの店 / インフォメーションセンターにお問い合わせください。

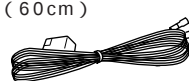
2. 準備

- 車を平坦で安全な場所に停める。さらに、パーキングブレーキをかけ、イグニッションキーを抜く。
- 付属部品を確認し、工具 / 取り付け情報をそろえる。

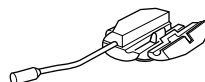
電源コード
(3m)



サブコネクター
(60cm)



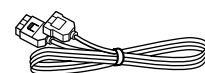
パーキングブレーキ
補助リード線



リモートコード
(30cm)



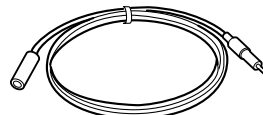
モニター延長コード (3m)



マジックテープ



アンテナ延長ケーブル
(3m)



× 2

サラネジ
(M4×3)



× 8

ワッシャー付きネジ
(M4×6)



× 4

座付タッピングネジ
(M4×14)



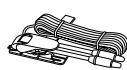
× 2

圧着コネクター



× 2

TVアンテナ (6m)



× 2

防水パッド (アンテナ
ケーブル添付)



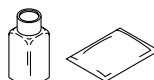
× 2

コードホルダー



× 4

クリーナーセット
(TVアンテナ用)



コードクランプ



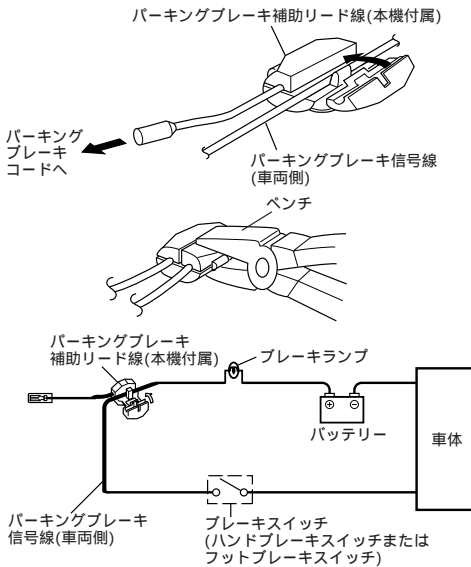
× 6

- バッテリーのマイナス端子を外す。
- 灰皿、小物入れなどを外し、パネル（インパネ）を外す。
- 車から取り付けブラケットごとカーオーディオを外す。
- オーディオに付いているケーブルを外し、ブラケットからオーディオを外す。（ブラケットは、6. モニターを取り付ける 2. で利用します。）



3. 接続する

- 72 ~ 75 ページの基本接続図を参照して接続する。
 - 他の製品と組み合わせた接続例も記載しています。(76 ~ 80 ページ参照) ご希望の組み合わせを確認しながら作業を進めてください。
 - 誤接続を防ぐために、接続することに✓点をつけてください。
- 車両側のパーキングブレーキ信号線に、パーキングブレーキ補助リード線を装着する。
パーキングブレーキコードは、必ずパーキングブレーキスイッチの電源側に接続する。
 - パーキングブレーキコードは、必ず接続してください。不明点は、お買い上げ店にお問い合わせください。



- ヘッドユニットに電源コードを接続する。「カチッ」と音がするまで差し込む。
- 正しく接続されているか、✓点があればいいか確認する。
- バッテリーマイナス端子を接続する。
- イグニッションキーをON にして本機電源を入れ、音が正しく出ているかなどを確認する。
 - 固定する前に動作確認しておけば安心です。正しい動作をしない場合は、もう一度接続を確認してください。
- 本機の電源を切る。
- イグニッションキーを抜いて、バッテリーマイナス端子を外す。

4. チューナー BOX を取り付ける



注意

通風孔や放熱板をふさがない。
通風孔・放熱板をふさがないでください。
通風孔・放熱板をふさぐと内部に熱がこもり、火災・故障の原因になります。

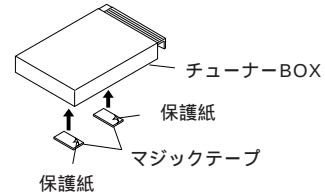
通風孔



チューナー側面

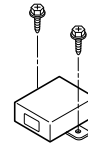
マジックテープを使って取り付ける。
マジックテープで取り付ける場合は必ず平らな場所を選んでください。
チューナーが逆さまになるような位置には取り付けないでください。

- チューナー BOX を取り付ける。
チューナー BOX に付属のマジックテープを貼り付け、助手席の下などのフロアカーペットに固定する。



5. DC-DC コンバーターを取り付ける

付属の座付タッピングネジ (M4X14) で平らな場所を選んで取り付ける。



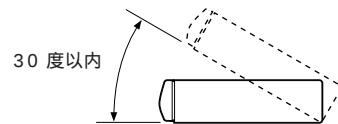
注意

DC-DC コンバーター取り扱い上の
ご注意

- DC-DCコンバーターは、フロアマットの下やエアコンなどの水がかかりやすい場所へは設置しないでください。故障の原因になります。
- DC-DCコンバーターのケーブルは他のオーディオケーブルと一緒に束ねたり、また本体に接触させないでください。雑音の原因になります。
- DC-DCコンバーターは熱を持ちますが、故障ではありません。

6. モニターを取り付ける

- ディスプレイの開閉やディスクの出し入れの際、車のシフト操作に支障がないことを確認のうえ、取り付け場所を決める。



Memo

- ディスプレイ立ち上げ工場出荷時角度は90°です。車種によっては、立ち上げ時にディスプレイ背面が車側にあたる場合がありますので、ご注意ください。
「ディスプレイの角度調整 (33ページ) で調整してください。なお、調整後の角度は、車のバッテリー電源をはずしても記憶しています。

(次ページへつづく)

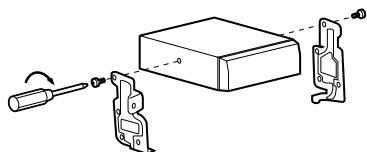


取り付けと接続

2. モニターにブラケットを付属のネジで、しっかり取り付ける。

注意

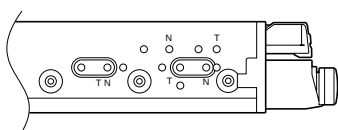
付属部品を指定通りに使い、しっかりと取り付けてください。事故・故障の原因になります。



Memo

- 付属のネジ以外でモニターを固定した場合は動作不良の原因になります。必ず、付属のネジを使用して取り付けてください。

取り付け用ネジ穴



N 穴→ニッサン車専用

T 穴→トヨタ・ミツビシ車専用

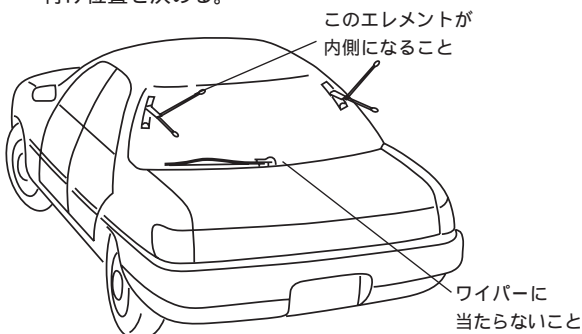
3. 「ブラケットと一体になったモニター」を車両にしっかり取り付ける。
4. インパネを取り付ける。
5. コード類を固定する。
シートレールなどの可動部に挟み込んだり、突起部に当たったりして、コードを傷めないように注意して固定する。
6. バッテリーマイナス端子を接続する。

Memo

- 車両雑音から守るために
- アースコードを車体の金属部分に確実につなぐ。(ノイズが出るときはアースの場所をかえてみる)
- 本機や本機からのコードを車両配線から離す。
- バッテリー電源コードとPINコードは離す。
- ノイズサプレッサーを使う場合は、できるだけ本機から離す。

7. アンテナの取付

1. アンテナの貼り付け位置を決める。
リアガラス上部の左右コーナーの位置となるよう、貼り付け位置を決める。

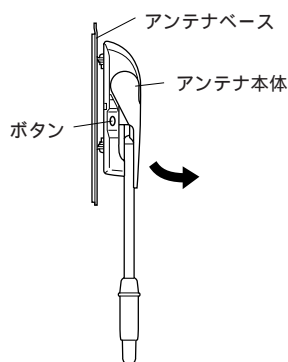


Memo

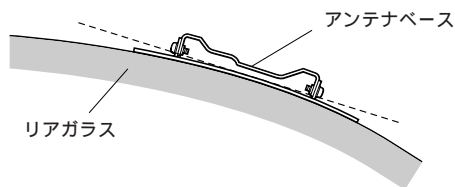
- アンテナは、L側、R側の2種類があります。
- アンテナを塗装面に貼ると塗装を傷める場合がありますので、ガラス面の視界を妨げないところに貼ることをおすすめします。
- ガラスアンテナ車の場合は、ガラスアンテナ面への取り付けは避けてください。ラジオの受信状態が悪くなる場合があります。
- このTVアンテナには、GPSアンテナは内蔵されていません。

2. アンテナ本体を外す。

- ① アンテナ本体とアンテナベースを両手でしっかり持つ。
- ② 両側にあるボタンを押しながら、アンテナ本体を矢印の方向に少しスライドさせて外す。

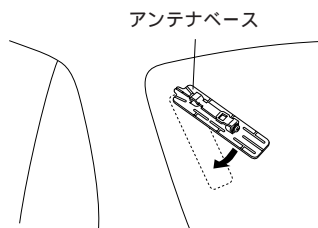


3. アンテナベースを貼り付け面に合わせる。
貼り付け面が曲面の場合は、アンテナベースをその形状に合わせて、あらかじめ曲げておく。
(このとき裏面の保護シートをはがさずに。) 形状に合っていないと貼がれ落ちる場合があります。



4. アンテナベースを貼り付ける。

- ① 付属のクリーナーとクロスを使用してアンテナベースを取り付ける場所の汚れを拭きとる。
- ② アンテナベースの保護シートをはがす。先端から押しつけながら徐々に貼り付ける。



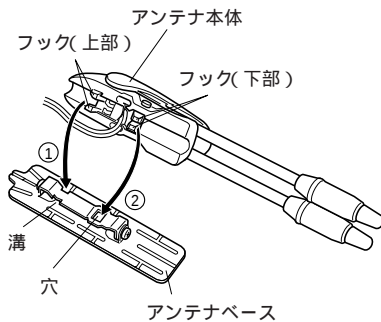


Memo

- 車内温度が低い時(冬季)には、貼り付ける側をドライヤーなどで暖めてから、貼り付けてください。
- 貼り付けたあと、貼り付け部分に空気が入っていないか車内から確認してください。空気が入っているときは、さらに押しつけてください。
- 貼り付け作業が終わったら、24時間は湿気や力を加えないでください。

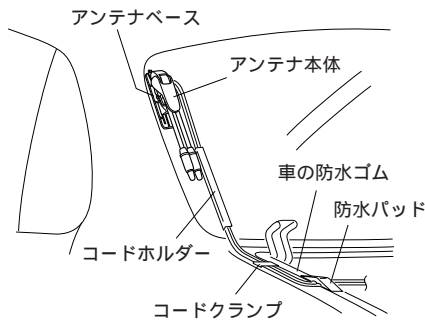
5. アンテナを組み立てる。

- ① アンテナ本体のフック(上部)をアンテナベースの溝に引っかけて、上へ少しスライドさせる。
- ② アンテナベースの穴にアンテナ本体のフック(下部)を「カチッ」と音がするまで差し込む。



6. コードを固定する。

付属のクリーナーとクロスを使用して、コードホルダー、コードクランプ取り付け場所の汚れを拭き取り、防水パッドを貼り付け、コードを固定する。

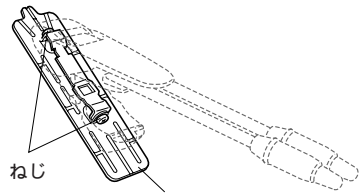


Memo

- アンテナのコードは非常にデリケートな部分です。必要以上に力を加えたり曲げたりしないでください。

7. エレメントを引き伸ばす。

- ① アンテナ本体を起こし、エレメントを引き伸ばす。
- ② エレメントが車幅からはみ出す場合は、アンテナベース両端のネジをゆるめて、はみださないようブラスドライバーを使って調整する。



アンテナベース

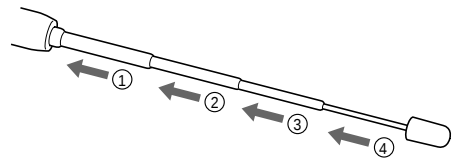


Memo

- アンテナ本体の角度調整(3段階)やエレメントを引き伸ばすときには、アンテナベースを手で押さえながら静かに作業を行ってください。
- アンテナのお手入れ
錆を防ぐ為にアンテナのエレメント部分は、こまめにタオルなどで拭いてください。その際、油などを使うと樹脂部分をいためることがありますので、使わないでください。

エレメントの収納

エレメントを収納するときは、太い部分から順に収納してください。先端は細くなっていますので、ていねいにお取り扱いください。



8. 確認する

1. イグニッションキーをONにして、本説明書を参考に本機の動作が正しいことを確認する。
2. ホーン(クラクション)、ストップランプなどの車両電装品が正しく動作することを確認する。

9. スイッチの切りかえについて

スイッチを理解する。

取り付け前やシステムアップを行うとき、スイッチの切りかえが必要になる場合があります。切りかえは次の手順で行ってください。

1. 電源コードを抜く。
2. 棒状のものを垂直に挿入する。
3. 指定のポジションに切りかえる。
4. 電源コードを接続する。

システムスイッチ

本機にAi-NET対応のイコライザーを接続するときは、チューナーBox底面にあるシステムスイッチを「EQ/DIV」側に切りかえます。



EQ/DIV
NORM
(出荷時)



Memo

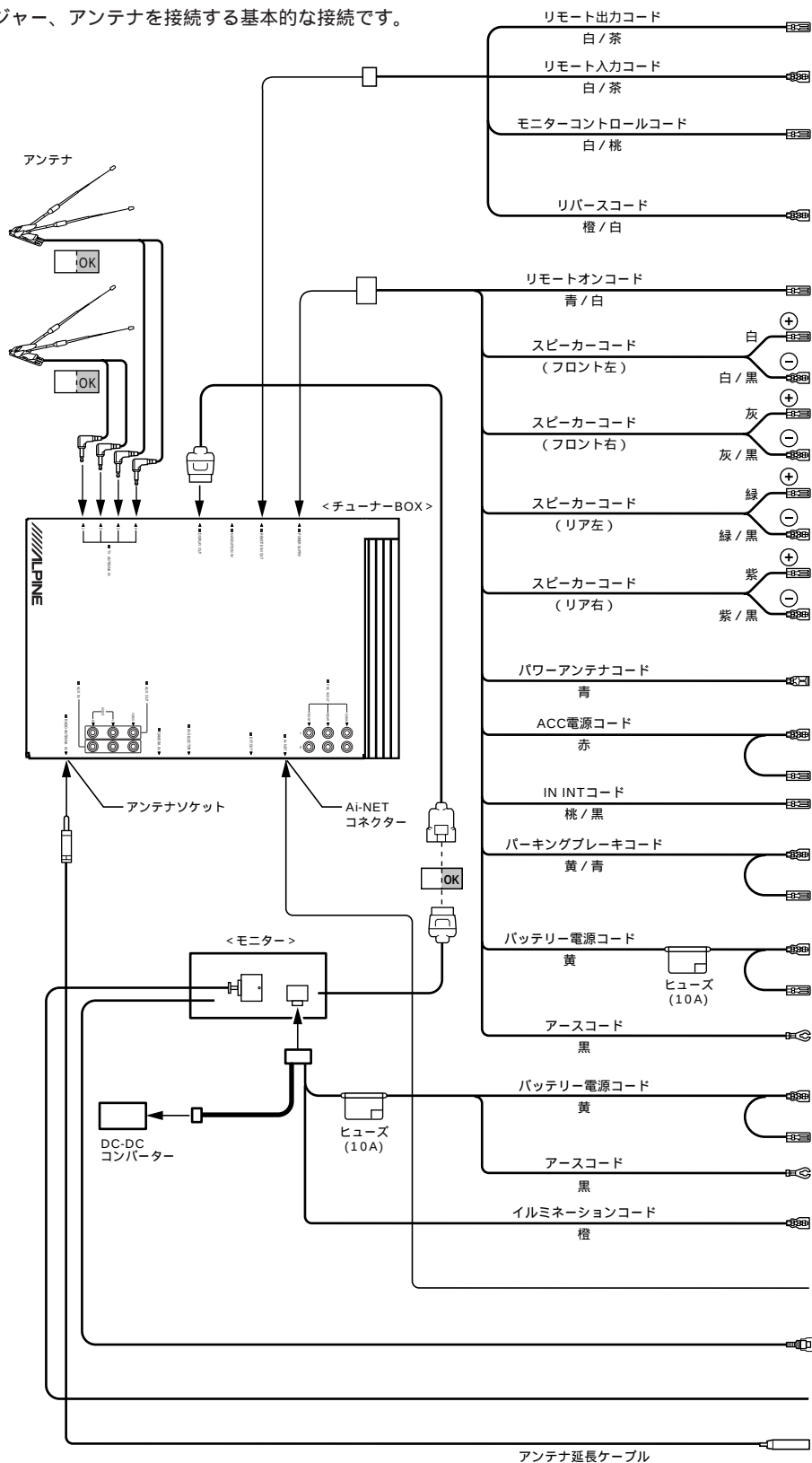
- チェンジャーのみを接続する(Ai-NET対応イコライザーを使わない)場合、システムスイッチは「NORM」に設定してください。



取り付けと接続

基本接続図

本機とスピーカー、チェンジャー、アンテナを接続する基本的な接続です。





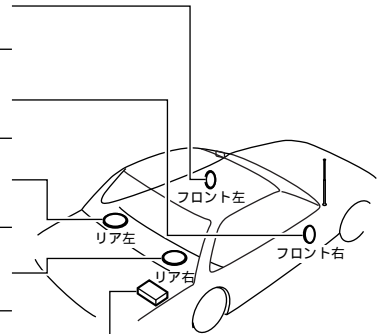
コード色	コード仕様	接続先	
白 / 茶	• リモート出力コード リモコン信号を出力するためのコードです。	組み合わせるALPINE製品の リモート入力コードに接続	①
白 / 茶	• リモート入力コード リモコン信号を入力するためのコードです。	組み合わせるALPINE製品の リモート出力コードに接続	②
白 / 桃	• モニターコントロールコード タッチパネル対応モニターと接続する場合に 使用します。	組み合わせるALPINE製品 タッチパネル対応モニターの モニターコントロールコード に接続	③
橙 / 白	• リバースコード バックカメラを接続時のみ使用します。シフト レバーをバック(R)に入れたとき点灯するバック ランプのプラスに接続してください。シフトレバーの バック(R)に連動して、バックカメラの映像入力切 りかえを行います。	車のバックランプ信号線の プラス側に接続します。	④
青 / 白	• リモートオンコード 本機の電源ON/OFFとアンプなどの周辺機器の ON/OFFを連動させます。	アンプ/イコライザー追加 の際に使用	⑤
白	• スピーカーコード (フロント左) フロント左スピーカーを駆動する信号を出力します。 接続するスピーカーは、インピーダンスが3.2 - 8Ωの ものを使用してください。	フロント左のスピーカ- に接続	
白 / 黒	• スピーカーコード (フロント右) フロント右スピーカーを駆動する信号を出力します。 接続するスピーカーは、インピーダンスが3.2 - 8Ωの ものを使用してください。	フロント右のスピーカ- に接続	
灰	• スピーカーコード (リア左) リア左スピーカーを駆動する信号を出力します。 接続するスピーカーは、インピーダンスが3.2 - 8Ωの ものを使用してください。	リア左のスピーカ-に接続	
灰 / 黒	• スピーカーコード (リア右) リア右スピーカーを駆動する信号を出力します。 接続するスピーカーは、インピーダンスが3.2 - 8Ωの ものを使用してください。	リア右のスピーカ-に接続	
緑	• スピーカーコード (リア左) リア左スピーカーを駆動する信号を出力します。 接続するスピーカーは、インピーダンスが3.2 - 8Ωの ものを使用してください。	リア左のスピーカ-に接続	
緑 / 黒	• スピーカーコード (リア右) リア右スピーカーを駆動する信号を出力します。 接続するスピーカーは、インピーダンスが3.2 - 8Ωの ものを使用してください。	リア右のスピーカ-に接続	
紫	• パワーアンテナコード ラジオのON/OFFに連動してパワーアンテナを伸縮 させる信号を出力します。また、ウインドウシールド アンテナなどブースターが付いている車種はブースター電 源として使うことができます。(ブースターが付いてい るものは必ず接続してください。接続を忘れるとラジオ の受信状態が極端に悪くなります。)	車のパワーアンテナコード またはアンテナブースター に接続	
青	• ACC電源コード エンジンキーに連動した電源を本機に供給します。	ACCボジションで電源が 供給されるコードに接続	
赤	• 音声割り込み(IN-IN)コード 通常は使用しません。詳しくは、 「外部割り込みモードの設定」 (40ページ)をご覧ください。	通常は使用しません。詳しくは、 「外部割り込みモードの設定」 (40ページ)をご覧ください。	
桃 / 黒	• パーキングブレーキ補助リード線 黄 / 青	パーキング、ブレーキスイ ッチの電源側に接続	
黄 / 青	• パーキングブレーキコード パーキング、ブレーキの状態を本機に伝えます。	パーキング、ブレーキスイ ッチの電源側に接続	
黄	• バッテリー電源コード エンジンキーに関係なく常に電源を本機に供給し ます。通常、バッテリーコードの接続で十分です が、さらに良い音で楽しみたいときは、直接車側の バッテリーに配線すると良いでしょう。 詳しくは、お買い上げ店にご相談ください。	常に電源が供給される (バッテリー電源プラス) コードに接続	
黒	• アースコード 車体の金属部分へしっかりと固定します。	車体に接続	
黄	• バッテリー電源コード エンジンキーに関係なく常に電源を本機に供給し ます。通常、バッテリーコードの接続で十分です が、さらに良い音で楽しみたいときは、直接車側の バッテリーに配線すると良いでしょう。 詳しくは、お買い上げ店にご相談ください。	常に電源が供給される (バッテリー電源プラス) コードに接続	
黒	• アースコード 車体の金属部分へしっかりと固定します。	車体に接続	
橙	• イルミネーションコード スモールランプなどのライトに連動して本機 照光スイッチの明暗切りかえを行います。 (ディスプレイ収納時)	車のスモールライトコードに 接続	
	• Ai-NETコネクター Ai-NETチェンジャーなどでシステムアップするときに 使用します。	Ai-NETコードでAi-NET製 品と接続	⑥
橙	• COAX出力コード COAX対応製品とシステムアップするときに使用 します。	COAX入力端子と接続	⑦
	• 光デジタル出力端子 光デジタル入力対応製品と組み合わせるときに使用します。	システムアップの際に使用	⑧
	• アンテナソケット アンテナからの信号を受けるコネクターです。	車のアンテナプラグを接続	



- 上記接続先の丸番号は、「他製品と
の接続 (76 - 80ページ)」で使用
します。

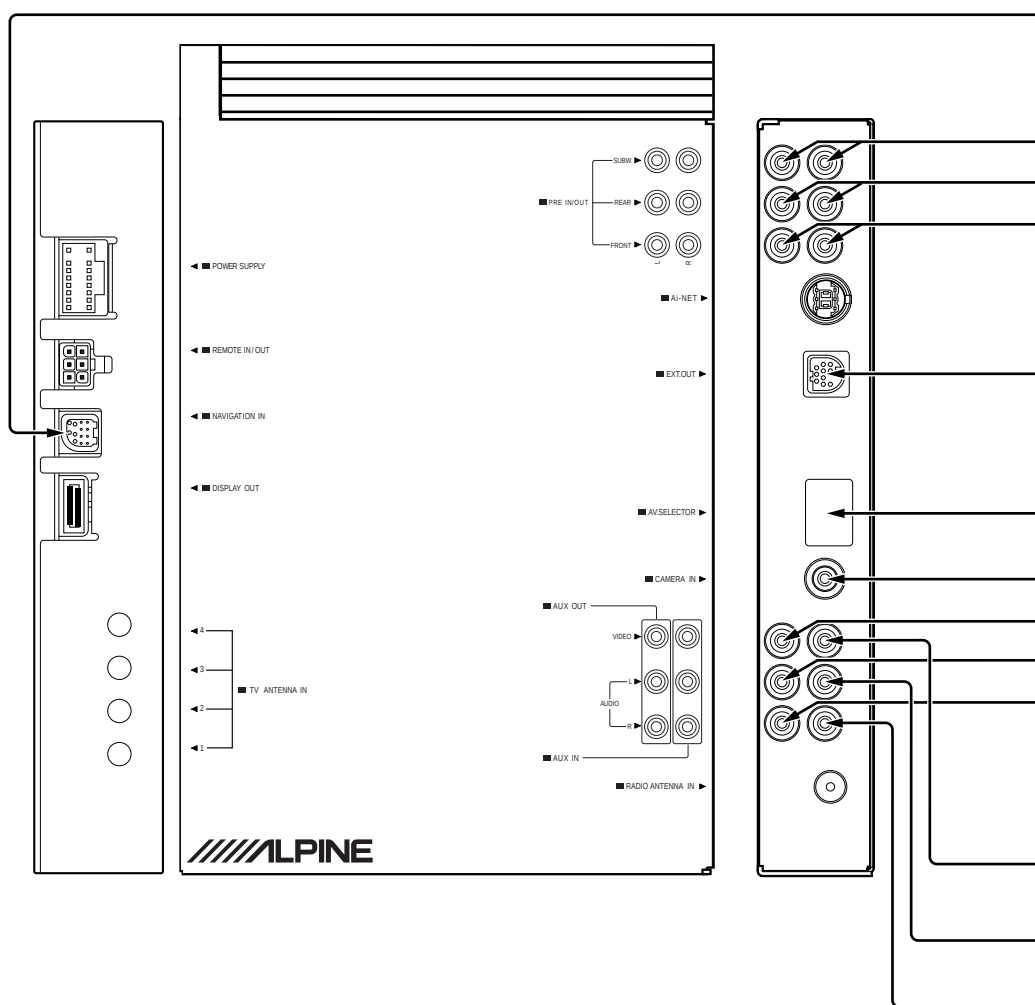
別売拡張BOX(VPE-S431)と接続した場
合、本機のリモート出力または入力コードは
接続不要になります。拡張BOX(VPE-
S431)側のリモート出力または入力コード
と外部入力製品側のリモート出力または入
力コードを接続してください。

- アンテナコードの1本には「FM」と標記され
ていますが、他のコードと同様に使用できま
す。アンテナコードは他のコード類からなる
べく離して配線してください。
近づけたり、他のコード類と束ねたりすると
ノイズの原因になります。



注意 DC-DCコンバーター取り 扱い上のご注意

- DC-DCコンバーターは、フロアマットの下や
エアコンなどの水がかかりやすい場所へは設
置しないでください。故障の原因になります。
- DC-DCコンバーターのケーブルは他のオーディ
オケーブルと一緒に束ねたり、また本体に接触さ
せないでください。雑音の原因になります。
- DC-DCコンバーターは熱を持ちますが、故障で
はありません。





- 下記接続先の丸番号は、「他製品との接続」(76 ~ 80ページ)で使用します。

別売拡張BOX(VPE-S431)と接続した場合、本機
のAUX入力(AUX IN)端子は無効になります。拡張
BOX(VPE-S431)側のAUX IN1 ~ 3端子に外部
入力製品を接続してください。また、DVDビデオプ
レイヤーまたは、DVDチェンジャーのどちらか1台
を組み合わせる場合には、VPE-431側のAUX IN1
側に接続してください。

両方を組み合わせる場合には、DVDビデオプ
レイヤーをAUX IN1側へ接続し、DVDチェンジャーを
AUX IN2側へ接続してください。

端子仕様	接続先	
 ● RGB入力端子(13P) RGB方式の映像/音声/リモコン出力などの信号を 入力します。	組み合わせるナビゲーションのRGB 出力端子に接続	⑨
 ● サブウーハー出力端子 サブウーハー用信号を出力します。	サブウーハー追加の際、サブウーハー用 アンプ(ローパスフィルター内蔵アンプ) に接続	⑩
 ● リア出力/入力端子 リア左右のプリアンプ信号を出力、または リア左右の信号を入力します。	アンプ/イコライザー追加の際 に使用	⑪
 ● フロント出力/入力端子 フロント左右のプリアンプ信号を出力、または フロント左右の信号を入力します。	アンプ/イコライザー追加の際 に使用	⑫
 ● EXT. OUT 端子 Amplifier LINKコントロール信号を出力します。	別売Amplifier BOXに接続	⑬
 ● AV SELECTOR 端子 別売拡張BOX(VPE-S431)と接続します。 (使用時はカバーを取り外してください。)	別売拡張BOX(VPE-S431)側の 「HEAD UNIT」端子に接続	⑭
 ● バックカメラ用ビデオ入力端子 映像を入力します。	バックカメラ製品のビデオ出力に接続	⑮
 ● ビデオ出力端子 映像を出力します。	組み合わせる製品のビデオ入力 に接続	⑯
 ● オーディオ出力端子(左) 音声を出力します。	組み合わせる製品のオーディオ入力(左) に接続	⑰
 ● オーディオ出力端子(右) 音声を出力します。	組み合わせる製品のオーディオ入力(右) に接続	⑱
 ● ビデオ入力端子 映像を入力します。	組み合わせる製品のビデオ出力に接続	⑲
 ● オーディオ入力端子(左) 音声を入力します。	組み合わせる製品の オーディオ出力(左)に接続	⑳
 ● オーディオ入力端子(右) 音声を入力します。	組み合わせる製品の オーディオ出力(右)に接続	㉑



取り付けと接続

他製品との接続

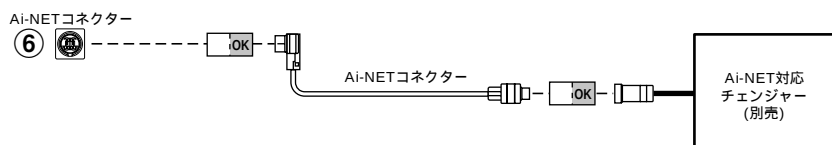
1) CD または MD チェンジャーを接続する。

システムスイッチ	NORM
----------	------



Memo

- チェンジャーのみを接続する(Ai-NET対応イコライザーを使わない) 場合、システムスイッチは「 NORM 」に設定してください。



2) 外部アンプを接続する。

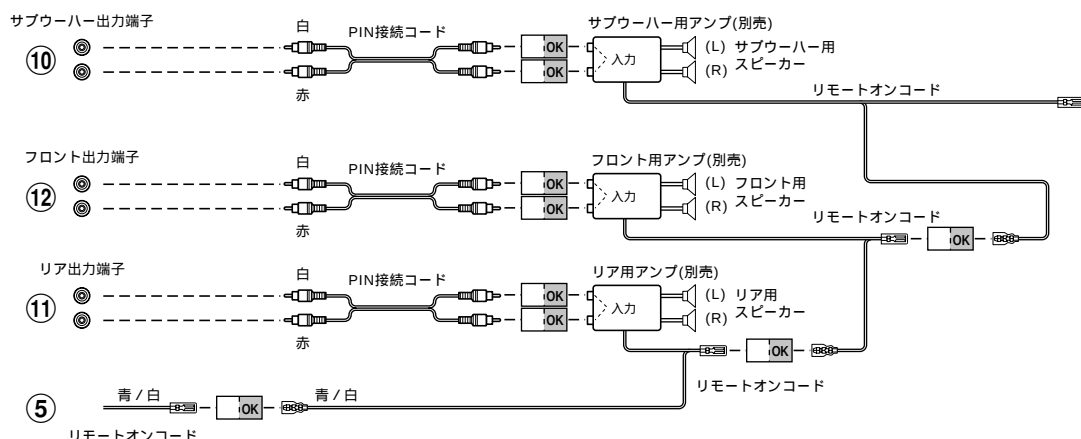
システムスイッチ	NORM
----------	------



Memo

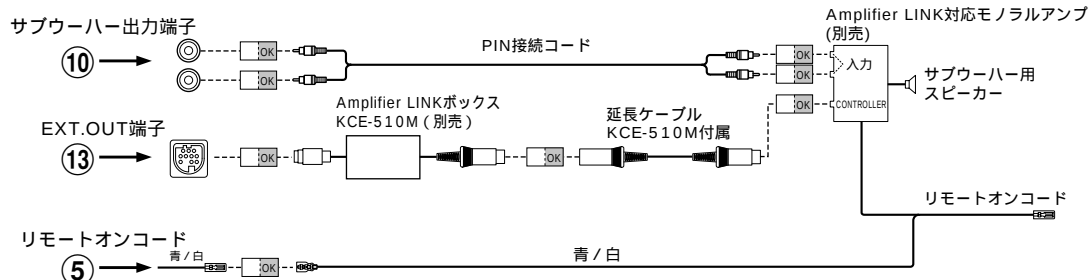
- 「サブウーハーのON/OFF (49ページ) を参照してください。

必要に応じてローパスフィルター内蔵のアンプを使用してください。



3) Amplifier LINK 対応モノラルアンプを接続する。

システムスイッチ	NORM
----------	------



Memo

- 「サブウーハーのON/OFF (49ページ) を参照してください。



4) Ai-NET 対応オーディオプロセッサー（光デジタル対応）およびチェンジャー、DVD プレイヤーを接続する。

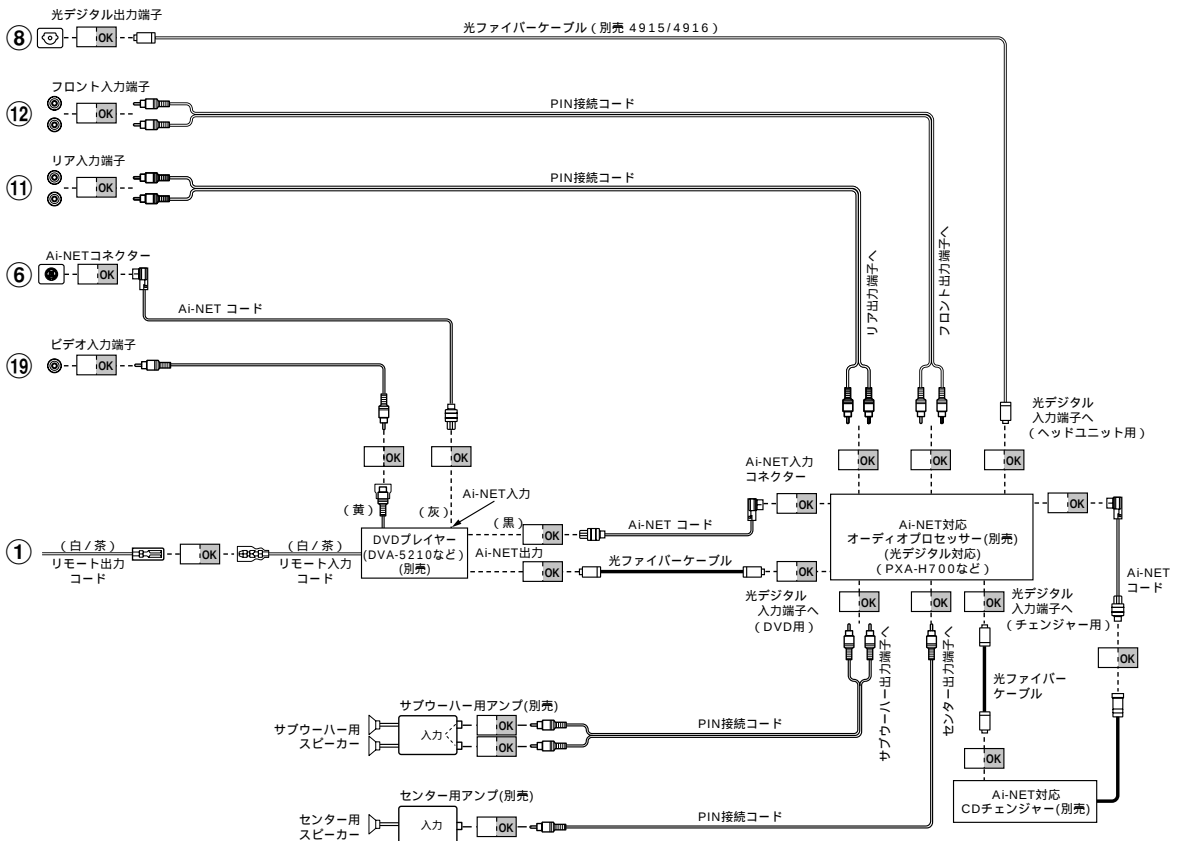
システムスイッチ EQ/DIV



- 光デジタル対応の製品を接続した場合、本機のモード設定が必要です。「外部オーディオプロセッサーの光デジタル入力切りかえ設定（42ページ）」を参照し、設定を切りかえてください。

PXA-H510 と組み合わせる場合：

- 光デジタル入力端子はDVD用へ接続してください。
- IVA-D300JとDVA-5200、DVA-5205JまたはDVA-5210との光デジタルを使用しての同時接続はできません。
- 光デジタル対応
- CDチェンジャーのみ接続。



注意

光ファイバーケーブルをご使用になるときは、次の点に注意してください。

- 光ファイバーケーブルを束ねるときには、小さく束ねないでください。(最小曲げ半径は、30mmです)
- 光ファイバーケーブルに製品などを載せないでください。

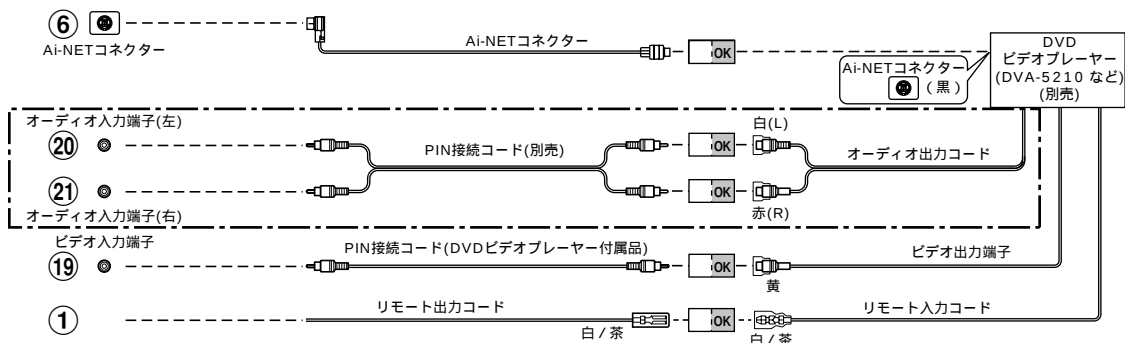


取り付けと接続

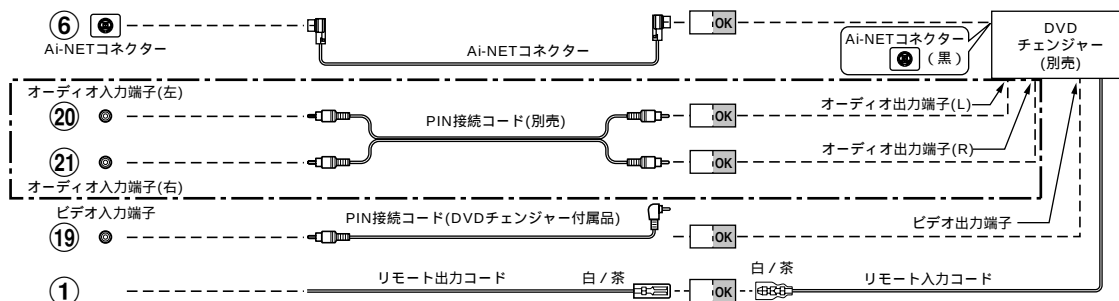
5) DVD ビデオプレイヤーまたは、DVD チェンジャーを接続する。

システムスイッチ NORM

DVD ビデオプレイヤーの接続図



DVD チェンジャーの接続図

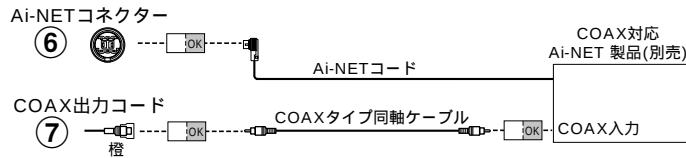


- 本機 + DVDビデオプレイヤー / DVDチェンジャー + デジタルオーディオプロセッサを組み合わせる場合は、本機のシステムスイッチを「EQ/DIV」ポジションに設定してください。(接続については、DVDビデオプレイヤー / DVDチェンジャー側の説明書をご覧ください。)
- 本機では、DVDプレイヤーまたは、DVDチェンジャーの2台接続はできません。1台のみの接続になります。
2台接続したい場合は、別売拡張BOX(VPE-S431)と組み合わせると可能です。
DVDビデオプレイヤーとDVDチェンジャーの両方を組み合わせる場合は、DVDビデオプレイヤーをAUX IN1側へ接続し、DVDチェンジャーをAUX IN2側へ接続してください。
リアモニターを接続する場合：
リアモニターへDVDビデオプレイヤーまたはDVDチェンジャーの音声を出力させるには、DVDビデオプレイヤーまたはDVDチェンジャーのオーディオ出力コードを本機のオーディオ入力端子②①へ接続してください。
- DVA-5210と接続した場合：
接続終了後、DVA-5210のシステム設定が必要になります。
製品を固定する前に、システム設定を変更してください。
システムスイッチ： 1(Ai-NET)
Ai-NET設定： FULL
詳細は、DVA-5210側の取扱説明書をご覧ください。



6) COAX 対応・Ai-NET 製品を接続する。

システムスイッチ	NORM
----------	------



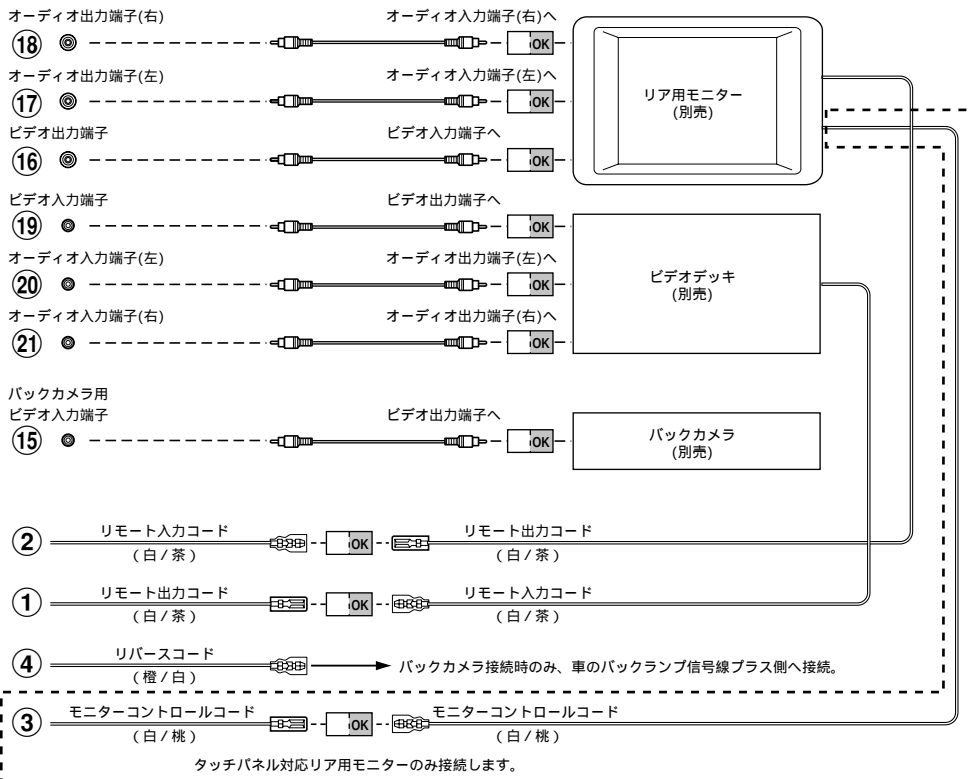
- HDA-5460MS、HDA-5465MSまたはMDA-5060MS、MDA-5065MSと接続した場合のリッピング方法については、
 - ・ HDA-5460MS、HDA-5465MS取扱説明書「CDの曲をHDD/ MGメモリースティック」に録音する」
 - ・ MDA-5060MS、MDA-5065MS取扱説明書「CDの曲を MGメモリースティック」に録音する」
 をご覧ください。

INA-D300JNをお使いのお客様へ
INA-D300JNに別売のHDA-5460MS、HDA-5465MSまたはMDA-5060MS、MDA-5065MSのいずれかを組み合わせることはできません。



7) リアモニターおよびビデオとバックカメラを接続する。

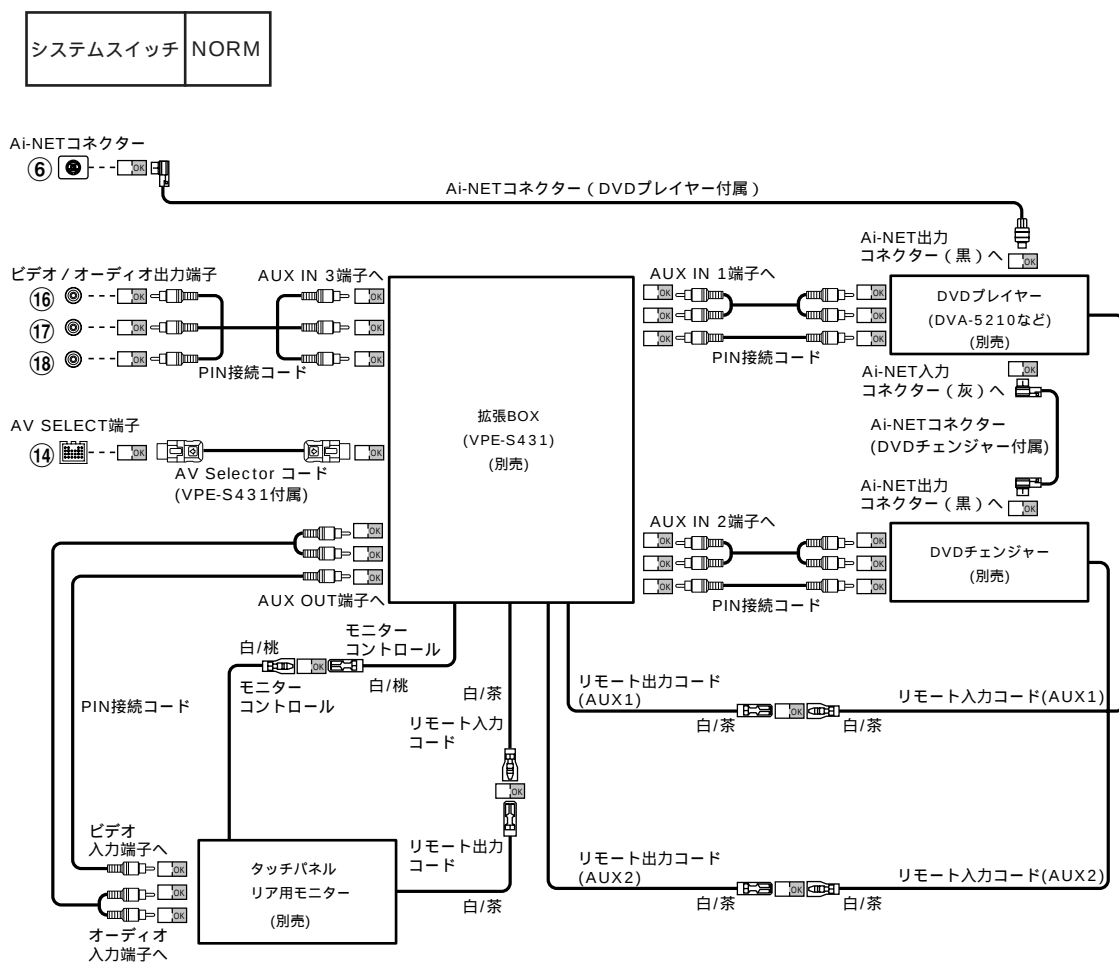
システムスイッチ	NORM
----------	------



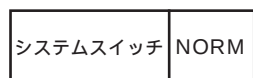


取り付けと接続

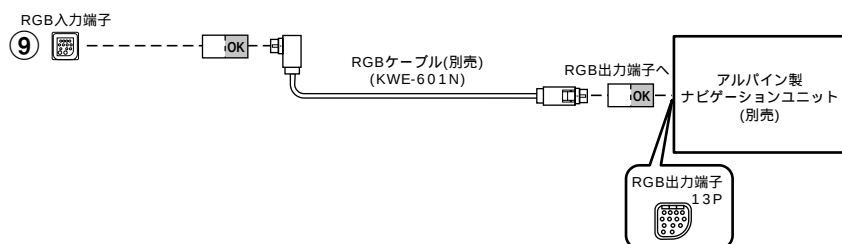
8) 拡張BOX (VPE-S431)、DVD プレイヤー、DVD チェンジャーとタッチパネルリア用モニターを接続する。



9) ナビゲーション (RGB 出力端子 13P) を接続する (RGB 接続)。



- 本機とナビゲーションシステムを接続する場合、別売またはナビゲーション製品付属のRGBケーブルを使用してください。もし、RCAで接続した場合には、本機からのナビゲーションや割り込み機能の操作はできません。
- NV7-N099S/NV7-N099SSと接続した場合は、リアモニターへのナビゲーション映像出力はされません。



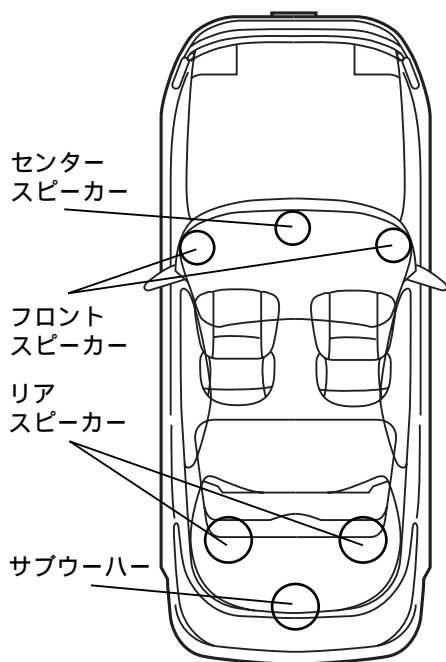
用語解説

ドルビーデジタル

ドルビーデジタルはドルビー研究所が開発したデジタルオーディオ圧縮技術で、大量のオーディオデータを効率的にディスクに記録できるようにします。モノラル(1チャンネル)から5.1チャンネルのサラウンドサウンドにいたるすべてのオーディオ信号に適合しています。異なるチャンネルへの信号は完全に独立し、さらに高品質のデジタルサウンドのため音質の低下はまったくありません。

完全な5.1チャンネル・サラウンドサウンドを楽しむには、別売のデジタルオーディオプロセッサ(PXA-H900/PXA-H510/PXA-H700など)が必要です。

IVA-D300Jは、ドルビーデジタルのデコードを行い、アナログオーディオ信号を出力します。その場合は2チャンネルオーディオで5.1チャンネルではありません。



ドルビーデジタル/DTSを楽しむための
スピーカーレイアウト

DTS

デジタル・シアター・システムズ社が開発した映画館用の高音質サラウンドシステム「DTSサウンドシステム」の家庭用デジタルサラウンドフォーマットです。

DTSは6本の独立した音声トラックを持ち、劇場公開映画などで使われている高品位の臨場感あふれるDTSサラウンドを楽しめます。

DTSはDigital Theater Systemの略。

DTSサラウンドを楽しむには別売のDTSデジタルオーディオプロセッサ(PXA-H900/PXA-H700など)が必要です。また、DVDビデオソフトもDTSに対応したものをご使用ください。

IVA-D300Jは、DTS2チャンネルデコーダーを内蔵しており、アナログ信号を出力します。

PRO LOGIC

PRO LOGICは、ドルビーサラウンドでエンコードされたプログラムをデコードするときに用いられる技術です。PRO LOGICデコーディングによって、2チャンネル(ステレオ)のソースから4チャンネル(フロント左右、中央、およびモノラルリアサラウンド)のサウンドを提供します。

PRO LOGICサウンドを楽しむには、別売のデジタルオーディオプロセッサ(PXA-H900/PXA-H510)が必要です。

Dolby PRO LOGIC II

Dolby PRO LOGIC IIは、2チャンネルソースを5チャンネルで全帯域再生します。それを行うのが、ソースにない音や音の色付けを加えることなく、オリジナル録音の空間的特質を引き出す先進的で高音質のマトリックスサラウンドデコーダです。

Dolby PRO LOGIC II サウンドを楽しむには、別売のデジタルオーディオプロセッサ(PXA-H700など)が必要です。

リニアPCM音声(LPCM)

音楽CDに用いられている信号記録方式。音楽CDでは44.1kHz/16bitで記録されているのに対し、DVDでは48kHz/16bit～96kHz/24bitで記録されていますので、音楽CDよりも高音質の再生ができます。

視聴規制(パレンタルロック)

国ごとに規制した視聴年齢制限をするためのDVDの機能。DVDにより制限のしかたは異なり、全く再生できない場合や、過激な場面をとばしたり、差し替えたりして再生をします。

言語コード表

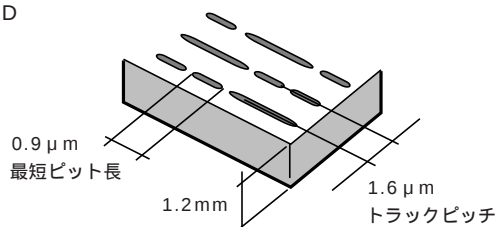
(詳しくは35ページをご覧ください。)

記号	コード	言語	記号	コード	言語	記号	コード	言語
AA	6565	アフガル語	IK	7375	Inupiak語	RU	8285	ロシア語
AB	6566	アブバジア語	IN	7378	インドネシア語	RW	8287	キニヤルワンダ語
AF	6570	アフリカーンス語	IS	7383	アイスランド語	SA	8365	サンスクリット語
AM	6577	アムハラ語	IT	7384	イタリア語	SD	8368	シンド語
AR	6582	アラビア語	IW	7387	ヘブライ語	SG	8371	サンゴ語
AS	6583	アッサム語	JA	7465	日本語	SH	8372	セルビアクロアチア語
AY	6589	アイマラ語	JI	7473	イディッシュ語	SI	8373	シンハラ語
AZ	6590	アゼルバイジャン語	JW	7487	ジャワ語	SK	8375	スロバキア語
BA	6665	バシキール語	KA	7565	グルジア語	SL	8376	スロベニア語
BE	6669	ベラルーシ語	KK	7575	カザフ語	SM	8377	サモア語
BG	6671	ブルガリア語	KL	7576	グリーンランド語	SN	8378	ショナ語
BH	6672	ビハーリー語	KM	7577	カンボジア語	SO	8379	ソマリ語
BI	6673	ビスラマ語	KN	7578	カナダ語	SQ	8381	アルバニア語
BN	6678	ベンガル語、バングラ語	KO	7579	韓国語	SR	8382	セルビア語
BO	6679	チベット語	KS	7583	カシミール語	SS	8383	シスワティ語
BR	6682	ブルトン語	KU	7585	クルド語	ST	8384	セストゥ語
CA	6765	カタロニア語	KY	7589	キルギス語	SU	8385	スンダ語
CO	6779	コルシカ語	LA	7665	ラテン語	SV	8386	スウェーデン語
CS	6783	チェコ語	LN	7678	リンガラ語	SW	8387	スワヒリ語
CY	6789	ウェールズ語	LO	7679	ラオス語	TA	8465	タミール語
DA	6865	デンマーク語	LT	7684	リトアニア語	TE	8469	テルグ語
DE	6869	ドイツ語	LV	7686	ラトビア語、レット語	TG	8471	タジク語
DZ	6890	ブータン語	MG	7771	マダガスカル語	TH	8472	タイ語
EL	6976	ギリシャ語	MI	7773	マオリ語	TI	8473	ティグリニヤ語
EN	6978	英語	MK	7775	マケドニア語	TK	8475	トゥルクメン語
EO	6979	エスペラント語	ML	7776	マラヤーラム語	TL	8476	タガログ語
ES	6983	スペイン語	MN	7778	モンゴル語	TN	8478	セツワナ語
ET	6984	エストニア語	MO	7779	モルダビア語	TO	8479	トンガ語
EU	6985	バスク語	MR	7782	マラータ語	TR	8482	トルコ語
FA	7065	ペルシャ語	MS	7783	マレー語	TS	8483	ツォンガ語
FI	7073	フィンランド語	MT	7784	マルタ語	TT	8484	タタル語
FJ	7074	フィジー語	MY	7789	ミャンマー語	TW	8487	トウィ語
FO	7079	フェロー語	NA	7865	ナウル語	UK	8575	ウクライナ語
FR	7082	フランス語	NE	7869	ネパール語	UR	8582	ウルドゥー語
FY	7089	フリジア語	NL	7876	オランダ語	UZ	8590	ウズベク語
GA	7165	アイルランド語	NO	7879	ノルウェー語	VI	8673	ベトナム語
GD	7168	スコットランドゲール語	OC	7967	プロバンス語	VO	8679	ボラビュク語
GL	7176	ガルシア語	OM	7977	(アフアン)オロモ語	WO	8779	ウォロフ語
GN	7178	グアラニ語	OR	7982	オリヤー語	XH	8872	コーサ語
GU	7185	グジャラート語	PA	8065	パンジャブ語	YO	8979	ヨルバ語
HA	7265	ハウサ語	PL	8076	ポーランド語	ZH	9072	中国語
HI	7273	ヒンディー語	PS	8083	パシュトー語	ZU	9085	ズール語
HR	7282	クロアチア語	PT	8084	ポルトガル語			
HU	7285	ハンガリー語	QU	8185	ケチュア語			
HY	7289	アルメニア語	RM	8277	ラエティ＝ロマン語			
IA	7365	国際語	RN	8278	キルンディ語			
IE	7369	国際語	RO	8279	ルーマニア語			

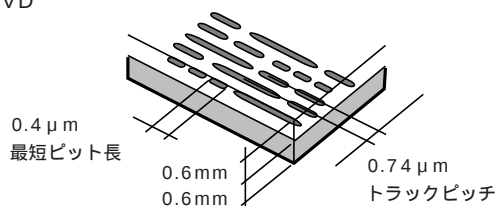
DVD について

音楽CDやDVD等のディスクには、情報を記録するための溝（トラック）があります。そこに、0と1のデジタル情報を凹凸で表した細かいピットが作られ、それをレーザー光で読み取り再生します。DVDは、トラック間隔をCDの半分以下に狭め、ピットもより細かくして高密度でより多くの情報を記録させています。

CD



DVD



12cmのディスクに映画なら1本分、音楽なら約4時間を収録できます。

さらに水平解像度500本以上の高画質により透明感のある画質、鮮やかな色合いを再現します。また、別売りのデジタルオーディオプロセッサ（PXA-H900/PXA-H510/PXA-H700など）と組み合わせることによりドルビーデジタル5.1chサラウンドで劇場の迫力と臨場感を再現することができます。

さらに、DVDディスクにはいろいろな機能があります。

- マルチ音声機能^{*}（21ページ）

1本の映画の中に最大8つの言語を収録できます。本機またはリモコンのボタン操作でお好みの音声で再生することができます。

- サブタイトル（字幕）機能^{*}（21ページ）

映画の字幕スーパーなら32カ国語まで収録できます。本機またはリモコンのボタン操作でお好みの字幕で再生することができます。

- マルチアングル機能^{*}（21ページ）

複数のアングルで撮影された映像が記録されていれば、本機またはリモコンのボタン操作でお好みのアングル（角度）で再生することができます。

- マルチストーリー機能^{*}

1本の映画の中にいくつものストーリーが入っていて、お好みのストーリーを選ぶことにより何通りものストーリーを楽しむことができます。

操作方法はディスクによって異なりますが、再生中にストーリー選択画面が表示されますので、画面の指示に従って操作してください。



^{*} これらの機能は、ディスクによって収録されている音声言語、字幕、アングルなどが異なります。詳しくはディスクの説明書をご覧ください。

MP3/WMA について

注意：

個人で楽しむ以外は、オーディオデータ(MP3/WMAデータ含む)を著作権者に無断で複製し、有料無料を問わず配布、転送、転載することは著作権法や国際協定で固く禁じられています。

MP3とは？

正式には「MPEG-1 Audio Layer3」といい、国際標準化団体のISOとIECの共同活動機関であるMPEGが定めた圧縮規格です。

MP3は音声データを圧縮した音声ファイルで、サウンドデータを非常に高い圧縮率で圧縮することができます。

また、CDクオリティに近い音質を実現しても約1/10の圧縮率を得ることができます。

(サンプリング周波数44.1kHz、ビットレート128kbpsの場合)

このような高圧縮率を実現しているMP3フォーマットは、人には聴き取れない音を消すことなどにより高圧縮を実現しています。

WMAとは？

正式には「Windows Media™ Audio」と言い、音声データを圧縮する方式です。WMAは音声データをMP3よりも高い圧縮率(約半分)で音楽ファイルを作成・保存することができます。さらにCD同等の音質を保ちます。

MP3/WMAへ圧縮する方法

MP3/WMA専用ソフトを使い圧縮します。詳しくは専用ソフトの説明書を参照願います。

また、本機で再生可能なMP3/WMAファイルは、拡張子が「mp3」「wma」です。(WMAはVer.7.1、8に対応)

再生可能なサンプリングレート・ビットレート

サンプリングレート

MP3：32kHz～48kHz

WMA：32kHz～48kHz

ビットレート

MP3：32kbps～320kbps、WMA：32kbps～192kbps

サンプリングレートまたはビットレートによっては正常に再生されない場合があります。

上記記載以外は動作を保証致しかねます。

ID3タグ/WMAタグについて

ID3タグは、ID3 Tag v1に対応しています。

MP3/WMAファイルにタグ情報が入っていれば、タイトル(曲名)、アーティスト名、アルバム名のタグ情報を表示できます。

本機で表示可能な文字は半角の英数、_(アンダーバー)のみ(半角30文字(WMAは半角15文字)まで)です。

ひらがな/カタカナ/漢字には対応していません。

対応文字以外の場合、「NO SUPPORT」が表示されます。

また、タグ情報によっては正しく表示されないことがあります。

MP3/WMAディスクを作成するには

MP3/WMAファイルを用意し、CD-Rライティングソフトを利用して、CD-R・CD-RWメディアに書き込みます。

ファイル/フォルダ数(ルートフォルダを含めて)は、各255個までです。ただしライティングソフトによっては再生できない場合があります。

MP3作成ソフトの1部にはライティングソフトが同梱されているものもあります。このようなソフトを使用した場合、本機で再生ができないことがあります。このような場合には、他のライティングソフトを使用してMP3ファイル(フォルダ)のみを記憶してください。

フォルダやファイルの構成によってはディスクの読み込みに時間がかかる場合があります。その場合は、フォルダ数またはファイル数を減らすことをおすすめします。

対応メディア

再生できるメディアは、CD-ROM、CD-R、CD-RWです。

対応ファイルシステム

ISO9660レベル1、レベル2でフォーマットされたディスクに対応しています。

ISO9660規格では、フォルダのディレクトリ階層(最大8階層)やフォルダ/ファイル名の文字数(31文字拡張子含む)、フォルダ/ファイル名で使用できる文字(A～Z、0～9、_(アンダスコア))などの制限があります。

また、Romeo、JolietなどのISO9660準拠であれば、再生は可能です。但し、ファイル名/フォルダ名などは正しく表示されない場合があります。

対応フォーマット

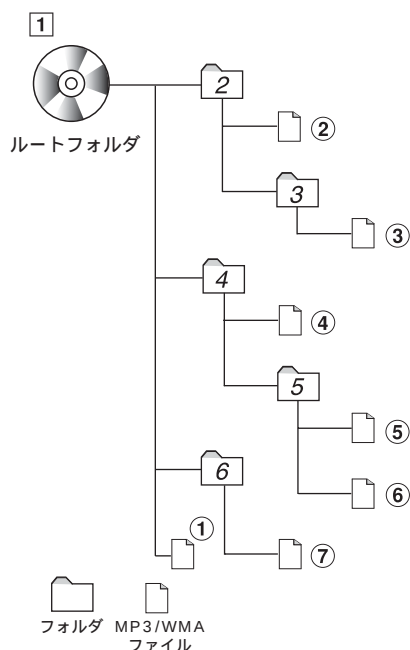
CD-ROM、CD-ROM XA、Mixed Mode CD、Enhanced CD (CD-Extra)、及びマルチセッションに対応しています。

但し、Track At Onceやバケットライトで作成されたCDの場合、正常に再生できません。

演奏される順番

演奏される順番はライティングソフトで書き込まれた順番になります。このため、記録しようとした順番と再生される順番が一致しないことがあります。

下図のようなフォルダ・ファイル階層のメディアでの演奏順は次の通りです。(実際に表示される番号ではありません)



用語説明

ビットレート

エンコードするときに指定する「音」の圧縮率で、ビットレートが高いほど高音質になるが、ファイルサイズも大きくなる。

サンプリングレート

データを1秒間に何回サンプリング(記録)するかを示す値のことで、たとえば、音楽CDは44.1kHzで、1秒間にデータを4万4100回サンプリング(記録)していることとなります。高ければ高いほど音質は向上しますが、それだけデータ量も増えます。

エンコード

音楽CD やWAVEファイルなどの音声ファイルを、特定の音声圧縮フォーマットに変換すること。

タグ

曲名やアルバム名、アーティスト名など、MP3/WMAファイルに書き込まれた楽曲情報。(MP3: ID3タグ、WMA: WMAタグ)

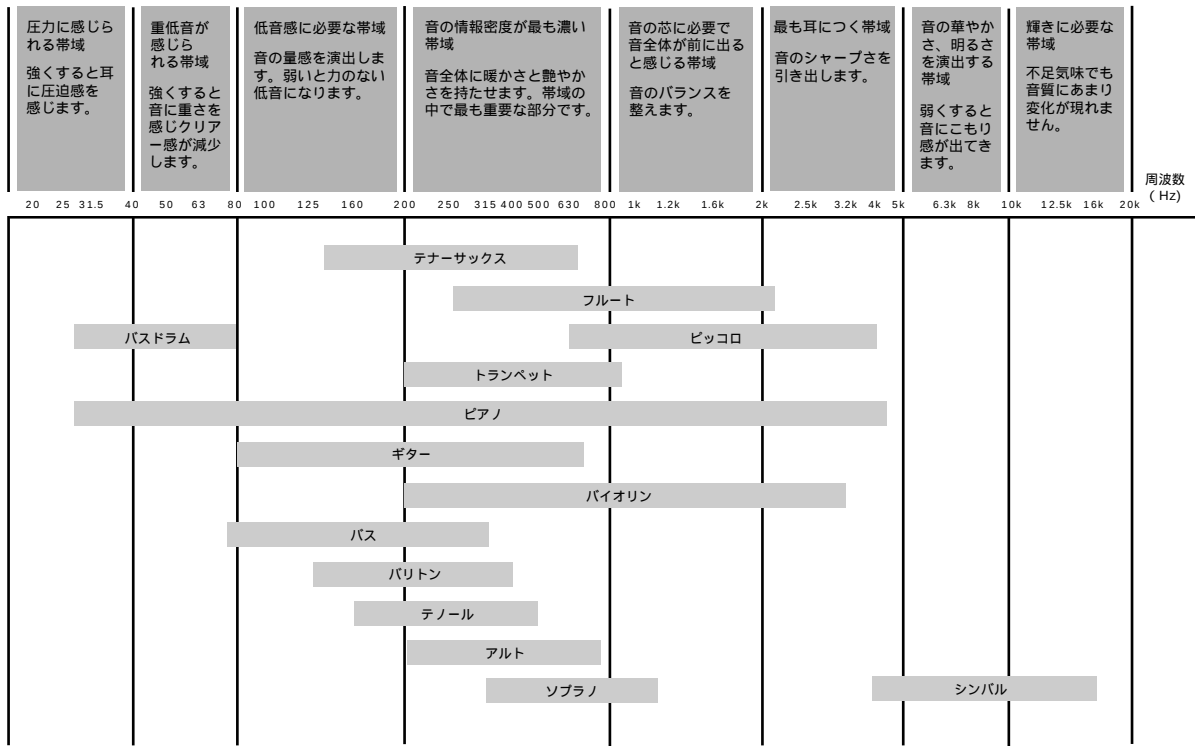
ルートフォルダ

ファイルシステムの最上階層のフォルダ。全てのフォルダ/ファイルはルートフォルダに含まれています。

知っておきたい豆知識

周波数帯域と音質について

一般的に、周波数には次のような音質の特徴があり、各帯域を強調/減衰することにより、さまざまな音質が楽しめます。調整の際の参考にしてください。



故障かな？と思ったら

操作ミスや勘違いを故障と間違えていませんか？



接続・配線は正しく行われていますか？



下の表をもう一度ご確認ください。



それでも直らないときは、お買い上げ店、またはお近くのお問い合わせ窓口(P92)にご相談ください。

- 操作中に停止したままになったり正常に動作しなくなった場合は、一度電源をOFF→ONしてください。それでも正常に動作しない時は、下表を参照して処置を行ってください。

共通部

動作しない。

ディスプレイに何も表示されない。

- ヒューズが切れている。
 - ・ 規定容量のヒューズと交換する。(→P72)
- 内部のマイコンが、ノイズなどの原因で誤動作してしまった。
 - ・ リセットスイッチをボールペンの先などで押す。(→P10)
- BLACK OUT機能が動作している。
 - ・ BLACK OUT機能を解除する。(→P32)

電源が入るが音が出ない。

- 音量レベルが最小になっている。
 - ・ 音量レベルを上げる。(→P11)
- MUTEがONになっている。
 - ・ MUTEを解除する。(→P11)
- フェダーの設定が適切でない。
 - ・ 2スピーカーで聴くときは、スピーカーのバランスを前または後に設定する。(→P27)
- ナビ音声が入り込まない。
 - ・ NAV.MIXの音量調整を行う。(→P27、40)

記憶させた内容が消えてしまった。

- リセットスイッチを押した。電源コードまたはバッテリーをはずした。
 - ・ もう一度記憶する。
- バッテリーコードの接続ミス
 - ・ 接続を確認する。(→P72～73)

ディスプレイが暗い。

- 気温が低いときは、電源を入れた後、しばらく暗いことがある。
 - ・ しばらく待つ。

ディスプレイが表示しない。

- 音声と映像があわない。
 - ・ サイマル機能になっている。(→P31)
- MX、EQの設定ができない。
 - ・ DEFEATの設定がONになっている。
 - ・ DEFEATの設定をOFFにする。(→P27)

ナビ画面が割り込む。

- ナビゲーション側のシステム割り込みの設定が「システム」に設定されている。
 - ・ システム割り込みの設定を「しない」に切りかえる。(詳しくは、ナビゲーション側の取扱説明書をご覧ください。INA-D300JNをお使いのお客様へ：本設定はありません。)

CD/MP3/WMA部 / DVD/ ビデオ CD 部

ディスクが入らない。

- すでに別のディスクが入っている。
 - ・ ディスクを取り出してから入れ直す。
- 演奏が始まらない。/音がとぶ。/音が歪む。/早送り/早戻しができない。
 - ・ 車内温度が50℃以上ある。
 - ・ 車内温度を常温まで下げてから、演奏させる。
- ディスクに傷が付いている。
 - ・ ディスクがひどく汚れている。
 - ・ 録音状態が良くない。
 - ・ 本機対応のディスクでない。
 - ・ 他のディスクを再生してみる。
- 結露している。
 - ・ しばらく放置してから使う。
- ピックアップレンズが汚れている。
 - ・ メンテナンスをする。(お問い合わせ窓口へ)(→P92)
 - ・ 市販のレンズクリーナーは、使用できません。

ディスクが勝手にイジェクトする。

- ディスクの側面/センターホールにバリがある。
 - ・ ボールペンなどで外側の縁をなぞって突起箇所を取り除く。



CD-R/CD-RWが再生できない。

- クローズセッション(ファイナライズ処理)を行っていない。
 - ・ クローズセッション(ファイナライズ処理)を行い、再度、試してみる。

MP3/WMAが演奏されない。

- 書き込みに失敗している/対応フォーマット以外で書き込まれている
 - ・ 書き込みに失敗していないか確認する。または、「MP3/WMAについて」を参照し本機対応のフォーマットで書き込みを行う。(→P84～85)

5.1chが再生されない。

- 外部オーディオプロセッサ光デジタル入力切りかえをしていない。
 - ・ 光デジタル入力切りかえの設定をする。(→P42)

(次ページへつづく)

動作しない。

- 結露している
 - ・しばらく放置(1時間程度)してから使う。
- パーキング・ブレーキ・コードを接続していない。
 - ・パーキング・ブレーキをかけていない。
 - ・パーキング・ブレーキ・コードを接続し、パーキング・ブレーキをかける。

再生が始まらない。

- ディスクを裏返しに入れている。
 - ・ディスクを確認し、ラベル印刷面を上にして入れる。
- ディスクが汚れている。
 - ・ディスクをきれいにする。
- 本機で再生できないディスクが入っている。
 - ・再生できるディスクを確認する。(→P5、6)
- 視聴制限がされている。
 - ・視聴制限を解除、または規制レベルを変更する。

映像が不鮮明になったり、雑音が入ったりする。

- 早送り/早戻しをした。
 - ・多少乱れることはありますが、故障ではありません。
- 車のバッテリー電源が低下している。
 - ・バッテリー電源及び配線を確認する。
(負荷状態で11ボルトを下回ると誤作動の原因となります。)
- モニターの蛍光管が消耗している。
 - ・モニターの蛍光管を交換する。

映像が時々止まる。

- ディスクにキズがある。
 - ・キズのないディスクと交換する。

ラジオ部

受信できない。

雑音が入る。

- アンテナが接続されていない。
 - ・アンテナが確実に接続されているか確認する。
- アンテナが伸びていない。
 - ・アンテナを伸ばす。
 - ・パワーアンテナ/ブースターコードが接続されているか確認する。
- 放送局の周波数が合っていない。
 - ・周波数を正しく合わせる。(→P23)
- 周りに障害物などがあり、受信状態が良くない。
 - ・見通しが良いところに移動する。
- アースコードが接続されていない、ゆるんでいる。
 - ・アースコードが接続されているか確認する。または、接続場所を変更する。

自動的に放送局が選べない。

- 電波の弱い地域にいる。
 - ・ディスタンスモードまたはマニュアルモードで受信する。(→P23)

メッセージが表れたら... (CD/MP3/WMA 部)

NO DISC

- ディスクが入っていない。
 - ・ディスクを入れる。
- ディスクは入っているが、「NO DISC」と表示され、演奏または、イジェクトができない。
 - ・次の方法でディスクを取り出す。
「▲」を3秒以上押す。

HI-TEMP

- 車内温度が高すぎる。
 - ・車内温度を常温まで下げる。
 - ・本機の電源をOFFにし、温度が下がるまでしばらく待つ。その後再び電源をONさせる。

LOADING ERROR

- メカニズムエラー。
 - ① 「▲」を押して、ディスクを取り出す。
イジェクトできないときは修理ご相談窓口へ。
 - ② ディスクを取り出してもエラー表示が消えない場合は、もう一度「▲」を押す。
 - ③ 何度押してもエラー表示が消えない場合は修理ご相談窓口へ。

DISC ERROR

- ディスク傷、ディスク汚れ。/録音状態が良くない。/本機対応のディスクでない。
 - ・「▲」を押して、ディスクを交換する。

ERROR

- MY BACKGROUND機能で規定容量サイズ以上のJPEGファイルを読み込ませた。
 - ・規定容量サイズ以内のJPEGファイルで作成する。(→P53)

ERROR-JPEG ON DISC

- オーディオデータとJPEGデータが混在されているディスクを入れた。
 - ・PLAY MODEの設定を「CD」に設定する。(→P39「MP3/WMA再生データの設定」を参照)

メッセージが表れたら...

(チェンジャー部 (オプション))

NO MAGAZINE	- マガジンがCDチェンジャーにセットされていない。 - マガジンをCDチェンジャーにセットする。
--------------------	--

NO DISC	- ディスクが入っていない。 - ディスクを入れる。
----------------	---

HI-TEMP	- 車内温度が高すぎる。 - 車内温度を常温まで下げる。
----------------	---

ERROR01	- ディスクがマガジンに戻っていない。 ①「▲」を押す。 ② 空のマガジンを入れ、もう一度「▲」を押しディスクを回収する。 - メカニズムエラー。 ①「▲」を押す。 ② 表示が消えたら、ディスクを入れ直したマガジンを再度挿入する。 ③ それでも復旧しない...修理ご相談窓口へ。
----------------	---

ERROR02	- ディスクがマガジンに戻っていない。 ①「▲」を押す。 ② 空のマガジンを入れ、もう一度「▲」を押しディスクを回収する。
----------------	---

メッセージが表れたら... (DVD/ビデオCD部)

HI-TEMP	- 車内温度が高すぎる。 - 車内温度を常温まで下げる。 - 本機の電源をOFFにし、温度が下がるまでしばらく待つ。その後再び電源をONさせる。
----------------	--

NO DISC	- ディスクが入っていない。 - ディスクを入れる。 - ディスクは入っているが、「NO DISC」と表示され、演奏または、イジェクトができない。 - 次の方法でディスクを取り出す。 「▲」を3秒以上押す。
----------------	--

⓪	- リモコン操作を受け付けない。 - ディスクまたは再生状態によっては、その操作を受け付けられない場合があります。故障ではありません。
---	--

REGIONAL CODE VIOLATION	- ディスクの地域コード番号が合っていない。 - 地域コード番号が対応しているディスクを入れる。(→P6)
--------------------------------	--

VIDEO SIGNAL SYSTEM IS NOT CORRECT	- PAL対応のディスクを入れた。 - NTSC対応のディスクを入れる。
---	---

LOADING ERROR	- メカニズムエラー。 ①「▲」を押して、ディスクを取り出す。 イジェクトできないときは修理ご相談窓口へ。 ② ディスクを取り出してもエラー表示が消えない場合は、もう一度「▲」を押す。 ③ 何度押してもエラー表示が消えない場合は修理ご相談窓口へ。
----------------------	--

EJECT ERROR	
DISC ERROR	- ディスク傷、ディスク汚れ。/ 録音状態が良くない。/ 本機対応のディスクでない。 「▲」を押して、ディスクを交換する。

規格

モニター部

画面サイズ	7.0インチ
液晶	透過型TN液晶
駆動方式	TFTアクティブマトリックス
画素数	336.960個(1.440×234)
有効画素数	99.99%以上
照明方式	冷陰極蛍光管
外形寸法	178(幅)×165(奥行)×50 (高さ)mm(収納時)
重量	2.1kg

ラジオチューナー部

受信周波数	AM; 522~1,629kHz, FM; 76.0~90.0MHz
実用感度	AM; 22.5μV, FM; 0.8μV(75Ω)
ステレオセパレーション	9.3dB(新IHF)
SN比	FM; 45dB以上
イメージ妨害比	FM; 80dB以上
IF妨害比	FM; 80dB以上

CD/DVD部

方式	光学式(コンパクトディスク方式)
量子化ビット数	1ビット
チャンネル数	2チャンネル(ステレオ)
ダイナミックレンジ	95dB(1kHz)以上
高周波歪率	0.008%(1kHz)以下
チャンネルセパレーション	85dB(1kHz)以上
ワウフラッター	測定限界以下
信号システム	NTSC
水平解像度	500本以上
画像出力レベル	1Vp-p(75Ω)
画像SN比	DVD; 60dB
音声SN比	105dB以上
周波数特性	5~20kHz

TVチューナー部

アンテナ入力	4chダイバー(75Ω)
受信方式	NTSCカラー方式
回路方式	PLL周波数シンセサイザー
受信チャンネル	VHF1~12ch, UHF13~62ch
S/N比(ビデオ)	40dB
(オーディオ)	50dB
実用感度	40dBμV
外形寸法	275(幅)×170(奥行)×40 (高さ)mm
重量	1.3kg

一般

使用電源	DC14.4V (動作範囲; 11~16V)
アース方式	⊖アース
音声出力レベル	プリアウト: 2V/10kΩ(最大) (フロント/リア) プリアウト: 2V/10kΩ(最大) (サブウーハー) AUX OUT: 1.2V/10kΩ Ai-NET: 850mV
動作温度範囲	0 ~ 45

アンプ部

最大出力	50W×4
------	-------

- 蛍光管は保証期間内であっても、消耗品につき有償交換となります。
- 製品の規格および外観は、改良のため予告なく変更する場合があります。
- 本説明書のイラストは、印刷条件により、印象が異なる場合があります。
- 本書の一部または全部を無断で転載しないでください。



Memo

- 液晶パネルは、非常に精度の高い技術で作られており、99.99%以上の有効画素数がありますが、0.01%の画素欠けや常時点灯する画素があり得ますので、あらかじめご了承ください。

保証について

保証書について

- この製品には保証書が添付されています。お買上げの際、お受け取りください。
- 必ず「販売店印・お買上げ日」が記入されていることをご確認ください。
- 保証書は再発行できませんので、大切に保管してください。

アフターサービスについて

- 調子が悪いとき
まず、この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。
- それでも調子が悪いとき
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。お買上げ店、または92ページの「お問い合わせ窓口」にあるお近くの修理ご相談窓口に、修理を依頼してください。

- 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは、保証書をご覧ください。
- 保証期間経過後の修理
修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。
- 補修用性能部品
製造打切り後、最低6年間保有しています。
- アフターサービスについての詳細、その他ご不明な点はお買上げ店、または92ページの「お問い合わせ窓口」にお問い合わせください。
- 一部の付属部品は補修部品も用意しています。部品を無くしたり壊したりしたときは、お買上げ店にお問い合わせください。

(AV/NAVI/MD/3D)

(平成16年5月15日現在)

お問い合わせ窓口

- 製品に関するご相談 / お問い合わせは、お買い上げ店または下記の「製品ご相談窓口」をご利用ください。
- 修理に関するお問い合わせは、下記「修理ご相談窓口」をご利用ください。
- ご相談窓口の名称・電話番号・所在地は、変更になる場合があります。

製品ご相談窓口

インフォメーションセンター インフォメーションセンター 西日本分室 ・電話は混雑が予想されます。FAXをおすすめします。 FAX:048-662-6676	・TEL:048-662-6636 ・TEL:06-6386-2236 ・電話受付時間 土日祝日、 弊社休業日を除く 9:30～17:30
--	--

営業所・販売名	電話番号	住所	担当 都道府県
アルパインマーケティング (株) 本部	03-5496-8231	〒141-0031 東京都品川区西五反田 1丁目1番8号	
北海道エリア 札幌オフィス	011-621-4485	〒064-0821 北海道札幌市中央区北1条西22丁目2番1号 上野ビル	北海道全域
東北エリア 仙台オフィス 郡山オフィス 盛岡オフィス	022-239-5331 024-925-3811 019-664-1210	〒983-0043 宮城県仙台市宮城野区萩野町3丁目9番5号 〒963-8051 福島県郡山市富久山町八山田字土布池 11番5号 〒020-0114 岩手県盛岡市高松 4丁目2番2号 オリエント5ビル	宮城県 / 山形県 / 秋田県 福島県 青森県 / 岩手県
北関東エリア 埼玉オフィス 高崎オフィス 松本オフィス 宇都宮オフィス 新潟オフィス	048-664-7701 027-361-5813 0263-48-4772 028-610-8890 025-257-8680	〒331-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町3丁目179番 〒370-0073 群馬県高崎市緑町3丁目16番6 〒390-0852 長野県松本市島立 830番地の11 深澤ビル102号 〒321-0942 栃木県宇都宮市峰 2-28-12 〒950-0852 新潟県新潟市石山 1丁目3-6 エクセレント石山	埼玉県 群馬県 長野県 / 山梨県 栃木県 新潟県
東関東エリア 東関東オフィス	03-5666-5226	〒133-0061 東京都江戸川区篠崎町 2-406-1	千代田区 / 中央区 / 江東区 / 墨田区 / 台東区 / 荒川区 / 文京区 / 江戸川区 / 足立区 / 千葉県 / 茨城県
南関東エリア 東京オフィス 神奈川オフィス	045-541-7261 045-541-7261	〒223-0057 神奈川県横浜市港北区新羽町 1767番地 アルプス電気横浜事業所内 5F 〒223-0057 神奈川県横浜市港北区新羽町 1767番地 アルプス電気横浜事業所内 5F	東京都(千代田区 / 中央区 / 江東区 / 墨田区 / 台東区 / 荒川区 / 文京区 / 江戸川区 / 足立区以外) 神奈川県 / 静岡県(大井川以东)
中部圏エリア 中部オフィス 北陸オフィス	052-779-5655 076-240-8111	〒465-0021 愛知県名古屋市中区東区猪子石 3丁目108 〒921-8066 石川県金沢市矢木 3丁目72番1号	愛知県 / 三重県 / 岐阜県 / 静岡県(大井川以西) 石川県 / 富山県 / 福井県
近畿圏エリア 大阪オフィス	06-6386-4136	〒564-0041 大阪府吹田市泉町 3丁目18番14号	大阪府 / 奈良県 / 和歌山県
中四国エリア 岡山オフィス 広島オフィス 高松オフィス	086-243-8257 082-846-1175 087-869-3086	〒700-0975 岡山県岡山市今 4丁目5番2号 〒731-0138 広島県広島市安佐南区祇園 2丁目11番16号 〒761-8071 香川県高松市伏石町 1473-11	岡山県 / 島根県 / 鳥取県 広島県 / 山口県 徳島県 / 香川県 / 愛媛県
九州エリア 福岡オフィス 長崎オフィス 鹿児島オフィス	092-452-8870 095-727-1581 099-218-8321	〒816-0093 福岡県福岡市博多区那珂 3丁目23番2号 ヒロタビル7号 〒854-0074 長崎県諫早市山川町 3の13 〒890-0005 鹿児島県鹿児島市下伊敷 1丁目53番25号 ティアラハイツ102	福岡県 / 大分県 / 佐賀県 / 熊本県 長崎県 鹿児島県 / 宮崎県
アルパイン京都販売(株)	075-351-6406	〒600-8480 京都府京都市下京区五条通堀川東入小泉町 113番地の1	京都府 / 滋賀県
アルパイン兵庫販売(株)	0794-54-6123	〒675-0067 兵庫県加古川市加古川町河原 133の1	兵庫県
アルパイン高知販売(株)	088-884-6800	〒780-8122 高知県高知市高須新町 3丁目10番8号	高知県
(株)バルス	098-866-1916	〒900-0003 沖縄県那覇市安謝 217番地3	沖縄県

修理ご相談窓口

問い合わせ窓口	電話番号	住所	管轄エリア
アルパインカスタマーズサービス (株) 東日本サービスセンター	048-664-9711	〒331-0812 埼玉県さいたま市北区宮原町 2-7-2	北海道 / 青森県 / 岩手県 / 秋田県 / 山形県 / 宮城県 / 福島県 / 栃木県 / 茨城県 / 群馬県 / 東京都 / 神奈川県 / 埼玉県 / 千葉県 / 新潟県 / 長野県 / 山梨県
アルパインカスタマーズサービス (株) 西日本サービスセンター	06-6386-4130	〒564-0041 大阪府吹田市泉町 3丁目18番14号	静岡県 / 愛知県 / 三重県 / 岐阜県 / 福井県 / 富山県 / 石川県 / 滋賀県 / 京都府 / 大阪府 / 和歌山県 / 奈良県 / 兵庫県 / 岡山県 / 島根県 / 鳥取県 / 広島県 / 山口県 / 香川県 / 愛媛県 / 徳島県 / 高知県 / 福岡県 / 佐賀県 / 大分県 / 熊本県 / 長崎県 / 鹿児島県 / 宮崎県 / 沖縄県

索引

あ 行

アクセスインジケーター	10
アングル切りかえ	21
映像画質の調整	51
映像コントラストの調整	51
映像だけを切りかえる	31
映像の明るさを調整	50
映像の色あいを調整	50
映像の色の濃さを調整	50
オーディオプロセッサの操作 (オプション) ... 55 ~	64
オーディオ調整	27
オートバックグラウンドの設定	44
音声言語切りかえ	21
音声言語の設定	34
音声多重機能	39
音声はそのまま映像ソースのみを切りかえる	31
音量調整	11

か 行

外部オーディオプロセッサの光デジタル入力 切りかえ設定	42
外部モニター出力の設定	41
外部拡張 BOX の接続設定	41
外部割り込みアイコン表示の設定	40
外部割り込みモードの設定	40
外部入力に表示名をつける	41
外部入力音声レベルの調整	41
カントリコード設定を変更する	35
キーの名称	10
記憶した放送局を受信する (ラジオ)	24
記憶した放送局を呼び出す (TV)	25
曲順を変えて聴く (CD)	14
曲順を変えて聴く (MP3/WMA)	15
繰り返し聴く (CD)	14
繰り返し聴く (MP3/WMA)	16
言語設定を変更する	34
コマ送り再生	19

さ 行

再生可能なサンプリングレート・ビットレート	84
再生中止	18
再生停止	18
再生できないディスク	5
再生できるディスク	5
サイマル機能	31
サブウーハーの ON/OFF	49
サブウーハーレベル	27
サンプリングレート	85
時間差表	47

時間補正	48
時刻を設定する	38
視聴規制	35、81
視聴規制を設定する	35
自動的にチャンネルを記憶する (TV)	25
自動的に放送局を記憶する (ラジオ)	23
字幕言語	21
字幕言語の設定	35
使用状態の表示	22
ショートカット画面	13
静止	19
スクロールとは	28
スクロールの設定	38
スローモーション再生	19
操作音の切りかえ	38
ソースの呼び出し	12

た 行

対応ファイルシステム	84
対応フォーマット	84
タイトルとは	28
タイトルをつける	28
タイトル番号で頭出し (DVD)	19
タイムコレクション	48
ダイレクトメニュー操作 (DVD)	17
ダウンロード	52
タグ	85
タッチスイッチの操作について	12
タッチパネルの調整	44
タッチパネル操作振動の ON/OFF	44
チェンジャー操作 (オプション)	67
チャプター	19
テキストとは	28
ディスクサーチ	29
ディスタンスモード	23
ディスプレイ自動開閉の設定	33
ディスプレイ前後方向の調整	33
ディスプレイの角度調整	33
ディスプレイを収納する	11
ディスプレイを立ち上げる	11
ディスプレイをフラットにする	11
デジタル出力設定	36
デモンストレーション	38
10 キー入力画面表示	13
電源の ON/OFF	10
道路交通情報を受信する	27
時計を表示する	38
トップメニュー画面を表示する (DVD)	18
トラフィックインフォメーション	27
ドルビーデジタル	81

な 行

ナビゲーションモードを設定する	40
ナビゲーション音声の割込み設定	40
ナビゲーション画面に切りかえる (オプション)	66
2 画面表示	13
二重音声放送	39

は 行

背景画面を切りかえる	43
バックグラウンド	43
バックライトの明るさを設定する	43
バックライトの最低レベルを調整する	43
バックライトを OFF にする	32
パラメトリック EQ	46
バランス	27
パレンタルロック	35、81
パレンタルロックを設定する	35
表示モードを切りかえる	31
放送局を選ぶ (TV)	26
放送局を記憶する (TV)	25
放送局を記憶する (ラジオ)	23
ビットレート	85
ビデオ CD を再生する	17
フェダー	27
フォルダを選択する	15
フォントタイプの設定	44
フォントバック表示色を切りかえる	44
プレイポジションメモリ機能	17

ま 行

マニュアルモード	23
ミックス (CD)	14
ミックス (MP3/WMA)	15
ミュートの ON/OFF	11
メニュー画面を表示する (DVD)	18
メニュー言語の設定	34
メニュー操作 (DVD)	17
メニュー操作モード画面を表示する (DVD)	18
モニター設定	33

ら 行

ラジオタイトルから探す	24
ラジオモードメイン画面	12
ラジオを聴く	23
リアエンター機能	30
リアカメラの設定	41
リセットする	10
リニア PCM 音声	81
リピート (CD)	14

リピート (DVD)	20
リピート (MP3/WMA)	16
リピート (ビデオ CD)	20
リモコン受光部	10
リモコン受光部を切りかえる	30
ルートフォルダ	85
ローカルモード	23

A to Z

A.MEMO (ラジオ)	23
A.MEMO (TV)	25
A.PROC TYPE	42
AMP link の設定 (オプション)	53
AUDIO LANGUAGE	34
AUTO BACKGROUND	44
AUTO SCROLL	38
AUX IN-1,2,3	41
AUX 操作 (オプション)	66
AUX モードを設定する	41
BACKGROUND	43
Bass Engine	46
Bass EQ モードを選ぶ	46
Bass Focus の設定例	47
BASS FOCUS	47
BASS MAX EQ	46
BASS レベル	27
BEEP	38
BLACK OUT	32
BRIGHT	50
CAMERA IN	41
CD を聴く	14
CINEMA	31
CLOCK	38
CLOCK ADJUST	38
COLOR	50
CONTRAST	51
COUNTRY CODE	35
Data Download	52
DEFEAT	27
DEMONSTRATION	38
DIGITAL OUT MODE	36
DIMMER	43
DIMMER LOW LEVEL	43
DISC-IN インジケーター	10
DISPLAY セットアップ	43
Dolby PRO LOGIC II	81
DTS	81
DVD セットアップ	34
DVD について	83
DVD リージョン番号について	5
DVD を再生する	17
DVD-R/DVD-RW ディスクのご使用について	5

EXPANSION BOX	41	SYSTEM セットアップ	39
FM CONDITION	39	T.CORR	49
FONT COLOR	44	TILT	33
FONT TYPE	44	TINT	50
GENERAL セットアップ	38	TOUCH PANEL	44
HDD/MD/MS プレーヤー操作 (オプション)	65	TRF	27
HPF	49	TUNER (FM) 音質の設定	39
ID3 タグについて	84	TV スクリーン設定	37
IN INT.ICON	40	TV タイトルから探す	25
IN INT.MUTE	40	TV SCREEN	37
LEVEL	41	USER MEMORY	51
LPCM	36、81	V.SEL インジケーター	10
LPF	49	V.SEL KEY	42
M.I.X. (CD)	14	Visual Effect の設定	32
M.I.X. (MP3/WMA)	15	VISUAL EQ	50
M.I.X. ALL (CD)	14	VISUAL EQ の記憶	51
M.I.X. FLDR (MP3/WMA)	15	VISUALIZER	41
Media Xpander	45	VISUALIZER の設定	32
MENU LANGUAGE	34	VISUALIZER モード表示設定	41
MONITOR O/C	33	VISUAL の設定	42
MONITOR OUT-1 ~ 2	41	WIDE	31
MP3/WMA 再生データの設定	39	WMA タグについて	84
MP3 ディスクを作成するには	84	WMA ディスクを作成するには	84
MP3 とは?	84	WMA とは?	84
MP3 について	84	WMA について	84
MP3 を聴く	15	WMA を聴く	15
MPX	39	X-OVER	49
MUTE	11	ZOOM	31
MX	45		
NAME	41		
NAV. IN	40		
NAV. LEVEL	27		
NAV.MIX	40		
NORMAL	31		
PARENTAL	35		
PBC 機能の ON/OFF 設定 (ビデオ CD)	18		
P-EQ	46		
PLAY MODE	39		
PRE STOP	18		
PRO LOGIC	81		
REPEAT (CD)	14		
REPEAT (MP3/WMA)	16		
RPT (CD)	14		
RPT (MP3/WMA)	16		
RPT ALL (CD)	14		
RPT ALL (MP3/WMA)	16		
RPT FLDR (MP3/WMA)	16		
SCREEN ALIGNMENT	44		
SHARP	51		
SLIDE	33		
SOUND SETUP ダウンロードについて	52		
SUBT. LANGUAGE	35		
SUBWOOFER	49		

正しい取り付け
正しい操作で
安全運転

